

# 官報

號外

明治二十七年五月二十三日 水曜日 內閣官報局

## 第六回 衆議院議事速記録第六號

帝國議會 衆議院議事速記録第六號

明治二十七年五月二十二日(火曜日)午後一時十五分開議

議事日程 第六號

明治二十七年五月二十二日

午後一時開議

第一 國事ニ關スル犯罪ノ爲メ諸祿ヲ沒收セラレタル者ニ關スル法律案(政府提出)  
第一讀會ノ續(特別委員報告)

第二 綿絲輸出稅免除法律案(政府提出)  
第一讀會ノ續(特別委員報告)

第三 陸軍召集旅費支出ニ關スル法律案(政府提出)  
第一讀會

第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉  
第一讀會

第五 條約改正建議案(三崎龜之助君外一名提出)  
第一讀會

第六 郡制改正法律案(田艇吉君外五名提出)  
第一讀會

第七 府縣制改正法律案(田艇吉君外五名提出)  
第一讀會

第八 質屋取締條例改正法律案(東尾平太郎君外六名提出)  
第一讀會

○議長(楠本正隆君) 諸君、例ニ依ッテ報道致シマス

(水野書記官朗讀)

山口千代作君外二名提出ニ係ル國事ニ關スル犯罪ノ爲諸祿ヲ沒收セラレタル者ニ關スル法律案ニ關スル質問ニ對シ渡邊大藏大臣ヨリ答辯アリタリ  
衆議院議員山口千代作君外二名提出國事ニ關スル犯罪ノ爲諸祿ヲ沒收セラレタル者ニ關スル法律案ニ關スル質問ニ對シ大藏大臣ヨリ答辯書提出相成候ニ付及御迴附候也

明治二十七年五月二十二日 內閣總理大臣伯爵伊藤博文

衆議院議長楠本正隆殿

衆議院議員山口千代作君外二名提出國事ニ關スル犯罪ノ爲諸祿ヲ沒收セラレタル者ニ關スル法律案ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候也

明治二十七年五月二十一日 大藏大臣渡邊國武

衆議院議長楠本正隆殿

衆議院議員山口千代作君外二名提出國事ニ關スル犯罪ノ爲諸祿ヲ沒收セラレタル者ニ關スル法律案ニ付質問ニ對スル答辯書

國事ニ關スル犯罪ノ爲メ諸祿ヲ沒收セラレタル者ニ關スル法律案第一條ニ明治三年藩制施行ノ日ヲ以テ起算點ト爲シタルモノハ要領ヲ該法案ニ添付シタル理由書ニ掲ケ置キタルカ如ク各藩々士ノ祿秩功過ニヨリ之ヲ與奪スルノ權限明ニ中央政府ニ歸一シタル時期ヲ以テ限域ト爲シタルニ外ナラス  
右及答辯候也

明治二十七年五月二十一日

大久保端造君ヨリ宮城縣手作前地ニ關スル件ニ附政府ヘ質問書ヲ提出セラレタリ

政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

東京砲兵工廠据置運轉資本增加ニ關スル法律案

貴族院ヨリ送附セラレタル議案左ノ如シ

國庫金出納上一時貸借ニ關スル法律案

貴族院ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

狩獵法案

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

鐵道敷設法中追加法律案

提出者 井上彦左衛門君

古社寺保存ニ關スル建議案

提出者 竹村藤兵衛君

治水ニ關スル建議案

提出者 湯本義憲君外二十二名

鐵道敷設法中改正法律案

提出者 坂本理一郎君

特別委員長及理事左ノ通り當選セラレタリ

田畑地價特別修正法律案

審查特別委員長

古物商取締條例改正法律案

審查特別委員長

市制中東京市、京都市、大阪市ニ設ケタル特例廢止法律案外一件

審查特別委員長

同理事

一特別委員左ノ通り指名セリ

軍用電信條例法律案審查特別委員

西村眞太郎君

秋山忠夫君

鎌田榮吉君

帝國醫科大學ニ於ケル腦脊髓病治療ニ關スル建議案審查特別委員

依田道長君

佐竹正詮君

永田吉右衛門君

栗谷品三君

柏田盛文君

梅田五月君

角田眞平君

土居通夫君

森東一郎君

前川慎造君

木村誓太郎君

東尾平太郎君

影山秀樹君

田中源太郎君

中山平八郎君

武石敬治君

淺香 克孝君 武市 彰一君 長谷川 泰君  
山田 嘉穀君 大岡 育造君 古莊 嘉門君  
島田 三郎君 工藤 行幹君 神鞭 知常君  
輸入棉花關稅免除法律案審查特別委員  
木村 哲太郎君 佐々木 正藏君 中山 平八郎君  
岡 精 逸君 長谷 場純孝君 渡部 芳造君  
加藤 政之助君 神鞭 知常君  
地租條例改正法律案審查特別委員  
水暮 武太夫君 小笠 原定一君 西村 禮作君  
森 清 藏君 加藤 六藏君 大野 龜三郎君  
淺野 順平君 須田 萬右衛門君 初見 八郎君  
衆議院議員選舉法改正法律案審查特別委員  
山田 東次君 恒松 隆慶君 太田 孫次右衛門君  
高田 早苗君 高井 幸三君 小林 樟雄君  
柳 喜洋芽君 倉知 伊右衛門君 稻垣 示君  
一特別委員左ノ通り當選セラレタリ

府縣監獄費及府縣監獄建築修繕費國庫支辨ニ關スル法律案審查特別委員  
重野 謙次郎君 和田 彦次郎君 足立 孫六君  
森本 確也君 坂本 理一郎君 蒲生 仙君  
魚住 逸治君 秋岡 義一君 山田 泰造君

(左ノ質問書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)  
質問主意書

- 一 舊仙臺藩ニ於テ其領内各郡村居住ノ家臣及陪臣ニ給與セル知行地ノ中  
手作前又ハ奉行入前ト稱シタル地所ハ明治二年己ノ正月二月ノ兩度政  
府同藩ノ稟議ヲ容納シ各所持ノ士卒ヲシテ其土地ノ租稅ヲ納官シ土地ハ  
其儘所有シテ歸農セシムルコトヲ聽許シ爾來明治四年頃マテ聽許ノ如ク  
實行セリ然ルニ角田縣管轄ノ部ハ明治三年庚午三月二十八日同縣廳令達  
ヲ發シ歸農者其儘自作スルノ謂ナシトテ其土地ヲ沒收セリ右沒收ノ處分  
ハ政府ノ命令ニ因ルヤ又ハ角田縣廳限リノ處置ナリヤ
- 二 若シ政府之ヲ命令シ又ハ許可シタルモノナラハ政府曩キニ仙臺藩ノ稟  
議ヲ裁可シ且爾來兩三年間歸農者ニ納租所有セシメ置キタル前議ニ反異  
スルハ何故ナリヤ
- 三 仙臺藩削封ノ當時涌谷縣及水澤縣等ノ管轄ニ屬シタル部ニ在テハ右手  
作前地ハ政府裁可ノ如ク終始歸農者ノ所有地タリ然ルニ角田縣管轄ノ部  
ニ限リ前議ニ反異シ沒收ノ處分ヲ行ヒ彼此其取扱ヲ特ニシタルハ其理由  
如何
- 四 角田縣沒收ノ土地ハ同縣廳及宮城縣廳ニ於テ更ニ二石四石六石ノ三等  
ニ區別シ各歸農者ノ沒收セラレタルモノニ割渡シタル分ヲ除外其餘ノ  
土地ハ一般ノ人民ニ割渡シ又ハ拂下若クハ各村學校等ノ資本ニ供シタリ  
此處分モ亦政府ノ命令ニ出タリヤ又ハ縣廳ノ專裁ナリヤ
- 五 右一般人民ニ割渡シ又ハ各村共有ニ下渡シタルハ有償ナリヤ無償ナリ  
ヤ右議院法第四十八條ニ依リ質問ニ及候間至急答辯アラント望ム

○議長(楠本正隆君) 是ヨリ會議ヲ開キマス——大久保端造君ハ質問ノ理由  
ヲ述ベラレマス

(大久保端造君演壇ニ登ル)

○大久保端造君(二百七十二番) 諸君、私ハ舊仙臺ノ家臣デゴザイマシテ片  
倉小十郎、石川源太、伊達藤五郎、外四五千名ノ士族ノ所有ニ係ッテ居リマシ  
タル所ノ手作前ト稱スル地面ヲ縣廳ニ於テ取上ゲマシタル顛末ニ就キマシテ政  
府ニ質問ヲ致ス理由ヲ一應簡單ニ申述ベヤウト考ヘマス、暫時御清聴ヲ煩ハ  
シタイコトデゴザイマス、デ此事ニ就キマシテハ誠ニ古ルメカシイユナ事  
柄ニアリマスガ、手作前理由ヲ一應申上ゲタイト存ジマス、御承知ノ如ク舊  
仙臺ハ磐城陸前陸中ノ三箇國中ニ於キマシテ二十一郡ヲ所持致シテ居ル、其  
家臣ハ領内郡村ニ住居セシメテ家祿ニ換ヘルニ土地知行ヲ給與致シテデゴザイ  
マスノデゴザイマス、ツレニ二種デゴザイマシテ一ヲ百姓前ト稱シ、他ノ一ヲ  
手作前ト稱シマシテ、其百姓前ト云フノハ農民ノ使用耕耘ニ任セテ、唯士族  
ハ地頭トシテ、一ツノ地頭トシテ租稅ヲ徵收シ來ツタモノデゴザイマス、之  
ニ反シテ唯今質問ヲ要シマスル所ノ手作前ノ地面ハ士族自ラガ耕耘シ、士族  
自ラ開拓ヲ致シマシテ使用收益ノ權利ト云フモノハ盡ク士族ノ手ニ收メテ居  
リマシタルデゴザイマス、是ガ由來ヨリ繹ヌルニ往時慶長元和ノ頃ニデゴザイマ  
シテ右仙臺ノ地方ハ土地頗ル廣ク、人民甚ダ稀ニシテ、仙臺藩ハ多ク家臣ヲ  
養フベキ家祿ヲ與ヘテ多クノ家臣ヲ養フベキコトガ出來ナカッタノデゴザイ  
マス、ツレ故ニ荒蕪ノ地ヲ各家臣ニ割當テマシテ自費ヲ以テ開拓ヲシ、自費  
ヲ以テ耕耘サセルト云フ方針ヲ取リマシテ、所謂土著サセルヤウナ姿ニ致シ  
テ置イタルデゴザイマス、倍テ是故ニ今日ニ於キマシテモ此部分ニ就イテハ  
手作前ト名稱ガアルノデゴザイマスガ、然シテ此手作前ニ關スル部分ニ就キ  
マシテハ是等ノ士族ト云フモノハ一面ニ於テハ地頭タルノ權利ヲ有スルト同  
時ニ、他ノ一面ニ於テハ又地主タルノ資格ヲ有シテ居リマシタルデゴザイ  
マス、然ルニ明治初年ニ御承知ノ如ク該藩ノ方向ヲ誤リマシタルニ澤山  
ニ祿高ヲ削ラレマシタル、所領ノ中五郡ト云フモノヲ明治ノ初年ニ削ラレマ  
シタル、此削減ノタメニ多數ノ士族ヲ本藩ノ方ニ引取ッテ養フコトハ愈々  
出來ヌト云フ場合ニ至リマシタルカラシテ、本藩、時ノ執政ヨリ太政官ニ請  
願ヲ致シマシテ此手作前ヲ是等ノ士族ニ分ケ與ヘルコト、シテ、歸農セシム  
ル方法ヲ取ツタノデアリマス、然ルニ當時太政官ニ於キマシテ之ヲ採用シテ  
明治四五年迄是等ノ者ガ歸農シテ此地面ヲ耕シ生活ヲシテ居リマシタルニ、  
明治五年ノ頃ニナリマシテ角田縣廳ガ故ナク之ヲ取上ゲタノデゴザイマス、  
此四五千人士族ノ手作前ヲ細カニ調べマスレバ非常ノ額ニ達シマセウ、ケレ  
ドモ其中ノ片倉小十郎、石川源太、伊達藤五郎三名ノ分ヲ取調ベテ質問スル  
コトニ致シマシタルデゴザイマス、此片倉ノ手作前地デモ六百六十町五  
段步ゴザイマシテ、石川源太ノ取分ニ係リマスルノハ千五百九十四段八畝二  
十四步ト云フ大キナモノデアリマス、伊達藤五郎ノ分ハ七百四十五町四段八  
畝二十一步ト云フ高ニ達シマスノデゴザイマス、而シテ此手作前ヲ取リマ

提出者 大久保端造  
賛成者 板倉 中  
外三十一名

シタ所ノ處分ハ片倉、石川、伊達ノ三名、竝ニ舊仙臺藩中ノ四五千人ノ士族ヲシテ今日甚ダ不幸ナル地位ニ立タシメテ、殆ド衣食ニモ窮スルト云フ様ナ實ニ憐ナル有様ニ至ラシメタノデゴザイマス、而シテ政府ガ之ヲ取上ゲマシタノハ何カ是等ノ士族ニ犯罪トカ或ハ其他ノ事柄ガアツテ取上ゲタカト云フニ、決シテサウ云フ譯デハゴザイマス、又法律規則ノ執行ニ依ツテ之ヲ正當ニ取上ゲタカト云ヘバ是亦左様デモゴザイマス、全ク法律ニ背反スル所ノ不當行爲ヲ以テ取上ゲタカト云フコトハ實ニ疑ノナイ事實デアリマス、故ニ私ハ此救済ノ道ヲ講ズルガタメニ先ヅ以テ第一ニ政府ニ質問ヲ試ミヤウト考ヘテ居ルノデゴザイマス、而シテ其質問ノ要領ハ、シク申上グルノモ甚ダ長クナリマスルカラ、丁度第一點ヨリ第五點マデゴザイマスガ便宜上之ヲ私ハ朗讀ヲ致シテ御聽ヲ願ヒタイト考ヘマス

一 舊仙臺藩ニ於テ其領内各郡村居住ノ家臣及陪臣ニ給與セル知行地ノ中手前又ハ奉行人前ト稱シタル地所ハ明治二年己巳ノ正月二月ノ兩度政府舊藩ノ稟議ヲ容納シ各所持ノ士卒ヲシテ其土地ノ租稅ヲ納官シ土地ハ其儘所有シテ歸農セシムルコトヲ聽許シ爾來明治四年頃マテ聽許ノ如ク實行セリ然ルニ角田縣管轄ノ部ハ明治三年庚午三月二十八日同縣廳令達ヲ發シ歸農其儘自作スルノ謂ナシトテ其土地ヲ沒收セリ右沒收ノ處分ハ政府ノ命令ニ因ルヤ又ハ角田縣廳限リノ處置ナルヤ

二 若シ政府之ヲ命令シ又ハ許可シタルモノナラハ政府曩ニ仙臺藩ノ稟議ヲ裁可シ且ツ爾來兩三年間歸農者ニ納租ヲ所有セシメ置キタル前議ニ反違スルハ何故ナルヤ

三 仙臺藩割封ノ當時涌谷縣及水澤縣等ノ管轄ニ屬シタル部ニアツテハ右手作前地ハ政府裁可ノ如ク始終歸農者ノ所有地タリ然ルニ角田縣管轄ノ部ニ限リ前議ニ反違シ沒收ノ處分ヲ行ヒ彼此其取扱ヲ殊ニシタルハ其理由如何

四 角田縣沒收ノ土地ハ同縣廳及宮城縣廳ニ於テ二石、四石、六石ノ三等ニ區別シ各歸農者ノ沒收セラレタルモノニ割渡シタル分ヲ除ク外其餘ノ土地ハ一般ノ人民ニ割渡シ又ハ拂下若クハ各村學校等ノ資本ニ供シタリ此處分モ亦政府ノ命令ニ出テタリヤ又ハ縣廳ノ專裁ナリヤ

五 右一般人民ニ割渡シ又ハ各村共有ニ下渡シタルハ有償ナリヤ無償ナリヤ

質問ノ要領ハ以上ノ五點デゴザイマス、甚ダ貴重ノ時間ヲ煩ハシマシタ

○議長(楠本正隆君) 小松三省君

(小松三省君演壇ニ登ル)

○小松三省君(二百九十九番) 私ハ請願委員長トシテカラ委員會ノ經過ヲ御報道致シタイト思ヒマス、請願委員會ハ五月十七日ニ委員長及理事ノ互選ヲスルガタメニ集會致シマシテ互選ノ結果、委員長小松三省、理事濱名信平君、同シク小島相陽君、同シク高木貞正君ト云フコトニ極リマシタ、サウシテ五月十九日ト本日ト此兩日委員會ヲ開キマシテ委員會ハ兩度ニ開會ニナリマシタ、サウシテ本日ノ委員會總會ニ於テ決議シマシタノハ院議ニ附スベキモノデアルト云フ決議ヲシタ請願事件ガ地租引當米過剩金下渡ノ件一通、懲

戒解除ノ件一通、之ガ院議ニ附スベキモノトシテ決議ヲシタモノデゴザイマス、サウシテ特別委員會ヘ參考トシテカラ回送スベキモノデアルト云フコトノ決議ヲシタノガ二十四年度未納地租延納ノ件百二十三通、質屋取締條例ノ件六通、此二事件デゴザイマス、サウシテ參考トシテ政府ヘ送付スベキモノデアルト云フ決議ヲシタノガ千島樺提島間電線架設ノ件一通、朝鮮貿易港開設ノ件一通デゴザイマス、サウシテ報告ヲセシナラヌコトニナツテ居リマス、本日ハ其文書表モ作リマシテカラ議長ノ手許ヘマデ差出シテ置ク積リデスカラ、何レ印刷ニナツタナラバ御配布ヲスル都合ニナルダラウト思ヒマス、先ヅ是ダケノモノヲ報告ヲ致シテ置キマス

○議長(楠本正隆君) 第一ノ議事日程ニ移リマス

第一 國事ニ關スル犯罪ノ爲メ諸祿ヲ沒收セラレタル者ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員長報告)

○議長(楠本正隆君) 江原素六君

(江原素六君演壇ニ登ル)

○江原素六君(二百三十四番) 諸君、國事ニ關スル犯罪ノタメ諸祿ヲ沒收セマシタルモノニ關スル法律案ノ審查特別委員會ノ經過ト及結果ヲ御報道申上ゲマス、此案ニ附キマシテ委員長ニハ江原素六ガ當選ナリマシテ、理事ニハ加賀美嘉兵衛君ガ當選ニナリマシタモノデ、殊ニ同委員會ノ中ニハ前回ノ時分ニ四議會以來屢々調査ヲ遂ゲマシタモノデ、殊ニ同委員會ノ中ニハ前回ノ時分ニモ特別委員トシテ審查ノ勞ヲ取ラレタ御方モゴザイマシテ十分ニ調査ガ屆キマシテアルコトニ極リマシタアリマス、同時ニ御參考ノタメニ申シマスコトハ贊成スルコトニ極リマシタアリマス、同時ニ御參考ノタメニ申シマスコトハ請願委員會ニハ澤山種々様々ナル復祿ノ請願ガ出テ居リマス、讀ンデ見マスレバ隨分氣ノ毒ナモノモアリマス、憫哀スベキモノモアリマスケレドモ、何シロ十分ナ確乎タル調査モ未ダ出來ズ、其人員モ日本全國ニ於キマシテドノ位アルカ分ラズ、隨ツテツレニ對スル費額ト云フモノモ一向ニマダ分リマセヌノデゴザイマス、之ヲ政府委員ニ尋ネマシテ未ダ政府ニ於キマシテモ十分ニ調査ガ出來テ居ラスト云フコトデゴザイマス、故ニ其等ノ曖昧ナルモノハ何分本院ニ於テ議スル譯ニモ參リマセヌカラ、此案ニアリマスル通リ國事ニ關スル犯罪ノタメ諸祿ヲ沒收セラレタル者ハ司法省又ハ大藏省等ノ帳簿ニ據ツテ明瞭ニ分ツテ居リマスル故ニ其レヲバ先キニ可決ヲシマシテ當議會ノ中ニ尙ホ之ニ對スル追加豫算ヲバ政府ニ提出スルヤウニ請求シタイト云フノガ特別委員會ノ希望デゴザイマス、サウシテ御報道致シマス

○大村和吉郎君(二百七十八番) 委員長ニ質問ガアル、第一條ニ金祿公債證書ノ金額ノ大體ガ御調査ニナツテ居リマスカ

○江原素六君(二百三十四番) 大體ガ先ヅ六十萬圓前後デゴザイマス

○大村和吉郎君(二百七十八番) 了解致シマシタ

○野出鎬三郎君(二百六十六番) 一寸質問ガアリマス、政府委員ガ御出デアリマスカ、政府委員ニ質問シタイノデスガ、宜シウゴザイマス、此第一條デゴザイマスガ國事ニ關スル犯罪ノタメト書イデゴザイマスケレドモ、第四條等ヲ見マスレバ性質上カラ云フト必ズ國事犯ト云フベキモノデナイヤウナ

モノモ這入ッテ居ルヤウニ見エル、サウシマスルト云フト必シモ國事ニ關スル犯罪ノタメニ家祿ヲ沒收セラレタルモノニ給スルノミ止ラナイヤウニ見エマス、明治三年カラ明治九年ニ至ル間ニ於テ北海道函館邊ニ於テ當時ノ土族トシテ外國人ガ無禮ヲ加ヘタト云フヤウナ者ノタメニ之ヲ殺害シタト云フテ、遂ニ死刑ニ處セラレテ家祿ヲ沒收セラレタルモノモアリマス、或ハ外國公使館外國公使ニ向ッテ何カ無禮ガアルトカト云フノデツレニ向ッテ何カヤツタノデ、ツレガ處分セラレタルモノモアルヤウニ開イテ居リマス、又縣廳ノ處分上ニ就イテ不平ガアツタ、縣廳ニ迫ツタメニ家祿ヲ沒收セラレタルモノモアルト云フコトヲ聞イテ居リマス、是等ノ如キハ此法律ニ依ッテカラ金祿公債證書ニ相當スル所ノ金額ヲ下付セラレナイト云フ御見込デゴザイマスカ、ドウデゴザイマスカ、之ヲ一ツ伺ヒタイ、ツレカラモウ一ツハ第三條ト第四條ヲ見マスルト云フト、第四條ニ書イテアル所ノ刑法ノ各條項ノ罪ト同視スベキ所ノ認定ヲ經テ、サウシテ之ヲ證明書トシテ出シ、其證明ニ依ッテカラ此金祿ヲ下附セラレルト云フコトニナツテ居リマスルガ明治三年頃ハ新律綱領改定律令ト云フモノモナクシテ丁度舊藩ニ於テ處分シテアル場合ガアリマス、尤モ府縣ヲ置カレタ場所モアリマスケレドモ、舊藩ノアル場合ニハ矢張舊藩ノ制裁ヲ受ケテ居リマスルガ、果シテ舊藩ニ於テ制裁ヲ受ケタモノガアルナラバ、ツレ等ノ書類ハ現ニ今官廳ニ保存セラレテゴザイマセウカ、ドウデゴザイマセウカ、則チ此證明ヲ得ルニハ十分證明ヲ得ルコトニナツテ居ルノデゴザイマセウカ、ドウデゴザイマセウカ、此事ヲ一言質問ヲ致シタ

(政府委員大藏省國債局長會根靜夫君演壇ニ登ル)

○政府委員(會根靜夫君) 二百六番ノ御問ニ御答致シマスガ、最初ノ御問ノ此第四條中ニハ國事犯罪ニ關セヌ罪モ這入ッテ居ルヤウニ見エルカドウカ斯ウ云フ御問デアリマスガ、如何ニモ此第四條ニ書列ベテアリマスル條項中ニハ現行ノ刑法デ云ヒマス國事犯罪デナイ者モアリマスケレドモ、此第四條ニ書イテアリマス通リ、此法律ニ於テ國事ニ關スル犯罪ト云フモノハコレノ者ヲ指スノデアル、ト斯ウ云フコトニナツテ居リマス重ニ是ハ御參考ノタメニ申シマスルガ、大赦令ニ遇フタ犯罪ニ依リマシタノデゴザイマスカ、ツレカラ其次ノ御問ニナリマシタ犯罪者ハ明治三年以前ノモノデアリマスカ、モウ一度藩制施行以前デスカ

○野出鎬三郎君(二百六番) 明治三年後デゴザイマス、丁度廢藩置縣ト云フノガ明治四年七月十四日藩ヲ廢シテ縣ヲ置クト云フコトノ布告ニナツテ居ルト心得テ居リマス、サウ致シマスルト明治三年ハマダ廢藩置縣ニナラナイ前デアツタコト、考ヘル、舊藩ニ於テ其際ハ處分シテアルト云フコトニ考ヘテ居リマス、此法律ヲ見マスレバ明治三年ノ九月十日太政官布告ガアツタ時カラト云フコトニナツテ居ル

○政府委員(會根靜夫君) 藩制施行以後ノ犯罪デアリマスレバ唯今仰シヤツタ犯罪者ト云フモノガ這入リマスカ這入リマセヌカハ第三條ノ裁判所ガ證明ヲシマシテ其時ニ始テ分ルノデアリマシテ、果シテツレハ此第四條ニ書列ネテアリマスル條項ニ當タルモノトシマシタナラバ、裁判所ハ證明ヲ與ヘマセウ、是ニ這入ラヌモノトシマシタナラバ裁判所ハ證明ヲ與ヘヌノデゴザイマセウ、今日ノ所デハ唯今御問ニナリマスヤウナ犯罪者ガ第四條中ニ這入ルカ

這入ラヌカト云フコトハ本員ハ少シ明答シ兼ルノデアリマス

○野出鎬三郎君(二百六番) 唯今ノ御答ニ就イテ大層質問致シテ置キタイ、是ハ第一ノ御答中ニハ刑法ニ依ッテ國事犯罪ノミデナイモノモアルト云フコトハ成ル程ゴザイマスと思ヒマス、大赦令ニ依ッタルト云フコトガ御言葉中ニゴザイマシタガ、大赦令ニ依レバ國事犯罪以外ノモノデ則チ曩ニモ申マシタ通り兇徒囑集罪ノ如キ斯ウ云フ者モ大赦令ニ依ッテ大赦ニナツテ居リマス、ツレカラ又先キニ第一ニ申シマシタ外國人ガ無禮デアルト云フテ殺害シタ如キ全ク常事犯罪トモ見エルケレドモ、性質カラ見マスレバ違フヤウデアリマス、全ク其當時ノ土族ノ考デハ外國人ガ日本ニ對シテ無禮ヲ加ヘタト云フ考カラ國家ニ盡スト云フ意ヲ以テ殺害致シタモノデアアル、而シテ是等ノ如キガ死刑ニ處セラレテ家祿ヲ沒收セラレタルアルガ、ツレ等ノ如キハ政府ニ於テ此公債證書ニ相當スル所ノ金額ヲ與ラレナイノデアアルカ、ドウカト云フコトデ質問致シマス

○政府委員(會根靜夫君) 尙ホ御答致シマスガ、第四條ニ書列ネテアリマスルノハ重モニ大赦令ニ當リマシタ其罪犯罪ノ條項ガ掲ゲテアリマスノデゴザイマスガ、御説ノ通り大赦令ニハ兇徒囑集罪モ這入ッテ居リマスケレドモ、此第四條中ニハ洩レテ居リマスルト云フヤウナコトデアリマス、先ヅ重ニ第四條中ニ書列ネテアリマスノハ大赦令ニ浴シマシタ者ノ罪犯罪ニ依ッテ居リマスノデゴザイマス、併シ殘ラズトハ申シマセヌ、重モニ依ッテ居リマス、デ國事ニ關スル罪デナイモノモ此中ニ這入ッテ居ルト云フ疑ハ御尤デアリマス、ツレ故ニ法案ニ於テ國事ニ關スル犯罪ト云フモノハ是ダケデアルト云フコトヲ第四條ニ申シテ置キマシタ、ツレハ外國人云々ト云フコトニ至リマシタハモウ一ツ裁判所ガ證明シテ見マセヌケレバ果シテ第四條中ニ這入ルヤ否ヤト云フコトハ本員唯今此處デ明答シ兼ネマス、モウ一ツ何カ御問ガアリマシタナ、最終ニ……

○野出鎬三郎君(二百六番) 最終ニ別ニ御問ハゴザイマセヌケレドモ、ドウモ御答デ私ハ了解シ難イデゴザイマス、實ハ兇徒囑集ノ如キ縣廳ニ向ッテ、諸リ縣廳ノ處置ガ惡イト云フヤウナコトデ迫ッタルト云フヤウナコトデ、家祿ヲ沒收セラレタ、サウ云フ者ニ吳レル積リデアアルドウデアアルカ、則チ政府ノ御考ヲ承ハリタイト云フノデゴザイマス

○政府委員(會根靜夫君) 其御考ハ第三條ノ裁判所ニ證明ヲ受ケニ出マシタ時分ニ第四條ノ玆ニ書イテアリマスル條項ニ當ルト、裁判所ガ證明ヲ與ヘマシタラバ……

○野出鎬三郎君(二百六番) 固ヨリ條項ニ書イテナイ、サウシマスルト兇徒囑集ノ如キモノニハ吳レナイト云フ政府ノ御見込デアリマスカ

○政府委員(會根靜夫君) 左様デゴザイマス

○東尾平太郎君(二百三十一番) 一寸質問ガシタイ、凡ソ下附セララル、人員ハ何程デゴザイマスガ、又何縣ノ人デゴザイマスガ、其邊ヲ承ハリタイ、ツレカラ金額ハ幾ラ、此金額ハ金祿公債證書ニ相當スル金ヲ一時ニ下ゲルト云フノデアリマスガ、其財源ハ通常歳入ヨリ之ヲ出スカ、剩餘金デ支出スルカ、之ヲ承ハリタイ

○政府委員(會根靜夫君) 二百三十六番ニ御答致シマスガ、此人員ハ、極概略ナモノ……其精確ナモノハ他日法案ノ第三條ニ據リマシテ裁判所ノ證明ヲ受

ケテ出テ來ナケレバ分リマセヌ、此處デハ概略ヲ申上ゲテ置キマス、エー長崎縣ガ六八、佐賀縣ガ三百十八人、山口縣ガ四十二人、熊本縣ガ二十九人、福岡縣ガ百六十三人、先ツ概略是デゴザリマス、此外ニマダ藩制施行カラ明治九年マデノ間ニ國事犯ト認ムル者ガアルダラウト云フ政府ハ考ヘガアルノデスガ、果シテ有ルカナイカハ裁判所ノ證明ヲ受ケテ出マセヌケレバ分リマセヌ、金額ノコトハ先刻委員長カラ御聽ニナリマシタ通六十萬内外ト云フモノデス、ソレカラ財源ハ明治二十七年ノ歲計中カラ是丈ノモノハ計畫ヲ立テ、政府ハ出ス積デアリマス、剩餘金ノ中カラ

○議長(楠本正隆君) 例ニ依ッテ決議ヲ採リマス、該案ニ對シ二讀會ヲ開クニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 多數

○議長(楠本正隆君) 大多數

○折田兼至君(五十五番) 直ニ二讀會ヲ開クコトヲ希望致シマス(贊成贊成ノ聲起ル)

○議長(楠本正隆君) 直ニ二讀會ヲ開クベシト云フ五十五番ノ說ニ就イテ決議ヲ採リマス(異議ナシノ聲起ル)朗讀ハ省略致シマス(原案異議ナシノ聲起ル)

### 第一 國事ニ關スル犯罪ノ爲メ諸祿ヲ沒收セラレタル者ニ關スル法律案(政府提出)

○吉本榮吉君(二百二十三番) 二讀會ニハ素ヨリ異議ハアリマセヌカラ、直ニ三讀會ヲ開イテ確定スルコトヲ希望シマス(贊成々々ノ聲起ル)

○議長(楠本正隆君) 然ラバ直チニ三讀會ヲ開クヤ如何ノ決議ヲ採リマス、三讀會ヲ開クニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 多數

○議長(楠本正隆君) 多數二百二十三番ノ直ニ三讀會ヲ開クニ異議ガゴザリマセヌカ(異議ナシト呼フ者アリ)直ニ三讀會ヲ開キマス

### 國事ニ關スル犯罪ノ爲メ諸祿ヲ沒收セラレタル者ニ關スル法律案(政府提出)

○議長(楠本正隆君) 朗讀ヲ省キマス(原案異議ナシト呼フ者アリ)然ラバ全部決定セラレタルモノト認メマス——第二ニ移リマス——栗原亮一君

### 第二 綿絲輸出税免除法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(特別委員)

○栗原亮一君(百九十一番) 綿絲輸出税免除法律案ノ特別審査ノ報告ヲ致シマスル、本案ハ昨日審査ヲ終リマシテゴザリマス、此案ハ前議會ニモ衆議院ヲ通過致シマシテ貴族院ニ在ル間ニ解散ノタメニ又再ビ此衆議院ヘ出タ譯デアリマスルガ、此案ハ至ッテ事柄モ簡明ニアリマシテ昨日審査シマシタ所ヲ大體御報告ヲ申スノデアリマス、其輸出税ノ金額ハ二十三年ヨリ輸出ヲ支那等ニ向ッテ計リマシテ二十三年ノ輸出ノ金額ハ二千三百六十四圓デアリマシテ、其税額ガ百十八圓デアリマス、二十四年ニハ七千八百七十三圓ノ輸出價額デアリマシテ、税額ハ三百九十三圓デアリマス、二十五年ハ七千七百二十圓ノ輸出價額デアリマシテ輸出税額ガ三百八十六圓、二十六年ガ輸出價額

ガ五萬九千七百七十六圓、税額ガ三千二百八十二圓、此税額ハ誠ニ未ダ僅ナモデアリマスル、而シテ此綿絲ハ今ヤ支那ニ向ッテ輸出スル所ノ見込ガ大ニアリマシテ英國ヨリ支那ニ向ッテ輸入スル所ノ綿絲ハ明治二十三年ニハ百七十九萬七千七百七十六圓、然ル所ガ明治二十四年ニ至リマシテ大ニ英國ヨリ支那ニ向ッテ輸入スル所ノ綿絲ガ減少シマシテ九十八萬七千七百七十六圓五分バカリノ減少ニナリマシタ、又印度ヨリ支那ニ向ッテ輸入スル所ノ綿絲ハ明治二十五年ニハ二千二百五十萬圓ニ至リマシテ、二十六年年ニ至ッテハ千六百八十萬圓ニ至リ、凡ソ二割一分バカリモ減少シタ居ルデアリマス、斯ノ如ク英國ナリ印度ナリ支那ニ向ッテ輸入ノ減少シタル重モナル原因ハ此金銀貨變動ノタメデアリマシテ、英國ト近來又金貨國トナツタル所ノ印度、此等ノ國ニ於テハ其製品ハ大ニ價ヲ増シタノデアリマス、故ニ支那地方ニ向ッテ輸入額ガ大ニ減少シタノデアリマス、今ヤ我銀貨國ハ此際ニ於テ大ニ支那ニ輸出ヲ致シマシタナラバ綿絲ノ販路ト云フモノガ大ニ望アリ、最モ好機會ニ臨ンデ居ルデアリマス、然ルニ日本ヨリ綿絲ヲ支那ニ向ッテ輸出セントスルナラバ、三重ニ税ガ掛ッテ居ルデアリマス、重ニ日本ノ紡績ハ外國ヨリ其原料ヲ取ッテ此原料ニモ輸入税ガ掛ル、又輸出ヲスル時分ニモ內國ノ輸出税ヲ拂ヒ、又支那ニ輸入スル時分ニモ又支那ノ税關ニ於テ税ヲ拂ハナケレバナリマセヌ、英國印度等ノ如キハ原料ニ税モナク又輸出ノ税モナク之ヲ支那地方ヘ入レル時分ニ税ヲ拂フバカリデアリマス、彼ハ一ノ税デアアル、日本ノハ三重ニ税ヲ帶ビテ居ルト云フヤウナ困難アルガタメニ、此望アル所ノ輸出ヲ熾ニスルコトガ出來ナイ有様デアリマス、斯ノ如キ所ノ理由ヲ以チマシテカラニ本案ハ特別委員會ニ於テ全會ノ一致ヲ以テ可決致シタデアリマス

○議長(楠本正隆君) 九十八番ハ讀會ヲ省略シテ直チニ確定議トシタイト云フノデゴザリマス

○議長(楠本正隆君) 決ヲ採リマス、九十八番ノ讀會省略ニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 多數

○議長(楠本正隆君) 大多數、三分ノ二以上ノ贊成ガアリマス、直チニ確定議ヲ採リマス

○議長(楠本正隆君) 御異議ガナケレバ確定セラレタモノト認メマス——次ノハ第三ニ移リマス

○議長(楠本正隆君) 朗讀ヲ致シマス

第三陸軍召集旅費支出ニ關スル法律案(政府提出)

○議長(楠本正隆君) 朗讀ヲ致シマス

○議長(楠本正隆君) 御異議ガナケレバ確定セラレタモノト認メマス——次ノハ第三ニ移リマス

○議長(楠本正隆君) 朗讀ヲ致シマス

第三陸軍召集旅費支出ニ關スル法律案(政府提出)

○議長(楠本正隆君) 朗讀ヲ致シマス

第三陸軍召集旅費支出ニ關スル法律案(政府提出)

○議長(楠本正隆君) 朗讀ヲ致シマス

第三陸軍召集旅費支出ニ關スル法律案(政府提出)

○議長(楠本正隆君) 朗讀ヲ致シマス

第三陸軍召集旅費支出ニ關スル法律案(政府提出)

○議長(楠本正隆君) 朗讀ヲ致シマス

戰時若クハ事變ニ際シ召集スル在郷ノ陸軍下士卒及兵役義務アル者竝ニ之ヲ引率スヘキ市町村吏員ニ支給スヘキ旅費ニ付テハ各市町村長ヲ出納官吏トシ現金仕拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

○政府委員(兒玉源太郎君) 議長

○議長(楠本正隆君) 兒玉君

(政府委員陸軍次官兒玉源太郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(兒玉源太郎君) 爰ニ提出ニナリマシタ 召集旅費ノ支給方ノ件、是ハ是マデノ方法ニ依リマスルト出師ノ令ガ出マスルト同時ニ陸軍大臣ハ大藏大臣ニ此旅費支給ヲ請求シマス、サウスルト大藏大臣ハ臨時支出ノ手續ニ依リマシテ裁可ノ後各師團長ニ支拂命令ヲ發シマス、各師團長ハ部下ノ旅團長若クハ大隊區司令官等ノ手ヲ經テ支拂命令ヲ發シマスル故ニ、非常ナ手數ヲ要シマス、ソレデ凡ソ本人ガ此旅費ヲ受領スルマデニ多イノハ二日半日モ時ヨリ二十四時間内ニ出發シナケレバナラスト云フ制限ガアリマス、實際ハ其事ガ行フコトガ甚ダ難イト云フコトガ生ジマシタノデゴザリマス、ソレ故ニ此手數ヲ省略シテ成ルタケ迅速ニ其旅費ヲ受取ルコトガ出來ル手段ヲ取ルタメニ此法律ノ必要ヲ生ジマシタ譯デゴザリマス

○議長(楠本正隆君) 御質問ガナカラシケレバ第四ニ移リマス

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○吉本榮吉君(二百三十三番) 是ハ議長ノ指名ニシテ九名ノ委員ヲ選定スルコトニ望ミマス

(贊成々々ノ聲起ル)

○議長(楠本正隆君) 九名ノ委員デ議長指名ト云フニ異議ガナケレバ可定セラレタモノト認メテ宜シウゴザリマス

(異議ナシ異議ナシノ聲起ル)

○議長(楠本正隆君) 然ラバ其通りニ決シマシタ——次ハ第五條約改正建議案ニ移リマス

第五 條約改正建議案(三崎龜之助君外一名提出)

○議長(楠本正隆君) 朗讀致シマス

(町田書記官朗讀)

條約改正建議案

條約改正ノ急務タル取テ言フ待タズ從來外政ノ局ニ當ルモノ幾回カ蹉跌ヲ重ネ今日ニ至ルマテ未タ其成效ヲ見サルハ國民ノ共ニ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ政府ハ宜シク第四議會ニ於テ衆議院ノ上奏シタル主旨ニ由リ急速ニ其ノ改正ヲ遂行ス可シ若シ夫レ列國交渉ノ間ニ於テ對等條約ノ訂結ヲ肯セサルモノアラハ政府ハ之ニ對シテ斷然タル處置ヲ施サ、ル可カラス

右及建議候也

○議長(楠本正隆君) 提出者三崎龜之助君ニ登壇ヲ促シマス

(三崎龜之助君演壇ニ登ル)  
○三崎龜之助君(四番) 曩ニ條約改正建議案ヲ提出致シテ置キマシタ、則チ小松三省君及私ノ兩名ニテ——今日其提出致シマシタ所以ノ理由ヲ一通

リ御話ヲ申シマシテ滿堂諸君ノ御贊同ヲ仰ギマスル、抑去ル明治二十五年十二月七日附ヲ以テマシテ即チ第四議會ニ於テ條約改正上奏案ヲ提出致シマシタコトガゴザリマス、明ケテ二十六年ノ何時頃デゴザイマシタカ衆議院ニ於テハ秘密會ヲ開キマシテ此上奏案ニ就キ十分ニ審議ヲ盡シマシタ末、衆議院ハ之ヲ可決シ其結果議シテ上御一人ノ御膝下ニ奏請ヲ致シマシタ次第デゴザイマス、其上奏案ノ當時提出者トナラレテ居リマス人數ハ八名デゴザリマシタ、其中本日マデ議員ノ公職ヲ繼續シテ來テ居リマスモノガ七人デ僅カ一名缺ケテ居リマス、其名前ヲ試ニ舉ゲマシタナラバ島田三郎君、尾崎行雄君、高田早苗君、川島醇君、稻垣示君、加藤平四郎君及拙者デゴザリマス、而シテ此上奏案ノ旨意ハ固ヨリ御承知デアリマセウシ、當時新聞ナドニモ明ニ書イテモゴザリマス、又理由ハ審ニ附シテゴザリマス、上奏案ノ中ニ自ラ條約改正ハ斯ク爲サナケレバナラスト云フ方針ヲ定メテアル、尙無理由ニ至ツテハ其方針ニ就キ敷衍シテ十分ニ其理由ヲ詳細ニ盡シテアルノデアリマス、特ニ上奏案ノ中ニ斯ノ如ク書イテゴザリマス

臣某等誠惶頓首謹陳衆議院ノ公議國民ノ輿論ヲ 聖聽ニ達セン曰ク治外法權ノ撤去海關稅權ノ回復沿岸貿易ノ禁止國家ノ法律ニ屬スヘキ事件ノ拒絕等ニシテ對等條約ノ締結是ナリ

是ガ則チ添クモ 陛下ハ此衆議院ノ公議國民ノ輿論トシテ御覽ニ達シタノデゴザリマス、吾々ハ此議決ヲ經テカラ後則チ畏レ多クモ 陛下ニ此事ヲ奏請シ奉ツテ今日ニ至ルマデ殆ド一年半餘ニナリマス、因テ吾々ハ今回更ニ此條約改正ノ建議ヲ提出シ政府ニ此大事業ヲ成サシメントスルヨリ之ヲ出シタノデアアル、條約改正ノ今日爲サマルベカラザルコトハ滿場ノ諸君御一人トシテ御異議ノナキ筈ノモノデアリマス、唯其方針等ニ於テ或ハ所見ヲ異ニスルカハ存ジマセウガ、既ニ其方針等ニ至リマシテハ明治二十六年ノ一月乃至二月頃ニ決定シマシタ上奏ニ審ニ書キ、竝ニ此理由ト云フモノヲ添ヘテ居リマスカラ衆議院ノ公議國民ノ輿論ト云フモノハ既ニ業ニ發表セラレテ居リマデゴザリマス、昨日デゴザリマシタカ大岡育造君ハ此條約改正ニ就イテ國民ノ輿論一ニ歸セナイト云フヤウナ御話ガアツタカノヤウニ聽取リマシタ、其ハ條約屬行案ニ附イテ歸一セシムル御話ト云フ御話デゴザリマシタガ、其以前ニ既ニ私ノ見ル所デハ其一ニ歸シテ居ラウト思フ、此衆議院ハ諸君、所謂天下ノ公議ヲ盡サシムル所デアアル、國民ノ輿論ヲ代表スル府デアアルト云フコトガ事實デアアルナラバ、條約改正ノ方針ニ附イテハ既ニ明治二十六年ニ於テ決定シ、其際ニ於テ最モ盡力セラレタルハ島田三郎君、高田早苗君、尾崎行雄君等ガ專ラ盡力セラレ、其力ニ依ツテ決定セラレテ居ルノデアアル、故ニ私共ハ一タビハ 天聽ニ之ヲ達シ、此タビハ又建議シテ一日モ早く吾々ガ希望シテ居ル所ノモノト吾々ガ表白シテ居ル所ノ方針ニ因ツテ政府ハ一日モ早く之ヲ遂ゲシメラレンコトヲ望マナケレバナラスノデアアル、故ニ此建議ヲ出シマシタ次第デゴザリマスルガ、或ハ謂フ此建議ノ中ニ就イテ列國交渉ノ間ニ於テ對等條約ノ締結ヲ肯ゼザルモノアラバ政府ハ之ニ對シテ斷然タル處置ヲ施サザルベカラズト云フ文字ガアリマスニ就イテ、如何ニモ是ハ過激デアアル、言事ハ既ニ改正上奏案ヲ提出シマシタ際ニ附シ置キマシタ理由ニハ既ニ此事モ言フデゴザリマス、對等條約ノ締結ヲ拒マバ吾々ハ時限ヲ刻シテ現行條約ノ

廢棄ヲ布告スルノ止ムヲ得ザルヲ信ズルナリト云フコトハ此提出者及當時可決ヲシテ滿堂ノ諸君ハ是認シテ居ル、固ヨリ外交ノ事ハ其當局者ノ駭引ニ任ズベキハ勿論ノコトデハゴザリマスガ、此位ノ決心ヲ持ツニアラザレバ到底此大事業ヲ遂ゲラレマセヌ、又場合ニヨリマスレバ斯ク爲スモ或ハ我國ノ條約改正ニ就イテハ斷然爲シ得ベキノ理由ヲ認ムルコトガ出來ヤウト思フ、是迄各國ノ例ニ照シマスレバ隨分條約ヲ廢棄シタ例ト云フモノハ往々アルノデアル、近クハ一千八百七十年ノ際ニ當ッテ露國ガ條約ヲ廢棄シ、又下ッテ明治十八年乃至二十年ノ頃ニ更ニ露國ハ歐羅巴諸國即チ一千八百五十六年巴里ノ條約ニ附イテ廢棄ヲ爲シタト云フヤウナ事例ガアルノデアル、併ナガラ條約ヲ廢棄スルコト云フコトハ事重大ナコトデアッテナカノ、口ニ之ヲ言フハ易ケレドモ、其局ニ當ッテ爲ス者ニアッテハ時機ヲ見大勢ヲ見テ遣ルト云フコトハ極ク必要デアアル、此等ハ茲デ彼此言フニハ及ビマセヌ、則チ爲スベキモノガ責任ヲ負フテ之ヲ爲セバ宜イノデアリマスカラ、私ハ委クハ言ヒマセヌガ、兎ニモ角ニモ此位ノ決心ヲ以テ時機到ラバ之ヲ成スベシ、其時ニ當ッテ彼レ無理ニ之ヲ拒マバ斯ル斷然タル處置ニ出ルハ止ムヲ得ザル次第デアラウト信ズルノデアリマス、而シテ更ニ進ンデ斯ノ如キ信任ノ懦弱ナル政府ニ向ッテ建議ヲ云フコトハ驚クト云フ議論モアリマセウ、——定デアリマセウ、吾々モ之ニ附イテハ多少考ヘマシタ、併ナガラ實ニ私ハ是迄ノ條約改正ノ有様ヲ言ヒマスルト、政府部内ニアッテモ民間ニアッテモ此大事業ヲ遂ゲルコトヲ望ムニハ違ヒナイガ、諸君内輪ノ折合ノタメニ——不折合ノタメニ此大事業ヲ遂ゲタト云フコトガ度々アリマシタ、眞ニ國家ヲ思フモノナラバ此大事業——大問題ニ就イテ事ヲ遂ゲシムル以上ハ國民ガ協同一致シテ其局ニ當ルコトハ何人タルヲ問ハズ、苟モ一定ノ方針ヲ極メ其方針ニ依ッテ事ヲ爲ス者ガアラバ、國民舉ツテ之ニ助ヲ爲スト云フコトハ、國民ガ國家ノタメニ實ニ盡スベキ所ノ分義デアラウト思フノデアアル、故ニ政府デアラウガ、何人デアラウガ、是ハ問フニ及バズ、私ハ此大事業ヲ遂ゲテ此國權ヲ回復シ、國利ヲ増進セシムルト云フコトノ一アルノミト私ハ堅ク信ジテ居ルノデアアル、故ニ一時ノ政略上或ハ政治上ノ條件ノコトハ感情ノタメニ此大事業ヲ一年々々ト延ベルノハ實ニ吾々國民トシテ爲スニ忍ビヌコトデアリ、況ヤ一年前ニハ既ニ大方針ヲ定メテ忍レ多クモ、上御一人ノ御耳ニ迄達シタル以上ハ此衆議院ハ尙ホ進ンデ此謀ニ出ヅルト云フコトハ、上御一人ニ對シテモ爲サナケレバナラヌコトデアアル、故ニ私ハ區々タル感情ヲ棄テ是迄ノ條件ヲ打棄テ、國家ノタメ國民ノタメニ此建議ヲ爲スノデアアル、苟モ節ヲ變ゼズ苟モ國民ヲ思ヒ國家ヲ思フナラバ、一日モ——今日何人デモ此建議案ニ贊成セラレテ以テ此内閣ヲシテ一日モ早く改正ヲ遂ゲシムルノ謀ヲ爲スハ、則チ政黨云々政略——政略ハ誤リマシタガ、政治上駭引ノ條件ノ異ルコトハ、打棄テヤルノガ、今日ノ實ニ急務デアラウト存ジマシタ、區々タル小サイル論ハ棄置イテ此建議案ヲ提出スルニ至ッタ次第ゴザリマス、冀クハ滿堂ノ諸君、此案ニ十分ノ御贊成アツテ、遂ニ此帝國ヲシテ純然タル獨立國タラシメラレノコトヲ偏ニ希望致シマス

○元田肇君(百八十四番) 質問致シマス、大概御説明デ分ッテ居リマスヤウニ思ヒマスガ、此建議案ヲ出サル、所ノ根本ノ趣意ト云フモノハ外交政略ニ就イテ現内閣ト云フモノヲ御信任ニ成ッテサセルト云フノ趣意デアリマスカ、

一言伺ヒマス

○三崎龜之助君(四番) 信任ヲスルカ信任ヲセナイカト云フコトニ就イテハ既ニ私ガ今——眞信信任ヲシナイニシタ所ガ斯ノ如クアルト云フコトハ既ニ結末ニ於テ詳細ニ述ベマシタ積デアリマス、ソレニテ御了解アラセラルコトヲ願ヒマス

○元田肇君(百八十四番) 能ク分リマセヌ、信任ハシナイガ、之ヲシテ貰フト云フ事柄ガ能ク分リマセヌカラ、贊成不贊成ニ甚ダ困リマスガ、ドコマデモ現内閣ト云フモノニ外交上ノ事ハ進ンデヤッテ貰フ——出來ルト信用シテ遣ッテ貰フト云フノデアリマス

○三崎龜之助君(四番) 御答申シマス、衆議院ノ上奏シタル趣旨ニ依ッテ爲ス政府デアアルナレバ、縱令品川サンデアラウガどなたデアラウガ信任ノ有無ニ拘ラズ遣ッテ貰フモノデアリマス

○元田肇君(百八十四番) 品川ノコトヲ聞キハ致シマセヌ

○三崎龜之助君(四番) 現内閣——縱令品川サンノ現内閣デアラウトモ苟モ此方針ニ依ッテ致シマスナレバ何人ヲ問ハズ何人ニモ此事ヲ建議スルノデアアル、信任ノ有無ハ問ハヌ

○元田肇君(百八十四番) 陸奧外務大臣ガ遣リ得ルト御信任ニナッタノデアリマス

○三崎龜之助君(四番) 是ニ由ッテ遣ルベキナレバ遣ラスル……

○元田肇君(百八十四番) 遣ルベキデハ分ラヌ現政府ガ遣リ得ルト云フ御見込デアリマス

○三崎龜之助君(四番) 遣ラナケレバ其時ノ話デス(笑聲起ル)

○元田肇君(百八十四番) 三崎君ハ遣リ得ルト信ジテ居ルカ否ヤト云フコトヲ明言ハ出來マセヌ

○三崎龜之助君(四番) 御答ハ十分出來テ居マス、進ンデアナタ方ノ御胸ニ於テ御考ニナレバ十分分ッテ居ル

○元田肇君(百八十四番) 御答ガ出來ナケレバツレ迄ノコトデアアル

○議長(楠本正隆君) 百六十一番

○田中正造君(百六十一番) 三崎君ノ演說ニ就キ元田君ノ質問ト之ニ對スル答辯デ餘程分ッテ來マシタガ、少シマダ分ラナイ、先ヅ三崎君ノ說ニスルト何人デモ何大臣デモドシナ者デモ國家ノタメデアアルカラ上奏ニ關係ノナイ瑣瑣タルコトハ棄テ、サウシテ國家ヲ第一ニ思フテスルノデアアルト斯ウ云フニ過ギナイ、其趣意ハ宜シイ、宜シイガ今茲ニ此條約改正ト云フコトハ國家人民ガ熱心シテ居ル所見テ、一半ノ人民ハ條約ノ履行ヲ主張シ、一半ノ人民ハ軟弱デ御詔ヲ以テ條約改正ヲ主張スルト云フ二ツニ分レ、ソコデ條約ヲ履行スルト云フモノハ假ニ衆議院ガ之ヲ建議スルトシテ上奏スルトカ云フ案ガ出ル、ソコデ政府ハ狼狽シテ議會ヲ解散シタト假定スル、ソコデ此政府ハ日本ノ政府デアハナイ、例ヘバ若シサウ云フコトニシテ一方ノ弱イ方ニハ賄賂ヲ使ッテ弱イ方ノ議員ヲ多ク出シテ——選舉ニ干渉シテサウシテ履行議員ヲ打潰ス政略ヲ執ッテ潰ス、法律ヲ履行スルト假定スル、サウシテ軟派議員ガ組織セラレタト見タ時ニダ、軟派議員ノ方カラ若シ條約履行デハナイ、條約改正ノ建議ヲ提出シタ時ニダ、其時ニ實際選舉干渉實ハ法律履行デハナヒゾ目ニ達ッタ議員ガ一方ハ金ヲ使ッテ頭ヲ多ク——唐茄子ノヤウナ頭ヲ竝

ベタ議員ト——是ハ日本ノ帝國議會シヤアナイ、斯ウ云フ事ガアツタ時ニハドウスルノダト云フノダ（問題外ダ）ト呼フ者アリ、斯様ナ軟派議員ガ條約改正ノ建議ヲシテカラガ眞正ニ建議スルヤ否ヤト云フ問題デ、斯様ナ場合ニハ如何致シマスカ、若シ日本ニツサウ云フ主義ガアルト見タトキハ如何致シマスカ（問題外）ト呼フ者アリ、問題外デハナイ、質問デアル、若シ左様ナ場合ニ當ツテ國家ヲ維持スルト云フコトガ口デハ言ツテモ實際出來マスカ御答ガ出來マスカ、出來マセヌカ

○綾井武夫君（十一番） 一寸提出者ニ御尋申シマス、此建議案ノ中ニ「列國交渉ノ間ニ於テ對等條約ノ締結ヲ肯セサル者アラハ政府ハ之ニ對シテ斷然タル處置ヲ施サ、ル可ラス」トアル、此斷然タル處置ヲ施サ、ルベカラスト云フノハ議院ガ條約改正ヲ廢棄スルト見テ宜シウゴザリマスカ

○三崎龜之助君（四番） 御答申シマス、其通デス、理由書ニモ明ニ書イテゴザリマスガ、是ハ先程モ讀ミマシタ對等條約ノ締結ヲ拒マバ吾々ハ時限ヲ刻シテ我現行條約ノ廢棄ヲ布告スルノ止ムヲ得ザルヲ信ズルナリト云フ理由ヲ附シテ、二十六年ニ出シテ居ルコトガアリマス、此趣意カラ出デ居リマス

○守屋此助君（百十一番） 此建議案ニ就イテ大ニ疑ガアリマス、ト云フモノハ此建議案ハ大體陸奥サンノ注文デハナイイカト云フ疑ガアリマスガ、ソレハドウ云フモノデアリマスカ（「ソレナコトヲ云フテハイケナイ」「無用ノコトヲ云フナ」ト呼フ者アリ）疑ハシイモノハ問フテモ宜シイト思フ

○議長（楠本正隆君） 御著席ナサイ  
（改進黨ノ量見デ考ヘレバサウ疑フト呼フ者アリ又「我自由黨ニハツシナコトハシナイ」ト呼フ者アリ）

○關戸覺藏君（七十一番） 此條約改正ノ建議案ニ就イテ唯今提出者ノ御辯明ガアリマシテ此建議案ノ趣旨ハ了解シマシタガ、尙ホ私モ一寸伺ヒタイ廉ガアリマス、其廉ト云フモノハ我國ニ於キマシタ對等條約ヲ望ムト云フコトハ唯今モ御述ノ通り一人モ之ヲ望マナイ者ハ無イト思ヒマス、吾々モ對等條約ノ一日モ早ク成ランコトヲ望ム者デアリマスガ、併ナガラ對等條約ト云フモノハナカノ行ハレルモノデナクシテ、遂ニ今日ニ至ル迄行ハレナイデ居タモノト認メナケレバナラナイ、ソコデ此對等條約ノ締結ハ唯今モ申ス通り餘程六ヶ敷イ、ナカノ出來難イモノト認メテ居リマス、現内閣ノ力ガ果シテ能ク提出者ノ御注文ノ如クニ對等條約ヲ締結シ得ルヤ否ヤニ至リマシテハ、滿場諸君ニ於テモ大ニ御心配ガアルコトデゴザリマス（心配ハセヌ）ト呼フ者アリ（ソレナラバ私ハ實例ヲ以テ伺ヒマスガ、勅令第四十一號ヲ以テ發布ニナリマシタ彼ノ日布條約中——彼ノ日布條約改正中ニ示サレマシタ條件ト雖モ提出者ニ於キマシテハ對等條約ト是認シアルガ如キモノデモ急速ニ決行シタイト云フコトヲ政府ニ御望ニナルデアリマスカ、伺ヒタイ（ひや／＼ト呼フ者アリ）

○三崎龜之助君（四番） 日布條約ト云フノハ此間出タ勅令デハアリマセヌカ

○關戸覺藏君（七十一番） 左様

○三崎龜之助君（四番） 勅令ノコトデセウ

○關戸覺藏君（七十一番） 日布條約中ノ改正ガ此間發布ニナラデ居リマスガ、アレラガ如キモノト雖モ矢張對等條約ト御認定ニナルヤ否ヤト云フコトヲ伺ヒタイノデ……

○三崎龜之助君（四番） 關戸サンニ御答申シマス、關戸サンハ明治二十六年一月二月頃ニハ即チ此案ニ——上奏案ニ御賛成ニナツテ起ツタデアリマス、其上奏案ニ就イテ十分ニ方針ヲ極メテアルデアリマス、理由ヲ御覽下サイ、其方針ニ據リ條約改正ヲ望ムト云フ建議案ノ趣旨デゴザリマスカラ、ソレデ御了解ヲ願ヒマス  
（發言ヲ求ムル者多シ）

○議長（楠本正隆君） 二百十四番  
○關戸覺藏君（七十一番） ソコデ尙ホ私ハ伺ヒタイノデアリマスガ……固ヨリ心ツカヘテ話ニナツテ居ルノデスガ

○議長（楠本正隆君） 二百十四番ニ許シマシタ  
○加藤政之助君（二百十四番） 私モ三崎君ニ質問致シマスガ、先日內閣總理大臣ガ此席ニ出マシテ條約改正ハ爲シツ、アル、又成ルノ期ハ遠クナイト云フコトヲ申サレタコトハ御承知ノコト、思フ、此爲シツ、アルト云フ政府ニ向ツテ條約改正ヲシロト云フ建議ヲスルト云フノハ如何ナル意味カ、何ノ效ノアルト云フ見込デアルカ、ソレヲ伺ヒタイ

○三崎龜之助君（四番） 是ハ御承知ノ通り之ヲ出シマシタノハ五月十五日デゴザリマス、御演說ノアツタノハ其後ナンデアリマス

○加藤政之助君（二百十四番） サウスルトモウ要ヲナイノデスカ  
○三崎龜之助君（四番） 如何ニモ取ダラ宜カラウト云フコトニ就イテハ私モ餘程考ヘマシタ、アナタ方ノ様ニ輕々黨派上ノ感情デ仰シヤルトモ斯ノ如キ大問題ニ就イテハ十分此議會ノ意見ヲ定メテ置イテ鞭撻スルコトハアナタ方モ始終仰シヤル通り御尤ノコトデアツテ、ソコデ私共一旦出シタモノヲ撤回スル必要ハナイイカラ遣ルノデアリマス

○加藤政之助君（二百十四番） 然ラバ尙ホ一應問ヒマス、サウ致シマスルト三崎君モ殊ニ依ツタラ止メテモ宜イト云フ御考デアツタノデスカ  
○三崎龜之助君（四番） モウ一ツ趣意ヲ明ニシテ置キタイ、御承知ノ通り上奏案ノ理由書ハアナタモ此時ハ……アナタモ此時ハ議員ノ一人ダ、其時ニ矢張贊成ニナツタ人ハ上奏案ノ理由書モ能ク御承知ダラウシ、此方針ニモ御贊成ノ方デアツタノダカラ、此趣旨ニ依ツテ遣ラサウト云フ精神ハ十分アリマスコデス

○加藤政之助君（二百十四番） 宜シイ分リマシタ、ソレナラバ尙ホ質問スル、吾々ハ前ノ議會ニ於テ 天皇陛下ニ向ツテ條約改正ヲ是非急ニシテ戴カナケルベナラヌト云フコトノ上奏ヲスル必要ヲ感シテ、則チ三崎君等ニ同意シタル者デアアル、然ルニ伊藤內閣ハ此 天皇陛下ニ吾々議會ガ大多數ノ意見ヲ以テ上奏シタモノスラ實行セヌ者ト致シタナラバ、其者ニ向ツテ吾々ガ今此建議ヲ爲シテ何ノ效ガアルト云フ御意見デアラカ、ソレヲ一應……

○三崎龜之助君（四番） ソレハ私ハ御議論ニナリハシマセヌカト思ヒマスカラ御答致シマセヌ

○大岡育造君（九十五番） 私モ一ツ御伺申シタイ、唯今三崎君ガ加藤君ニ答ヘラレタル所ニ於テ見レバ一度ハ引カウカト思ツタガ、併ナガラ反對者ノ如キ輕卒ノ考ヲ以テスルヨリモ十分議會ノ意見ヲ定メテ置クコトハ必要デアルト斯ウ言ハレタヤウニ聞キマシタガ、サウデゴザリマスカ

○三崎龜之助君（四番） マダ附加ヘガアツタノデス

○大岡有造君(九十五番) ソレハドウ云フノデスカ、開エナカッタカラ……

○三崎龜之助君(四番) 先程加藤サンニ答ヘマシタ

○大岡有造君(九十五番) 開エマセヌデシタカラ、モウ一度

○三崎龜之助君(四番) 丁度アノ時ハアナタハ御反對デアッタガ、アノ上奏案ノ方針デス、アノ方針ニ依ッテ條約改正ヲシタイト云フ精神ガ十分アルカラ、今日此建議ヲ出シテ置クノガ必要ト云フ見込デアリマス

○大岡有造君(九十五番) サウスルト唯今ノ御答ハ二ツデアル、モウ一應確メテ置キタイト云フコト、今一ツハ上奏案ノ趣旨ハ十分ニ貫イテ貫ヒタイ、

此二ツデアル、是ニ於テ私ハ御尋スルコトガ又二ツ生ジテ來タノデアル、今黨論ハ一定シテ居ルノニ大岡ハ昨日云々ト言ハレタガ、既ニ二十六年ニ十分極メテ居ルナラバ今此議場ニ於テモウ一ツ確メナケレバナラヌト云フ答ハナ

イ、又君ガ今日十分ニ確メナケレバナラヌト言ハル、ナラバ則チ昨日拙者ガ申シタ所モ……(ソレハ討論ダ)「討論無用」ト呼フ者アリ(今一ツ)(無用無用)ノ聲起ル今一ツハ對等條約ヲ結ブノハ緊要デアルト申スノハ、二十五年

ノ則チ内閣ガ定メタ方針ニ見エテ居ル、其上ニ君等モ上奏迄シテ居ル、然ルニ今日彼ノ方針ヲ貫カケレバナラヌト云フ必要ヲ感ジテ此建議ヲ爲サル所ヲ以テ見レバ、隨分耳銳ク御聽ナスツタ、其結果カラシテ近頃ノ條約ノ改正

ノ仕方ハ實際對等デナイト云フ御感ガアルカラノコトデアアルヤ否ヤ

○三崎龜之助君(四番) 其近頃ノ條約ト云フノハ……

○大岡有造君(九十五番) 條約ノ進行ヲ對等サセルコトガ特ニ茲ニ必要デアルト言ハレルノハ、實際ニ於テ今日進行スル有様ガ對等デナイト云フヲ認ムル所ガアルカラヤルノデアアルノコト云フノデス

○三崎龜之助君(四番) サウデハナイ

○大岡有造君(九十五番) 然ラバ何ノ必要ガアリマス

○三崎龜之助君(四番) 必要ハ先程述べマシタ、理由モ先程カラ滔々ト述べタノデアアリマセウ

○議長(楠本正隆君) 質問ヲ止メテ討論ニ移リマスガ、ドウデス——柏田盛文君

(柏田盛文君演壇ニ登ル)

○柏田盛文君(百八十九番) 諸君、本員ハ本案即チ條約改正建議案ニ反對スルノ一人デゴザイマス、固ヨリ此條約改正ノ今日ニ急務ナルコトハ今更喋々ノ辯ヲ俟タナイコトデゴザイマス、皆ニ滿場ノ諸君バカリリデナクシテ四千万ノ人民一人トシテ之ニ不同意ヲ言フ人ハナイト云フコトハ明ナコト、私ハ信ジマス、皆ニ我々人民四千万ノ者ガ之ヲバ熱望スルバカリリデハナクシテ恐レ多クモ 天皇陛下ハ此事ニ就イテ深ク宸襟ヲ惱マセラレテ嘗テ内閣大臣三人ヲバ條約改正取調委員ニ御命ジニナツタコトマデモアリマシタ、要スルニ此條新中興ノ大業ハ條約改正ヲ致シテ眞正ナル對等條約ヲ結ンダ曉ニアラザレハ本當ニ成就シタモノデハナイト云フコトヲバ私ハ深く考ヘテ居ル者デアリマス、ソレ程マデニ熱心ニ希望シテ居ルニモ拘ラズ本員ノ之ニ向ッテ反對ヲ表スルト云フコトニナツテハ大ニ理由ガナケレバナラヌコトデアリマスカラ、私ハ其理由ヲ述べサウシテ諸君ノ反省ヲ仰ガウト思ヒマス(理由ヲ述べ給ヘ)ト呼フ者アリ)御催促ナクモ述べブル積デ此所ニ出テ居ル、此條約改正ノコトニ就イテハ閣臣ト雖モ決シテ之ヲバ等閑ニ附シテ居タ譯デハナイ

ガ、度々是迄著手シタケレドモ好イ結果ガナクシテ失敗バカリシテ居ルト云フノハドウ云フ原因デアアルカト云フコトヲ能ク私ハ考ヘテ見ナケレバナラヌコト、思ヒマス、此原因ハドウデゴザイマセウカ、私ハ此條約改正ノ問題ト云フモノハ國力問題デアルト云フ觀念ハナイ、從テ自主的ノ精神ガナイト云フコトヲ斷言シテ憚ラヌト思ヒマス、唯向フノ御機嫌バカリ取ッテ向フノ顔色ヲバ窺ッテ此事ハ決シテ出來ルモノデハナイ、今迄ノ仕事ハドウデゴザイマセウカ、唯國民ノ程度ニ適スルヤ否ヤハ問ハズシテ法律ヲ改メ、制度風習ヲ改メ、或ハ甚シキニ至ッテハ賭博會トナルト云フヤウナ有様デアアル、其流尚ホ甚シキニ至ッテハ現行ノ條約サヘ無茶苦茶ニ蹂躪サレテサウシテレタル所ノ弊習ト云フモノハ現行ノ條約サヘ無茶苦茶ニ蹂躪サレテサウシテ之ヲバ知ラズ識ラズノ間ニ默過シテ居ルト云フヤウナ有様デアリマスツラウ、條約改正ノ如キコトハ勿論急務デアアル、併ナガラ決シテ之ヲ再ビ失敗スルヤウナコトガアツテハナラナイ、内治ノコト、雖モ度々之ヲ再ビ失敗スル云フヤウナコトガアツテハ吾々ハ迷惑千萬デアアル、ケレドモ之ニ就イテハ返シノ附クコトデゴザイマスガ、事外國ニ關シテ獨立國ト獨立國トノ條約ニ於テ之ヲ改正スルコト云フコトニ於テ幾回モ失敗スルコトガアツタナレバ、ソレノタメニ列國ノ間ニ信用ヲ失シ、威嚴ヲ墜スト云フコトハ非常ナモノデアルト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌマイ、況ヤ之ガ二回モ三回モ失敗スルト云フコトニ至ッタナラバドウデゴザイマセウカ、即チ國家ノ命脈ニ關スル所ノ一大問題デアルト私ハ考ヘル所ノモノデゴザイマス、然ルニ伊藤内閣ハドウデゴザイマセウカ、則チ曩ニ演說モアツタ通ニ此條約改正ノコトニ就イテハ著手スルノミナラズ、著々其歩ヲ進メテ居ルト云フコトヲバ果シテマシタガ、其模様ト云フモノハドウデゴザイマセウカ、又御盡力ヲバサレタデアリマセウガ、私ハ茲ニ於テ則チ此本案ニ就イテ反對スル二ツノ理由ガゴザイマス、第一ニハ此條約改正ト云フコトニ就イテハ本院デハ上奏案ヲバ嘗テ致シテ居ル、ソレカラ又昨日ハ角田眞平君坂本則美君此二人ヨリシテ質問書ヲバ出シテ居リマス、就テハ吾々ハ上奏モ致シテ居リ、ソレカラ精密ナル所ノ質問書モ出シテ居ル上ニ、茲ニ催促狀ヲバ建議スルト云フヤウナコトハ極ク無用ナコトデアルト云フコトヲ以テ消極的ニ反對スル所ノ者デアアル、ソレカラ積極的ニ之ニ向ッテ反對スル所ノモノハ第一ニ今迄ノヤツタ仕事ヲバ見テ、サウシテ將來果シテ此大事業ヲバ擔任スル才ノ力ガアルカナイカト云フコトヲ能ク察シナケレバナラヌコトデゴザイマセウ、若シ其力ガアルヤ否ヤヲ察セズシテ無暗ニ之ヲバヤレト云フコトニナツタナラバドウデゴザイマセウカ、即チ吾々ハサウ云フ御注文ハシナカッタ、所ガ斯ウ云フヤウナコトヲヤツテ吳レテハ反對スルト云フヤウナコトヲバ其時言フノハ甚ダ不親切デアラウト私ハ考ヘル所ノ者デアアル、丁度譬ヘテ見ルト、茲ニ陸奥サンノヤウナ瘡ヒタル所ノ人ガ丁度風ガ一度吹イタナラバ吹飛バサレルヤウナ人ニ小錦ト相撲ヲ取リナサイト云フコトヲ言ッテ、是非勝ッテ下サイト言フノト同ジコトデゴザイマセウ、實ニ無理ナ注文デゴザイマセウ、勝ッテ吳レト云フコトヲ言ッテ置イタニ、何故ニ負けタカト言フニ至ッテハ實ニ不明ナ話デハゴザイマセウカ、私ナドハモウ初カラ——取ラナイ中カラハ負けケルモノデアラウト云フコトヲ信ジテ居ル所ノモノデアアル、ドウデゴザイマセウカ、即チ現内閣ハ外國人

ノ取締ト云フコトニ就イテハ私ハ別段厲行論ト云フコトヲ今日繰返シテ諸君殊ニ自由黨ノ感情ヲ惡ルクスルコトハシマセヌ、併ナガラ經濟上ニ就イテ一言言ハナケレバナラヌコトガアル、是ハ私ガ第五議會ニ於テ政府ニ向ッテ質問書ヲ出シテ置キマシタガ、其第一ノ質問ニ就イテノ答辯書ハ如何ニモ三百代言ノ言ヒサウナコトヲ以テ唯口實ヲ得ヘテ、之ヲ逃ゲテ居タト云フヤウナ有様デゴザイマシタ、ソレカラ第二回ニ出シタ所ノモノニ向ッテモ一向答辯ヲ致シマセヌデアッタカラ、再ビ催促ヲシヤウト思フタ所ガ停會重ネテ解散ト云フコトニナリマシタガ、其要領ハドウ云フコトデアルカト云フト外國ノ資本——資本ト云フ明白ナル名義デハナイガ、外國ノ金ガ五千萬圓以上モ此内國ニナケレバナラヌデアアル、此五千萬圓以上ノ金ト云フモノハ愈有ルカ無イカナイト云フコトデアルナラバ、是ハ有ルト云フコトヲ私ガ計算シタモノハドウ云フ風ニ間違ッテ居ルデアアルカ、若シ有ルト云フコトデアルナラバ、ドウ云フ風ニ間違ッテ居ルデアアルカト云フコトヲバ明瞭ニ答辯シテ貰ヒタイト云フ質問書ヲ出シテ置イタ、然ルニ之ニ向ッテ唯今申シタ通り一向明瞭ナル答辯ヲ得ナカッタ、勿論答辯ヲ得ナイ譯デアリマセウ、之ニ向ッテ明ナ答辯ガ出來ル答ハナイ、五千萬圓ノ金ノ行所ハ分ラヌ、分ラヌ答デゴザイマセウ、今日、諸君ノ御承知ノ通り或所ニ斯ウ云フ地面ヲ買テ置ク、或ハ斯ウ云フ所ニ斯ウ云フ商賣ヲ營ンデ居ルト云フコトヲ往々ヤッテ居ルコトデアッタ、此商賣ヲ營ミ或ハ土地ヲ買フテ居ルト云フヤウナコトノタメニハ此金ト云フモノガ出テ居ル、ソレ等ノコトヲバ大藏大臣タル者ハ明白ニ答辯スルコトガ出來得ラレナイ答デアラウト思フデアアル、サウ云フヤウナコトニナッテ則チ外國人ノ取締ト云フモノハサウ云フヤウナ實ニ優柔不斷、所謂外國人ニ便利ヲバ唯與ヘルヤウナコトニナッタナラバドウデゴザイマセウカ、縱令對等條約——彼等ノ言フ所ノ對等條約ヲ結ンデ、或ハ内地雜居ヲサセルケレドモ……鑛山ハ許サナイト云フコトヲ言ッタ所デ果シテ之ヲ防グコトガ出來ルカ、ドウカト云フコトハ今日ヨリ明瞭デハゴザイマセヌカ、ソレカラ第二ニハ此日布條約ノコトニ就イテ勅令ヲ以テ出サレタル所ノアリマスガ、吾々ハ之ニ就イテ即チ彼ノ歐米諸國ノ強國ニ向ッテ真正ノ對等條約ハ出來ナイト云フ前徵デアルト云フコトヲ明言スル、何トナレバ彼ノ布哇國ニ向ッテ先日出サレタル所ノ勅令ハドウデゴザイマセウ、即チ一方ニハ法權ヲ回復スルコト云フコトヲ言ッテ内地雜居ハ自然ノ結果ト云フヤウナコトヲシテ殆ド許シテ居ルガ、此稅權ノコトニ至ッテハドウデアアルカ、或ハ議者言ハシテ、稅權ノコトハ何モナイカラ言フニ及バヌト云フカ知ラヌケレドモ、最惠國ノ文字ニ依ッテ之ヲ防グコトガ出來ルカ、出來ヌカト云フコトハ一ノ問題デアアル、私ハ出來ヌト云フコトヲ斷言シテ憚カラヌ所ノモノデゴザイマス、然ラバ彼ノ臺灣タル殆ド亡滅ニ至ランシテ居ル所ノ布哇ニ向ッテスラ斯樣ナ條約改正スルコト云フヤウナコトデアッタナラバ、歐米ノ強國ニ對ッテ此條約改正ノ有様ト云フモノハ大概推察セラル、デゴザイマセウ、シテ見レバ私ハ是等ノ技術ノ政治家是等ノ精神氣力ノ無イ所ノ者ニ向ッテ早ク條約ノ改正ヲセヨト迫ルノハ如何ニモ不當千萬ナルモノデアルト信ズル所ノモノデアアル、ソレカラ第三ニハ極ク必要ナコトデアラウト思フデアアル、先日總理大臣ガ斯樣ニ著々條約改正ハ進ンデ居ルト言ッタニモ拘ラズ、ソレハ

極ク外交ノ機密デアアルカラシテ分ラナイカモ知レナイガ、分ル丈ノコトハ是ニ手ヲ盡シテ見テ何ノ邊マデ進ンデ居ルカ、ドウ云フ樣ナ有様ニナッテ居ルカ、是ガ斯樣ニナッテ居ルト云フ樣ナコトヲ質シテ見テ、サウシテ之ヲヤラナケレバナラヌコト、思フ、或ハ三崎君ニ言ハセタナラバソナコトハ質サズトモ宜イ、吾々ハ上奏案、アノ箇條ノ通シテ貰ヒサヘスレバ宜イコト云フカモ知レナイ、併ナガラ是等ノコトハ能ク質シテ見テ果シテ其行ナフ力ガアルカ無イカト云フコトヲ質サズシテ、之ニ迫ルト云フノハ先キニ云フ通り實ニ分ラナイ所ノモノニ向ッテ無理ニ此相撲ニ勝ッテ貰ヒタイト云フコトヲ實ムルノト同ジ樣ナ結果ダラウト思フ、左様ナ馬鹿ヲシイコトハスルニ忍ビナイ、私ハ極ク機密ニ聞及ンダ所ノモノヲバ諸君ニ報道シテ果シテ是ガ事實デアッタナラバ、吾々ハ正反對ニ立ッテ之ニ抵抗シナケレバナラナイト云フコトヲ豫メ明言シテ置キマス、唯今ハ英國トノ談判丈ガ進ミツ、アルト云フコトデアリマス、サウシテ英國トノ談判ノ箇條ハドウ云フ風ニナッテ居ルカト聞イテ見マス、法權ニ就イテハ民法商法所謂法典ノ實行ノ後所謂之ヲバ五箇年トカ限ッテ居ルト云フコトデアリマスガ、此實行ノ日ヲ俟テ始テ内地雜居ヲ許ス、ソレカラ居留地ト云フモノハ廢スルガ、ソレト同時ニ居留地ニ限ッテ外人ニ土地所有權ヲ保持セル、ソレカラ稅權ト云フモノハドウカト云フコトヲ雙方ノ協議ヲ以テ一ト物品ニ依ッテ其差ヲバ立テ稅ヲ掛ケル、或ハ物ニ依ッテハ一割以上モ稅ヲ掛ケルモノガアル、斯ウ云フ樣ナ大略デアルト云フコトヲ聞イテ居ル、シテ見マスレバ法權モ稅權モ決シテ權利ヲバ回復シタモノデハゴザイマセヌ、吾々ハ云フ所ハ稅率ヲ高メルカ云フコトハ實行スルコトカ云フ樣ナコトヲ書イテアルノハ所謂法權ヲ回復シタモノデゴザイマセウカ、決シテ未ダ法權ヲ回復シタモノデハナイ、或ハ是條約ノ成文ニハ書イテナイガ、即チ外交文書ノ中ニ書イテアルト云フ樣ナコトヲ言フ人ガアルカモ知レナイガ、此外交文書ト本條約トノ間ノ形狀、其他ノ性質ニ至ッテハドウナケレバ居ルモノデアアルカ、私ハ明言ヲ致シマセヌガ、併ナガラ實際ニ於テハ其效力ト云フモノハ殆ド一樣ナモノデアラウト思フ、是ガ一樣ノモノデアアルカ、決シテ滿足ハ致サナイ、シテ見レバ本條約ニアッタ所ガ、外交文書ニアッタ所ガ、法權ヲバ回復シテ居ラヌト云フコトハ明瞭デアラウト考ヘルノデアリマス、サウシテ此條約改正ヲスルニ就イテドウ云フ手段ヲ以テ遣ルカト云フニ就イテハ如何ニモ聞クニ忍ビザル所ノモノヲ以テ遣ッテ居ル、即チ是ガ現内閣ノ本領タル所ノモノデアアル、則チ外人崇拜ト云フ一種ノ厭フベキ所ノ空氣ヲバ代表シテ遣ッタ所ノ事實ガ現レテ居ルモノデアアル、即チ賄賂ヲ使ッテ英國ノ交際社會ノ重ナル人ニ交際ヲ求メルトカ、或ハそるすベリ侯ニドウ云フコトヲヤッタトカ云フ樣ナコトガ一分ッテ居ル樣ナ有様デアアルノデゴザイマス、殊ニ笑フベキコトハ斯ウ云フコトガアル、英國ノ方カラシテ此關稅ニ關シタル所ノモノモ一割以上ト云フコトヲ定メテ置イタナラバ、年限ヲバ——サウデアアリマセヌダッタ、此伊藤伯ノ方カラ一割以上ト云フ樣ナコトヲ定メタナラバ年限ハ定メズシテ未來永劫其通りヤッテモ宜イト云フコトヲバ言ッタ、所ガ却テ英國ノ方カラツレデ御無理デアアルカラ六年ノ後ニハ全ク稅權ヲ回復スルヤウニ致シテヤラウト云フコトヲ言ッタト云フコトデアアル、如何ニモ奇怪千萬ノ話デハゴザイマセヌカ、殊ニ今

日ハ英國ト露西亞ト東洋ノ形勢ヲバ爭フテ居ル時代デアッテ、一方ノ方カラ日本ノ歡心ヲ得ヤウトスレバ一方ノ方カラ又歡心ヲ得ヤウト云フテ好イ機會ニナツテ居ル所デアッテ、サウシテ條約改正ヲバ仕ヤウト云フ様ナコトヲ今度ハ向フカラ申出シタト云フコトデアリマス、自分ノ方カラ條約改正ヲ持出シテ日本政府ノ望ヨリモ却テ澤山ナモノヲバヤラウト云フノニ、ツレヨリハ下ノモノデモ宜イト云フ様ナコトヲ言フニ至ツテハ實ニアキレ切タル話デハゴザイマセヌカ、是等ノコトヲ以テ考ヘマスレバ果シテ眞正ナル吾々望ム所ノ對等條約ガ出來ルカ否ヤト云フコトハアナタ方ガ信ズルデゴザイマセウカ、私ハ斷ジテ出來ナイト考ヘテ居ル所ノモノデゴザイマス、斯ノ如ク外國ニ向ツテ軟弱ナル政府ニ向ツテ對等條約ヲ促スナド云フコトハ實ニ大山ヲ挾シテ北海ヲ越ユルノ類デアラウト思フノデゴザイマス、而シテ今日ニ至ツテ是ヲ促スト云フ様ナコトニナリマシテ殆ド批准ノ際ニナツテカラハ吾々ノ注文ニ違フタモノデアルト言ツテ大ニ駭立タルト云フヤウナコトニ至ツタナラバドウデゴザイマセウ、其時ニ至レバ或ハ非常ナル過激ノ運動ヲシナケレバ之ヲ中止スルト云フコトハ出來ナイカモ知レナイ、自由黨ノ諸君、自由黨ノ諸君ハ前ニ於テ之ヲ實驗セラレタルコトデアラウト私ハ思フノデゴザイマス、勿論過激ノ運動モ宜シイ、併ナガラツレガタメニ又中止ヲスルトカ取消ヲスルトカ延期ヲスルトカニ云フコトニ至ツタナラバ、ツレガタメニ列國ニ對シテ信ヲ失シ國威ヲ墜スコト幾何ノモノデアルト云フコトヲ考ヘナケレバナラスト思フ、然ラバ私ハ此處ニ於テハ本院則チ當衆議院ハ大多數ヲ以テ本案ヲ否決シテ間接ニ條約改正ノ大任ハ決シテ現内閣ノ様ナ外人崇拜姑息極マタル所ノ人ニ向ツテ此大任ヲ託スルト云フコトハ出來ヌト云フコトヲ悟ラシメ、斷然トシテ此内閣ヲ退イテサウシテ更ニ鞏固ナル眞正ナル對等條約ヲ一日モ早ク締結シ、天皇陛下ノ宸襟ヲ慰メ奉ランコトヲ偏ニ希望スル所ノ者デゴザイマス

○議長(楠本正隆君) 次ハ綾井武夫君

○綾井武夫君(十一番) 私ハ本論題ニ賛成ヲスルノ一人デゴザイマス、是迄モ私ハ一人デゴザイマスカラ、ドノ黨此黨ト云フ黨派ニ關係ハゴザイマセヌ、是迄出シタ案ハ大抵六派ノ人ニ就イテ居リマシタガ、是丈ハドウシテモ就イテ往クコトガ出來マセヌ、出來マセヌカラ則チ其理由ヲ是カラ述ベマス、此我邦ノ——其前ニ一言申シテ置キマスガ、此條約改正建議案即チ三崎君カラ出サレタ建議案ノ全體ニ就イテハ私モ多少ノ意見ハゴザイマスガ、大體ガ同意デアリマスカラ賛成シマス、而シテ最も私ノ同意ナノハ上半分ヨリモ下半分ガ最も同意ナンド、ツレヲ述ブル前ニ少シク御話ヲ致シタイト思ヒマスコトハ、世間ノ進歩ト云フモノハ早イモノダ、大ニ喜ブベキコトデアルト私ハ自ラ喜ンデ居ル、其喜ンデ居ルノハ何デカト云ヘバ、明治二十二年則チ條約ニ關係ガアルカラ言ハナケレバナラヌガ、大隈伯ガ條約改正ヲシヤウトシタ時ニ吾々ガ反對シマシタ時ニ其當時大阪ニ於テ吾々ガ寄合ツテ對等條約會ト云フモノヲ拵ヘマシタ、對等條約會トハ何ノコトダト云フテ當時四方八方カラ攻擊ヲ受ケマシタ、今日ニナツテハ諸君如何デアリマス、對等條約ト云フモノハ殆ド滿場諸君中ニ御異議ハアルマイト思フ、又其後ニ至ツテハ明治二十四年ニ吾々ガ三名ノ連名デ對等條約ヲ立派ニ結ベ、結ブコトガ出來

ヌナラバ現條約ヲ年期ヲ極メテ廢棄ヲセヨト云フ建議案ヲ出シタコトガゴザイマス、其際ニハ此衆議院ハ決議ニ至ラズシテ解散ニナリマシタガ、御贊成下サラナカッタ中ニ逃ゲタ御方ガ隨分澤山アル、ノミナラズ隨分其御方ハ議院外デ過激デアアル、急激デアアル、粗暴デアアル、甚シキニ至ツテハ國際公法ヲ知ラヌ者デアルト云フマデニ議論ヲ受ケタコトガアリマシタ、其一例ハ誰ガ言ツタゾ、澤山ゴザイマスルガ、最も奇怪ナノハ自由黨ノ諸君モ其人デアアル、則チ黨報第五號ヲ繰返シテ御覽ニナツタラ御分リニナラウト思フ、所ヘ政府方カラモ攻擊ヲサレタ、日々新聞アタリモ攻撃シタ、其日々新聞ガ本年一月頃ニ條約改正ヲ拋棄セヨト云フ論說ヲ二三日續ケテ出シタ、私ハ甚ダ奇怪ノ思フ爲シタ、此ノ如ク進歩シテ來タカ、御分リニナツタカト云フコトハ私ノ満足スル所デゴザイマスガ、併シ其日々新聞ハ三日バカリデ止ツテ仕舞ツタ、今度「日本」カラ御誘ヒ見タイナ論文ガ出タガ、ツレニハ御答辯ガ無カッタ、ドウ云フコトカト思フテ居ッタラ、私共——吾々ノ聞込ナド所デハ其論ヲ唱ヘカケルト或ル有力ノ所カラ日本ハ脅迫ノヲ以テ外交條約ヲ改正スルト云フコトデアルカ、果シテ然ラバ吾々モ決心スル所ガ無カラケレバナラヌト云フコトヲ云フト、或ル政府ノ人ハあわて、ツレヲ取消シテ遂ニ言ハナクナツタト云フコトヲ聞キマシタガ、誤聞カハ知リマセヌガ、ツレ故ニ中止ニナツタト云フコトヲ聞キマシタ、果シテ本開カ誤聞カツレハ私ハ知リマセヌガ、此案ニ私ガ賛成致シマスニ附キマシテハ一言此處デ言フテ置キタイノハドウカ自由黨ノ諸君ハ左様ナコトハゴザイマスマイカラ、徹頭徹尾此案ヲ守ツテ烟散霧消スルト云フコトノ無イヤウニ私ハ願フテ置キマス(「勿論」ト呼フ者アリ)ツレデ本論ヲ述ベマスニ當ツテ私ノ贊成スルノハ條約改正ノ必要ナコトハ言ハヌデモ分ツテ居ルコトデアアル、我國民誰デモ望ム者ハ一人モアルマイト思ツテ居ル、而シテ其事柄ガ明治五年デ期限ガ切レテ居ル、然ルニ今日ニ至ルマデ其條約改正ガ出來ヌト云フコトハ何故デアアル、政府ガ盡サヌノガ、民間ガ怠ラヌノカ、私ハサウ見ルコトハ出來ヌ、政府デモ或ハ全權大使ノ洋行トナリ、ツレカラ以來此事ニ就イテ盡シタコトハ澤山アル、其一二例ヲ申上ゲマス、先ツ舞踏會モヤツタラウシ、園遊會モヤツタラウシ、假裝會モヤリマシタ、其後ニナツテ御味方演說トナリ、御味方新聞ヲ發行トナリ、郡長勸誘ノ斷行建白書ト云フモノニモナツタ、是位マデ盡シテ居ッタガ、所デ今日迄矢張出來ズニ居ッタ、民間ニ於テドウゾト云フト隨分條約ノタメニハ或ハ此席ニモ御出ニシラウト思フ、三里以外ニ放逐ニナツタ御方モアル、其他二十二年ニ至ツテハ五團體ノ聯合トナリ、遊説トナリ、對等條約會トナリ、種々薩多ノコトニ盡力シテ來タガ、未ダ改正スルコトハ出來ナイ、出來ナイノハ果シテ何故カ、吾々ノ見ル所デハ色々ヤツタガ、其手段ガ間違ッタ、何ガ間違ッタカト云フト、詰ル所自分ノ意見ヲチヤント立テ、ツレヲ飽マデ斷行スルト云フ決心ヲ取ラズシテ、唯優柔不斷巧妙ノ手段ヲ以テ條約改正ヲ仕様トシタノガ何時デモ失敗ノ本ニナツテ居ルト云フコトヲ斷言シナケレバナラヌノデアアル(拍手)宜シウゴザイマス、所ガドウカ吾々ノ則チ賛成スル趣意ハ條約改正ヲシヤウト云フコトハ今言フ通り大事業デアアル、而シテ頗ル困難ノ事柄デアアル、故ニ是迄掛ツタ政治家則チ井上サンデモ大隈サンデモ其人ノ力ガ足ラヌト云フ譯デハナイ、手段ガ惡ルカッタカラ出來ヌダツタト云フコトガ分ツタ以上ハ、今日カラ之ヲ遣リ遂グル者ハ

一大決心ヲ以テ則チ我ト云フ者ヲ先ニシテ——自分ノ法案ト云フモノヲ先ニ出シテ、是カラハ譲ラヌト云フ決心ヲ以テヤツテ貰ヒタイ、則チ純粹ノ對等條約ヲ結ンデ貰ヒタイ、然ルニ其案又ハ綺麗ニシテ談判シニ掛ツテカラ此處ハ斯ウ直サウ、此處ハ斯ウシヤウト云フテ遂ニ己ノ精神ヲ失ツテ仕舞フト云フヤウナコトナラ寧ロ初カラ著手セヌ方ガ宜イト云フノガ吾々ノ意見デア、故ニ其處ニ至ツテ政府ガ力ガナイ、ツレヲ斷行スル決心ガナイ、故ニ是デ催促スルニ不同意ダト云フ御方ニ向ツテ一應問ハナケレバナライノハ何故カ、此間伊藤伯ガ此處ニ來ツテ言ハレタニハ條約改正ハシツ、アルト言ハレタ、若シ此政府ガ立派ナコトヲ成シ遂ゲ得ヌト云フコトノ覺悟ナラバ、何故ニ其時ニ御止メナサイト云フ勸議ヲ出サヌ、御止メナサイト云フコトヲ言ハズニ黙ツテ傍觀シテ居ツテ、若シ不都合ナ條約ヲ出シテ來タ時ニハ諸君ハ何ト言ハル、(「ダカラ質問シテ居ル」ト呼フ者アリ) 則チヤラウトシツ、アルト言フタナラバ、ドウカ譲ツテ貰ヒタクナイ、立派ナモノニシテ呉レト云フコトヲ決議ヲシテ置クトハ則チ建議ヲシテ置クトハ必要デナケレバナラヌト私ハ信ズルノデア、質問ヲシテ居ルト云フ方ニ向ツテ又一ツ言ハナケレバナライ、條約改正ニ對スル質問ハ是迄度々聽イタ、第一期ノ時ニハ自由黨ガ質問シ、第二期ニモ自由黨ガ質問シ、今日ニナツテ矢張質問書ヲ出シタ、其質問書ヲ出シタ時ニ政府ハ之ニ對シテ明瞭ナ答ヲシタコトガアリマスカト云フコトヲ聞カナケレバナラヌ、何時デモレナイノデア、シナイ者ニ向ツテ幾度質問ヲシタ所ガ是ハ駄目ナ話デアルト私ハ考ヘル、故ニ茲ニ至ツテ、吾々ノ決心ノアル所ヲ示シテ斯ノ如クセヨ、則チ建議スルヨリ外ニ手段ハアルマイト私共ハ考ヘマスカラ贊成ヲシタ所以デア、(質問ニ答ヘザル者ニ向ツテ建議ヲシテ何ノ益ガアル)ト呼フ者アリ) 若シ遣リ損フト云フ時ニ默ツテ居ツタラドウデア、默ツテ居ツテヤリ損フノヲ諸君ハ喜ブノデア、カ、是マデ條約改正ガ立派ニ出來ナカッタト云フコトニハ色々原因ガザイマセウガ、吾々ノ見ル所デハ一番——三ツノ原因ガアル、其二ツノ原因、第一ハ則チ政府ガ確乎タル執所ノ手段ナク、優柔不斷ニヤリカケルノデ出來ナカッタ、其第二番ニハ人民ガ外交ニ極ク冷淡ニシテ條約ダノト云フ問題ハ餘リ此事ニヤカマシク言ハナイ、其證據ハ今日議員選舉ノ有様ヲ見マズレバ分ル、諸君ガ地方ニ往ツテ條約改正ノ論題ヨリハ地租輕減ヤ地價修正ノ議論ノ方ガヤカマシクナツテ來ルノハ外交ニ冷淡ナル一ツデア、其次ニハ則チ天下ノ人ト云フト多ウゴザイマスガ、日本ノ有志家ノ中ガ或ハ黨派ノ感情ヤ或ハ色々ノ感情カラ種々中デ相聞イテ居ルト云フガ又一ツノ原因ヲナシテ居ルト言ハナケレバナラヌ、故ニ真正ニ此國家ヲ思ヒ、日本ノためニ思フナラバ、政府ガ出來ヌトナラバ出來ル人ニ取替ヘテモ宜シイ、飽迄協同心力ヲシテ改正ヲ仕遂グルト云フコトハ日本人民ハ誰モ力ヲ極メテヤラナケレバナラヌコトデアラウト思フ、ツレヲ僅ニ政府ガ、今ノ政府ガ不信任デア、ルガ故ニ出來ヌ、私モ或ハサウシヤナイカト思フ、併ナガラツレヲ言フテ居ツタ日ニハ諸君ハ何時條約改正ヲスル積リデア、先ヅ二十年モ三十年モシナイデ置クト云フノデア、ルカト聞カナケレバナラヌ、然ラバ誰ガナツタラ出來ルカト云フコトヲモウ一ツ聞カナケレバナラヌ、大隈サンデア、ルカ(「ひや」ト呼フ者アリ) 品川サンデア、ルカト云フコトヲ聞カナケレバナラヌ、吾々ガ見ルトゑらい人モアリマセウ、アリマセウガ兎ニ角ニ一口ニ言ヘバどんぐどんぐ脊

競べ（ひやく）ト呼フ者アリ）ツレデ居ル間條約改正ヲセヌト云フナライザ  
知ラズ、スルト云フ以上ハサウ云フ弱イ人デアルナラバ、尙ホ諸君ガ贊成ヲ  
シテ援ケテヤツテ、改正ノ出來ル様ニスルガ國民ノ義務デアラウト私ハ思ヒ  
マス（拍手起ル）長クハ述べマセヌガ、先ヅ第一此條約ヲ改正セナケレバナ  
ラヌ必要ヲ述ブルジヤゴザイマセヌガ、ト言ツテ矢張述べナケレバナラヌガ、  
第一番ニ立憲政體ハ開ケ、代議政治ガ行レテ居ルト云ヒナガラ、今ノ條約ヲ  
保存シテ置イテハ到底日本ノ憲法ト云フモノハ行レテ居ラヌ、之ニ對シテデ  
モ國民ハ改正ヲ催促シナケレバナラヌ、政府モ亦先シテ改正ヲヤラナケレ  
バナラヌ義務ガアル、若シ内閣ガ不信任デアルガ故ニ、諸君ハ憲法ニ背イテ  
モ憲法第一條……（分リマシタ）ト呼フ者アリ）固ヨリ分リ切ツテ居ル、  
少シ御讀ニナツタラ分ル、諸君ニ其位ノコトガ分ラヌコトハナイ、分ツテ居ル  
ナラバ贊成シサウナモノト思フ（ひやく）ト呼フ者アリ、田中正造君（分ツタ  
カラシナイダラウ）ト呼フ）所デ最終ニ臨ンデ尙ホ一言言ヒマスガ、則チ之ヲ  
此憲法ヲ完全ニ行ハウト思ヘバ、ドウシテモヤラナケレバナラヌ、ヤラウトス  
レバ外ニ適當ノ人ナシトスレバ、誰デモ構ハヌ援ケテヤツテ立派ニサセルト  
云フコトノ覺悟ヲシナケレバナラヌト云フコトハ自カラ明ナコトデゴザイマ  
スガ、之ヲヤルノニ至ツテハ到底姑息ナ、到底不對等ナ不完全ナ條約改正ハ  
何人ガヤツタ所ガ日本ノ國情輿論ガ承知スルモノデナイ、故ニ吾々ガセガむ  
ト同時ニ政府ノ人ニ向ツテ飽クマデ立派ニ對等條約ヲヤツテ呉レナケレバ  
ナラヌ、其決心デヤリ損ヒ、若シツレガ出來ナカッタ時ハ年數ヲ限ツテ條約ヲ  
廢棄スルト云フ宣言書ヲ外國ニ向ツテ送り、日本ハ無條約國トナサリマセト  
責ムルノデアアル、此時ニハ我國民ハ黨派ノ如何ハドウアラウト思フトモ、感  
情ハ如何ニアラウトモ、打捨テ、此日本帝國ノ利益、帝國ノ公利ノタメニハ  
協同一致シテ守ルゾト云フ所ノ決心ヲ政府ニ示シテ置クノハ必要デアアル、弱  
イ人ニハ尙ホツレヲ言フテ置クノガ必要デアラウト思ヒマス、而シテ此壇ヲ  
降ルニ就イテ一言言フテ置クマスガ、條約ヲ廢棄スルト云フコトハナカ  
レカムヅカシイコトデアアル、私共ハサウ思ハヌ、公法上デ立派ニ許シテ居ル、  
而シテ日本ニハ廢棄スルノ理由ガ澤山アルト思フガ、何ニシテモ容易ナラ  
ヌコトデアアルカラ、望ムコトデハナイガ、萬已ムヲ得ズ之ヲヤル時ニハ、  
政府モ國民モ一大決心ヲ持タンケレバナラヌ、其決心ヲ用ヒル時ニ方ツテハ  
試ニ諸君ニ問ハンケレバナラヌ、殊ニ星君ニ一言相談センケレバナラヌ、此間  
長谷場君ガ條約履行ノ則チ上奏案ノ出タトキニ、若シ履行シテ英吉利ガ在英  
國ノ日本人ヲ放逐シタラドウナサルト云フ御尋ガアッタ、是ハ條約ノ文面ニ  
ハナイト云フコトヲ鳩山君ニ答ヘラレタガ、其通り條約文面ニモナイコトヲ  
無法ニ英國ガソナコトヲシヤウ答ガナイト吾々ハ思ツテ居ル、萬々一ニモ  
スルト云ヘバ、日本モ又ツレダケノ決心ヲシナケレバナラヌ、ソコニ至ツテ  
ツレガ怖ハクテ條約ノ履行案ニ贊成ガ出來ヌト云フ様デハ條約ヲ廢棄スルコ  
トハ尙更出來ヌト言ハンケレバナラヌ、要スルニ大問題デアアルガ故ニ、條約廢  
棄ト云フコトニナレバツレ位ノコトハ或ハ英國ガヤルカモ知レヌト云フ決心  
ヲ持タナケレバナラヌ、兎ニ角條約改正ヲ斷然ヤル、出來ナカッタトキニ廢  
棄ヲスルト云フコトニナツテ來テモ、朝鮮ヲ怖ハイト云フ様ナコトデハイキ  
マセヌゾト云フコトヲ政府ニ向ツテ吾々ガ言ハンケレバナラヌ、其當時朝  
鮮ヲ怖ハガル、人ヲ怖ハガル様ナ人デハ尙更出來ヌコトデアルト言ハナケレ

バナヲヌト吾ハ思ヒマス  
○長壽彦君(二百九番) 討論終結  
○議長(楠本正隆君) モウちつとヤリマセウ、高田早苗君

(討論終結ニ賛成ト呼フ者アリ)  
○議長(楠本正隆君) 賛成ガ定數ニ充タヌ様デアリマス  
(高田早苗君演壇ニ登ル)

(目黒貞治君「ナルナラ」通告式ヤラシテ貫ヒ、ナマシヤラセナイナラ  
討論終結ニシテ貫ヒタイト呼フ)

○高田早苗君(八十番) 諸君、本員ハ先程三崎君ガ御親切ニ屢々御披露下サ  
レマシタ通り曩ニ條約改正ノ上奏案ヲ提出致シマシタル所ノ一人デゴザイマ  
ス、又現ニ今日ニ於キマシテモ條約改正上奏案則チ曩ニ吾ハ三崎君等ト共  
ニ提出致シマシタル所ノ其趣意ノ貫カレシコトヲ日夜希望シテ居リマ  
ス、併ナガラ條約改正上奏案ニ私ガ賛成ヲスルト云フコト、此條約改正建議  
案ニ反對ヲスルト云フコトハ全ク別問題デアアル(の)勿論條約改正上奏  
案ニ私ガ賛成シ提出者デアルト云フ其理由ガ此建議案ニ反對スルト云フ理由  
ニモナルノデアアル(の)「ひや」何シガ故ニ前年吾ハ條約改正ノコト  
ヲ上奏致シタルデアアルガ(長イ演説ハ止ムベシト呼フ者アリ)條約改正ノコ  
トハ元來大權ノコトデアアルカラト云フ理由ノミデハ勿論ナイノデアアル、縱令  
大權内ノコト、雖モ責任ヲ負フテ政府ガヤルノデアアルカラ建議案トシテ提出  
シテモ一向差支ナイノデアアル、併ナガラ之ヲ特ニ上奏案ト致シテ 陛下ノ聖  
明ヲ煩ハシ奉ツタト云フハ何デアアル、彼ノ懶惰ナル所ノ内閣——勇氣ナキ所ノ  
内閣——此内閣ニ對シテ建議ヲ致シテモ逆モ條約改正ニ著手シサウモナイニ  
依ツテ、恐レ多クモ 陛下ニ申上ゲテ 陛下ヨリシテ閣臣ヲ督促セラレンコ  
トヲ希望シタル譯デアアル、若シ建議ヲ提出シテ宜シケレバ先年提出スルノデ  
アル、建議案デハなまぬるさニ依ツテ、建議案デハ利キ目ナキニ依ツテ、先  
年上奏案ヲ提出シタル吾ハ今更建議案ヲ提出スル杯ト云フソナ馬鹿ラシ  
キコトニ同意ハ出來ナイノデアアル(ひや)且ツ先刻諸君ノ一人ガ  
三崎君ニ質問サレタルガ如ク、先日伊藤伯ハ何ト云ハレタカ、條約改正ヲ今  
シ、アルノデアアル、運シテ居ルノデアアルト云ハレタカ、今シ、  
アル、運シテ居ル、直キ出來ルト云フ人ニ向ツテ早クナスツテ下サリマセト  
云フハ實ニ撞著ノ甚シキモノト云ハナケレバナラヌ(三崎君之助君「建議案ト  
能ク見ルベシト呼フ」)「シテ居ルナラバ催促スルガ宜イ、今ヤツテ居  
ル」(急イデ居ルト云フモノ)ニ對シテ早ク御ヤリナサイ、御急ギナサイト云フ  
ハ私ハ實ニ分ラヌコト、言ハナケレバナラヌ(三崎君之助君「建議案ヲ讀メ  
バ分ル」ト呼フ)又「君ガ何時モ車夫ニ強ヒルジヤナイカ」ト呼フ者アリ)所ガサ  
ウ申シタルレバ或ハ言フデアラウ、先程ドナタデアツタカ、賛成論者ノ一人  
ガ言ハレタト思フ、ツレハ成ルベク能クヤレト云フ催促デアアル、完全ニヤレ  
ト云フ催促デアアル、對等條約ヲヤレト云フ催促デアアル——ツレナレバツレデ  
宜イ、併ナガラ若シサウデアルトスルト今一ツ論點ヨリ攻撃セナケレバナラ  
ヌト云フコトニナリマス、昨日ノ決議ハ如何、諸君、昨日ノ決議ハ條約ノコ  
トニハ何ノ關係モナイカモ知レナイ、解散ノコトニ關シテ不信任ノ決議デ  
アルカモ知レナイノデアアル、條約改正ト云フ大事ニ較ブレバ小事、小事ニ就  
イテ不信任決議デアアルカモ知レナイノデアアル、併ナガラ小事ニ就イテサハ

不信任決議ヲシナケレバナラヌト云フ位、内閣ニ大事ノコトニ就イテ吾ハ  
信任ヲシテモ宜イト云フ論理ハ何レノ邊ヨリ生ズルノデアアルカ、實ニ私ハ不  
可思議ノ至リデアアルト云ハナケレバナラヌ(拍手起ル)山田東次君何故休會  
ヲシナイト呼フ)或ハ云フデアラウ、三崎君ノ言ハル、如キコトヲ言フ人ガ  
アルデアラウ、實業ノ案杯ガ出テ居ルデハナイカ、如何ニモ止メテシマツタ  
ガ宜イデハナイカ、實ニ一ヲ知ツテ二ヲ知ラザルノ甚シキ論ト云ハナケレバ  
ナラヌ(ひや)鐵道ヲ敷ク位ノコトハ條約改正ト輕重如何デアアルカ、鐵道  
ヲ敷ク位ノコトハ政府ニ大臣ガ一人モ居ラナイデモ宜イ、技師サハアレバ鐵  
道ハ敷ケルノデアアル、吾ハ大臣ノ不信任決議ハナシタケレドモ、未ダ技師ニ  
ハ無信任決議ハナサナイノ鐵道ニハ關係ハアリマセヌ(笑聲起ル、田中正造  
呼フ者アリ)御氣ノ毒ナガラ鐵道ニハ關係ハアリマセヌ(笑聲起ル、田中正造  
君「三崎一本參ッ」ト呼フ、又星亨君「厲行建議案ハドウデス、アレハ説明  
シマセヌ」ト呼フ)斯ノ如キ次第デアアル、議會ノ大體ニ關ルノデアアル(山田  
東次君「休會スル勇氣ハナイカ」ト呼フ)又「ツレハ議長ガ三分ノ二以上ノ多數  
ヲ除名サレタキダ」ト呼フ者アリ)小サイコトデサヘ出來ナイ、遣リ方  
ガ惡イト言ツテ不信任ノ決議ヲシテ置キナガラ(止メロト呼フ者アリ)  
此天下ノ事、國家ノ大事、條約改正ト云フコトニ就イテ此内閣ガ信任ガ出來  
ルニ依ツテ之ヲヤツテ御賞ヒ申シタイ、早クヤツテ貫ヒタイト 昨日ノ  
決議ヲシタルニ拘ラズ今日斯ノ如キ決議ヲ致シタ日ニハ此議會ノ大體ガ汚  
レルト云ハナケレバナラヌ(拍手起ル)「ひや」然ラバ休會ノ動  
議ヲ出シ給ヘト呼フ者アリ)又此條約改正建議案ヲ見ルト云フト(山田東次  
君「休會ヲスル丈ノ勇氣ハアルマイ」ト呼フ)政府ハ之ニ對シテ斷然タル處置  
ヲ施サルベカラズ、斷然タル處置ヲ施シテ貫ヒタイト云フノハ條約廢棄ト  
云フコトデ、強イ上ノ強イノデ、此上ナシノ大決心デアアル、誠ニ結構ナコトデ  
アル、斷然タル處置ヲ爲サルベカラズ、誠ニ結構ナコトデアアル、條約改正ヲ  
ナスノニハ條約廢棄ノ決心ガナケレバ出來ヌコトハ誠ニ御同意デアアル、併ナ  
ガラ今ノ内閣ニ此大決心ヲ以テ條約改正ヲシヤウ、出來ナイ時分ニハ現條約  
ノ廢棄マデセヨナジト云フコトヲシナケレバナラヌコトデアアルガ、今ノ内閣  
ニサセルト云フコトハ、今ノ内閣ニ其決心ヲ促スト云フコトハ、恰モ雙ニ立  
テト云フコトト同ジコトデアアル(拍手起ル)大隈サンデナケレバ出來ナイカネ  
レバ、無論條約改正ハ出來ナイト私ハ思フ、先ツ條約改正ヲ英國ニ申込ム、  
昔英國ノ條約改正ハ條約改正ノ相談相手ニスルニハナカレド、困ツタ英國デア  
隨分威張ツタ英國デアツタガ、世ノ中ハ推シ移リマヌカレド、昔ノ英國ハ今ノ  
英國ト大ニ違フ、今日ハ此東邦ニ於テ露英相競ツテ居ル所ノ場合デアアルカ  
ラ、隨分日本ノ言フコトモ肯クノデアアル、隨分改正ノ注文ニ 況ザル不  
知レナイ、其他ノ國モ應ズルカモ知レナイ、英國モ應ズル、佛國モ應ズルカモ  
ハ少クトモ現條約ヲ廢棄スルト云フ丈ノ決心ハ何時カ一時ハ持タナケレバ  
ラヌト私ハ思フノデアアル、ナセサウ云フカ、支那ハ如何デアアル、支那トハ如  
何ナル條約改正ヲスル積リデアアルカ、支那トハ對等條約ヲスル積リデア  
アルカ、對等條約デ此日本ガ満足ガ出來ル積リデアアルカ、無論支那ト日本ト同等  
ノ國カモ知レナイ、ケレドモ如何デアアル、支那ト對等條約ヲ結ンデ支那人ガ  
諸君ノ向フ三軒兩隣リニ來テ其レデ宜イカ、諸君ノ營業ヲ奪ッテツレデ宜シ



シテ内閣ヲシテカラニ一日モ早ク條約改正ノ事業ヲ成就セシムルノ意デゴザ  
イマス、斯ノ如クナラバ私ハ滿堂諸君ハ愛國心ニ富ミテ居ル所ノ諸君ニシ  
テ、斯ノ如キ建議案、斯ノ如キ大問題ヲ早ク落著テ附ケヤウト云フ案ニ向ッ  
テ、區々タル事柄ヨリ反對ヲナサルト云フコトハ決シテアルマイト思ヒマ  
ス、特ニ改進黨ノ諸君ニ御忠告ヲ申上ゲマスガ、ドウカ大隈サンガヤリ損フ  
タ事業ヲ脇デサレテハナラナイトカ、或ハ今ノ内閣ハ誠ニドウモ不信任デ  
アルカラ腰ヲ叩イデモ往ケナイトカ云フ感シデナクシテ、宜シク子ヲ護立テ  
テ十分ニ仕事ヲサスルノ決心ヲ以テ、此案ヲ賛成セラレンコトヲ希望致シマ  
ス(拍手起ル)

○大久保端造君(二百七十二番) 討論終結ノ動議ヲ出シマス

(賛成々々)ノ聲起ル

○議長(楠本正隆君) 討論終結ガ則チ議場ノ問題トナリマシタ——二百七十

二番ヨリ討論終結ガ出テ賛成ガゴザイマス、決議ヲ採リマス、討論終結ノ動

議ニ賛成ノ諸君ハ起立

起立者 多數

○議長(楠本正隆君) 大多數

○星亨君(四十八番) 一寸議長ニ承ハリタイ、先程高田早苗君ガ未ダ登壇セ

ラレザル前ニ當テ既ニ討論終結ガ出テ居テ、ソレガ定規ノ賛成ガアッテ(二の

一)ノ聲起リ議場騒然タリ速記録ヲ御覽ナサイ——ソレガ出テ上デ議長

登壇ヲ促スト云フコトヲ言ハレテ居ルノデアル、サスレバ先程雙方言ハシテ

上デナケレバナラヌト云フコトノ一ノ聲起リ議場騒然タリ則チ雙方

言ハシテ居ル、然ルニ議長ハ斯ルコトヲナススタハ如何ナル意思デアリマ

スカ、承ハリタイ(一ノ聲起ル)速記録ニ書イテアリマス

(無用々々)ノ聲起ル

○議長(楠本正隆君) 賛成ガアリマセヌ、定規ノ賛成ガアリマセヌ、故ニ登

壇ヲ促シマシタ

○大井憲太郎君(四十番) 討論終結ノ決ヲ採ル間ニ於テ取上ゲテハ往ケマセ

ヌ

○柏田盛文君(百八十九番) 記名投票デ願ヒマス

(賛成々々)ノ聲起ル

○議長(楠本正隆君) 記名投票ヲ以テ原案ノ決ヲ採リマス、原案ヲ賛成スル

者ハ白札、反對ハ青札、閉鎖ヲ命ジマス——氏名點呼ヲ始メマス

(町田書記官氏名ヲ點呼ス)

○議長(楠本正隆君) 是ヨリ開匣ヲ致シマス

(書記官投票ノ數ヲ計算ス)

○議長(楠本正隆君) 投票ノ結果ヲ報道シマス

總數 二百九十

原案ヲ可トスル者 百四十

否トスル者 百五十

(拍手起ル)

○議長(楠本正隆君) 是ニ依ッテ原案廢棄ニ決シマス……著席ヲ促シマス

……著席……諸君

○齋藤圭次君(百九十九番) 緊急動議ガゴザイマス

○長壽彦君(二百九番) 賛成

(賛成々々)ノ聲起ル

○齋藤圭次君(百九十九番) 緊急動議ノ要旨ハ曩ニ請願委員長ノ報告ニ於キ

マシテ請願中院議ニ付スベキモノ、報告ヲセラレタル第一項、則チ石代引當  
米過剩金下渡請願申スコトニ就キマシテ、アノ請願ハ其表面カラ見マスレ  
バ、單ニ石代ノ賣捌代金過剩金下戻シノ請願ニ止リマスルガ、深ク吾々ノ調査  
スル所ニ於テハ彼ノ請願ハ政治上ノ問題ヲ含ミタモノデゴザイマシテ、大ニ  
吾々ガ之ヲ調査スルノ必要ガアラウト考ヘマスル、故ニ院議ニ掛ケマスル前  
ニ於テ此案ヲ九名ノ特別委員ヲ舉ゲテ十分調査致シマシテサウシテ此政治  
上ノ問題ヲ審議致シタイト云フ考デゴザイマスルガ故ニ、九名ノ特別委員ヲ  
選定セラレンコトヲ乞フノ緊急動議デゴザイマスカラ、就イテハ議事日程ノ  
變更ヲ第一ニ求メマス

(賛成々々)ノ聲起ル

○蒲生仙君(百九十八番) 次席ノ百九十九番ノ動議ニ賛成シマス

○議長(楠本正隆君) 議事日程ノ變更ハ討論ヲ須井ズシテ決ヲ採リマス——

百九十九番ノ議事日程ノ變更ニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 多數

○議長(楠本正隆君) 大多數

石代引當米過剩金下渡請願ニ關スル件ニ付審查特別委員ヲ設クルノ

緊急動議

○議長(楠本正隆君) 百九十九番ノ登壇ヲ促シマス

(齋藤圭次君演壇ニ登ル)

○齋藤圭次君(百九十九番) 本員ガ發議致シマシタル此山口縣周防國佐波郡

佐波村金子辰次郎外十四名ヨリ本院ニ請願ニ相成リマシタル地租引當米過剩

金下戻請願書ヲ本院會ニ於テ九名ノ特別委員ヲ選舉致シテ十分審議致シテ之

ヲ院議ニ付シタイト申シマスル要旨ハ、即チ特別委員ヲ選定セラレンコトヲ

望ムノ要旨ハ、餘程原因ノ深イモノデゴザイマシテ、或ハ此演說ニ於テ述ベ

盡スコトガ出來マイト信ジマスガ故ニ、豫メ是非トモ此委員ヲ選定致シテ私

ノ演說ハ此材料ノ十分ノ一二モ足ラザルモノデアリマスルガ故ニ、先ヅ以テ

委員ノ成立ヲバ飽迄第一ニ望ムデ置ク次第デゴザイマス、抑此引當米請願書

ト申シマシタルラバ單ニ山口縣人民ガ明治六年ヨリシテ貢租ニ引當米ヲ致シ

テ即チ地價百圓ニ就イテ玄米一石ヲ之ヲ縣廳ニ納メ置キ、若ハハツレヨリ以

後成立ツタル協同會社ナルモノニ預ケテ置イテ言ハキ委託販賣ノ姿ヲ以テ此

人民ヨリ預ツタ石代ノ縣廳ハ賣捌イテ、其金ヲ以テ貢租金ニ充テ、餘ル金ヲ

バ人民ニ割返スト云フ制度デアツタモノデアアル、故ニ此賣捌イタ金ノ人民ニ

下戻シガ少ナイトデアアルガ故ニ、之ガ政府ニ殘ッテ居ルデアラウカラ、之ヲ

下戻シガ少ナイト云フノガ則チ請願ノ要旨デゴザイマス、サリナガラ是ハ

斯ク淡泊ニ申セバ實ニ意味ノナイヤウナモノデゴザイマスルガ、此人民ガ預

ケタル米ヲ賣ッテ而シテ是デ地租貢金ヲ納メ、尙ホ餘ツタル金ハ政府ニ殘ッテ

居ルガ如クニ見ユルト云フモノニ就イテハ實ニ大ナル原因ガアルデアアル、

則チ政治上ノ問題ハ是ヨリ生ジテ來ルモノデアアルト私ハ考ヘルモノデゴザイ

マスル、私ガ先ヅ以テ此事ニ關シテ昨年以來多少ノ調査ヲ致シマシタル上カ

ラ見マスレバ、是ハ此人民ニ斯ノ如キ不幸ヲ掛ケテ居ルモノハ、全ク此藩閥

情實ノ然ラシムル所デアアルト云フコトハ、第一ニ斷言ヲスルコトヲ憚ラナイ

ノデアアル、又元勳ノ内閣中ニ於テ顯要ノ地位ニ立ッテ居ル者ハ此貢米ヲ賣捌

クト云フコトニ就イテハ命令ヲ下シ、若クハ躬自ラ此貢米ヲ引締メテ大ナル

利益ヲ占メテ此人民ヲ悩マセテ居ルシ、若クハ躬自ラ此貢米ヲ引締メテ大ナル

ハ考ヘテ居ルノデゴザイマス、故ニ左様ナコトヲ調査スルニハ速モ此議會ノ

議事ニ直チニ上ツタ所ガ出來ナイノデアアル、是レ則チ特別委員ヲ選定スルコ

トノ必要ノ第一デゴザリマシテ、而シテ私ハ此案ノ如キ、今茲ニ政府藩閥ノ材料即チ政府藩閥ノ實ヲ穿ツニ就イテハ誠ニ之ヲ以テ十分ノ大變サナイノデアル、政府ノ今日マデノ藩閥情實ノコトヲ許クナラバ、其例ヤ大變ゴザイマセウ、故ニ是ハ唯一ツノモノデゴザイマスル、併ナガラズノ如キノ情實ニ流レテ來テ以テ而シテ非ハ非、是ハ是ト之ヲ判別スルコトガ出來ナクツテ、山口縣ノ人民ガ今日マデ苦シンダコトヲ考ヘテ見レバ、實ニ吾ニハ慨嘆ニ堪ヘナイノデアル、人ハ明治六年七八年ノ此實米價ノコト可シ其過剰金下戻シノコトヲ明治二十七年ノ今日ニ於テ請願スルコトハ實ニ可笑シナ話デアル、期限ガ非常ニ過去ツテ居ルノデアルトス様ニ答メラレマセウガ之ニ就イテハ答メル人ハ尤モデアルケレドモ事實ガ斯様ニ遷延セザルヲ得ザル場合デアッタノデアル、何トナレバ山口縣人民ハ此事ヤ既ニ明治七年頃ニ於テ明治六年頃ニ此處置ヲ知ツテ之ヲ縣廳ニ訴ヘ、或ハ其他ノ官衙ニ訴ヘテ此處分ヲ附ケント致シマシタケレドモ、常ニ行政官ノ壓倒スル所トナツテ此目的ヲ達スルコトガ出來ナイノデアル、續イテ縣廳ニ決算報告ヲ求ムルモ之ヲ示サズ、郡役所ニ之ヲ求ムルモ之ヲ示サズ、而シテ此事ニ就イテ人民多衆集會スルニ於テハ警察權ヲ濫用シテ此人民ヲ警察署ニ拘留シ、而シテ無名ニ於テ何モ名ヲ附ケズ致シテ百有餘日モ拘留ヲサレテ居リ、而シテ如キモノガ實ニ百有餘人アルト云フ次第デアッタノデアル、ソレヨリ引續イテ明治八年デゴザイマシタラウ、愈々此事ハ吾ニハ縣廳ノミデハイケヌト云フコトヲ考ヨリシテ、人民ハ其當時山口縣ニ設ケラレタル所ノ檢事局ト云フモノニ訴ヲ起シテ、時ノ檢事局長林三介ト云フ人ニ此事ヲ訴ヘタ所ガ、之ヲ採用シテ如何ニモハ不幸ナモノデアアル、十分取調ベテヤウト云フコトヲ此檢事局長ナルモノガ承諾ヲ致シテ而シテ人民ハ之ヲ待ツト雖モ少シモ其處分ヲ致シテ與レナイノデアアル、故ニ段々人民ハ之ヲ調ベテ見タ所ガ最初ハ此人モ斯ノ如キ不都合ノコトヲ整理セント云フ考デアッタケレドモ、段々事情ヲ聞イテ見レバ縣廳及其他有力ナル政府ノ貴顯ガ此事ニ從事シテ居ルト云フコトヲ知ツタルガタメニ、遂ニ此檢事ノ力デ之ヲ許コトガ出來ナイデ、言ハハ泣寢入ノ姿トナツテ檢事ハ之ヲ不問ニ付シ去ツタト云フコトデアアル、ソレ故ニ人民ハ愈々已ムヲ得ズ明治八年ニ於テ之ヲ大阪ノ上等裁判所ニ訴ヘント致シテ遙々野田周吉ト云フ者外一名ノ者ガ大阪上等裁判所ニ出訴ニ及バントシテ大阪ニ出テ參リマス、之ヲ山口縣廳ガ探知ヲ致シテ而シテ探偵吏ヲ尾行サセテ參ツテ、此町野田周吉等ガ大阪ニ著ク同時ニ之ヲ宿屋ニ於テ捕縛致シテ山口縣ニ引還シテ來テ、而シテ之ヲ處刑ニ處スルコト云フ如キノ次第デアッタノデアアル、故ニ人民ハ明治八年マデ斯ク苦心シテモトウ、此目的ヲ達スルコトガ出來ナイ、又之ガ首領トナツタモノハ東京ノ客舍ニ斃レルト云フ如キノ次第デアッタ困難ヲ重ネテ居リ、所ガ漸ク明治十二年ニ於テ之ヲ東京ナル警視局ニ訴ヘルト云フコトノ機會ヲ得タノデアアル、故ニ警視局ニ於テハ今度コソハ十分目的ヲ達シ得ラレト云フ考デアリ、而シテ警視局ニ請願致シタ所ガ、尙又踉蹌ヲ生ジテ遂ニ其目的ヲ達セズ、今日マデ實ニ此慘レナル境遇ニ於テ過去ツテ來タモノデアアル、則チ第五議會ヨリ此請願ヲ人民ガ爲シ、アッタモノデゴザイマス、斯ノ如キノ次第デアリマスガ故ニ、年ハ大變古イモノデアアル、雖モ人民ハ此願ヲ十分爲サンシテ爲シ續ケテ來タモノデアアル、斯ク後レタ證據ニナルノデアアル、人民ガ之ヲ緩漫ニ附シ去ツタモノデアアル、云フコトハ明ナノデゴザイマスノミナラズ、此明治十二年ニ而カモ段々社會ハ進歩シテ來テ居ル、明治十二年ニ何故ニ此大疑獄ガ審判セラレナシタカ、

彼ノ警視廳ニ於テ此事件ガ公判ニ附セラレナカッタカト云フガ如キハ、是ハ話ノ順序トシテ後トニ申上ゲナケレバナラヌノデアアル、詰リ斯ウ申シマスレバ此裁判ガ、此訴願ガ、實ニ人民ノ危急ヲ救フベキ此事件ノ延延シテ居リタツト云フコトハ明デアアル、而シテ是等ノコトハ獨リ私ハ此事件ノミデナイト思フ、是等ハ一例デゴザイマセウ、現ニ私共記憶シテ居ル所ニ於テモ此陸軍省ノ如キモノハ日本ノ干城タル武人烈士ノ集合スル所ノ場所デアアル、此陸軍省ガ實ニ腐敗ヲ來サレタ云フ様ノ例ヲ見テ居ルノデアアル、彼ノ陸軍省ハルコトデアアル、又海軍省ノ如キモノ左様ノ例ヲ見テ居ルノデアアル、省ニ於テ山城屋和助ト云フ者ニ陸軍ノ官金ヲ依賴ヲ致シテ、之ヲ全ク依賴シタトキニ於テ陸軍ノ如何デアアッタカト云フニ、陸軍ノ士官達ハ此山城屋ナル者ヨリ無暗ニ金ヲ借りテ之ヲ費消致シタ、所デ遂ニ此山城屋ナル者ハ此金ヲ償却スルガタメニ非常ナル困難ニ陥リ、ト云フテ此貸シタル陸軍ノ武人ニ向テ是ガ辨濟ヲ求ムルコトハ出來ズ、遂ニ山城屋ナル者ハ其金ノ償却ニ困リ而シテ他人ヲ罪人ニ陷レルハ之ヲ氣ノ毒ニ思ツテ、遂ニ義侠心ヲ發シテ彼ノ山城屋ナル者ハ數百通ノ證文書類ヲ燒イテ而シテ割腹ヲシテ此始末ヲ附ケタメ云フコトデアアル、ケレドモ又其上ニ燒殘リノ證文書類ガ堆カクアッタガメニツレリ開イテ見ルニ於テ實ニ陸軍省中ノ人ハ此商人ナル山城屋ヨリ非常ノ金ヲ借りテ居リ、又強奪シタルガ如キ形跡アルヲ以テ、時ノ司法省ニ就職シテ居リタル彼ノ江藤新平氏ノ如キ若クハ島本仲道等ノ人ハ此大疑獄ヲ審判セントシテ非常ニ苦心シタ、雖モ遂ニ其當時要路ノ内閣ノ人ハ之ヲ蔽フテ實ニ自分ノ惡事ヲ現レシコトヲ恐レテウ、之ヲ抑ヘミテ此正義ノ江藤新平等ノ議論ハ採用シナカッタト云フコトハ、私共實ニ之ヲ記憶シテ居リマス、ノミナラズ彼ノ江藤新平ガ佐賀ニ亂ヲ起シタトキニ此政府ノ腐敗ヲ檢文ノ中ニ書イテ社會ニ發表シタ、是等ヲ見レバ斯ノ如キ情況ガ今日迄多カッタ、今日迄ノ情實ハ世ノ中ノ正義ヲ抑ヘテ此中ニ蟠ツタ情實ハ實ニ深カッタモノデアアルト云フコトハ此一例デモ御分リニナルコトデアラウト思フノデアアル、サレバ此山口縣ノ如キハ最早此一事ヲ以テ國家ノ干城タル陸軍省ノ事柄ニ於テ既ニ然リ、此山口縣ノ如キハ是カラ見レバ小問題トモ云フベキカ、十分情實ノタメニ人民ハ苦シメラレタモノデアアルト云フコトハモウ明デアラウト私ハ思フノデアアル、ケレドモ話ノ順序ト致シテ之ヲ一應申サナケレバナリマセヌガ、先ヅ以テ山口縣ノ人民ガ斯クモ不幸ノ地位ニ陷ル事柄ハ何デアアルカ、則チ山口縣ノ人民ハ（海軍省ハドウデス）ト呼フ者アリ、海軍省ハ三谷三九郎一件ト申ス、山口縣ノ人民ガ先ヅ以テ此請願ニ認メテ來デアリマスル石代ノ相場ヲ詐欺サレタト云フノガ第一ノ主眼デアアル、即チ縣廳ガ人民ヨリ預ツタル米ヲ仕切ツタ相場ハ明治六年分ニ於ケマシテ縣廳ハ預ツタ米ヲ四圓二十錢一厘ノ相場デ之ヲ仕切ツタノデアアルケレドモ、其實ヲ申セバ其當時ニ明治六年ノ米ヲ賣ル時、即チ一月ヨリ四月マデノ直段ト云フモノハ秋ノ米商會社ノ相場ヲ探ツテ見レバ幾ラデアアルト云フノニ六圓二十四錢六厘位ノ平均ニ當ツテ居ルト云フコトデアアル、又是ハ米商會社ノ平均相場デアアルケレドモ、實際其當時各村ノ戸長等ガ人民ヨリ總テ、米ノ相場ヲ以テ取立ツテ居ルノ見ルナラバ五圓七十九錢位ノ相場ヲ以テ人民ヨリ戸長等ガ之ヲ取立ツテ居ルノデアアル、然ルニ縣廳ガ人民ヨリ預ツタ米ヲ支拂ツタ所ノモノハ四圓二十一錢一厘ト云フモノデアアル、之ヲ致シテ居リマスガ故ニ、若シ秋ノ米商會社ノ相場ト之ヲ比較シテ見レバ一石ニ就イテ二圓某ノ相違ト云フモノガアルノデアアル、則チ之ヲ山口縣ノ全國ヨリ預ツタ石數十萬何千石ト云フ貢米ニ之ヲ掛ケテ見マシタナラバ如何デアアルカ、即チ一石ニ

就イテ二圓餘ノ差ト云フモノハ全國ニ對シテ——山口縣全國ニ對シマシテハ四十萬圓カラノソコニ相違ト云フモノガナケレバナラヌ、則チ其相違ハ何處ニ這入ツタノデアルカ、實際ノ相場ハ左様ニ高ク賣レルベキ時ニアツタノニ、左様ニ安ク仕切ラレタアツタナラバ、ソレハ縣廳ガ果シテツレダケニ安ク賣ツテ居ルノデアルカ、又高ク賣ツタケレドモ是ダケノ金ハイヅレカニ消滅シテ居ルカト云フコトガナケレバナラヌ、是ハ獨リ六年ノ金ハイヅレカニ消七年八年モ同シヤウナコトダカラ申シマヌ、然ラバ其金ハ縣廳之ヲ保存シテ置クノデアアルカ、政府之ヲ受納シタモデアアルカ、若クハ又左様ニ安ク縣廳ガ賣ツタト云フノハ事實デアツタモデアアルカ、或官吏ガ私ニ消費シテ居ルカト云フ殊更安ク賣ツタノデアアルカ、ソレヲ私ガ調査シタ上カラ見マシレバハ縣廳ナルモノ及共同會社ナルモノニ於テ此差金ヲ以テ種々ニ使ツタト云フコト實ヲ設ケ、或ハ其金ノ餘リト云フモノヲ以テ共同會社ノ者ガ私ヲシテ居ツタカト云フコトモ疑ノ中ニ存シテ居ルノデアアルカ、ケレドモ著明ナル事實ハ一個人ニアラスシテ而モ其時大藏大輔ノ顯職ニ在ル所ノ人ガ是等ノ米ニ手ヲ出シ、是等ノ米ヲ買ツテ商法ヲ致シテ居ツタト云フコトノ事實ガアツタトスレバ、實ニ是ハ官吏トシテ官紀ヲ紊ルモノデアアリ、此官吏ニシテ其職務ヲ蔑ニスルモノデアアルカ、私ヲ勸クルモノ實ニ甚シキ次第デアアルカ言ハナケレバナラナイト思フノデアアルカ(拍手スル者アリ、工藤行幹君氏名ヲ明ニシ給ヘト呼フ)段々ニ是カラ言フ、ソレデ先ヅ以テ私ガ段々ニ調ベタ上ニ於テハ此商法ヲ官吏ニ於テ爲シタル者ハ井上馨君其人コソ實ニ爲シタル者デアアルト云フコトヲ言ハナケレバナラナイ(拍手)則チ其當時大藏大輔ノ職ニ在ツタ所ノ人デアアル、獨リ商業ヲ爲シタルノミナラズ種々薩多ノコトニ手ヲ出シテ居ルト云フコトノ例ヲ舉ゲナケレバナラヌノデアアル、諸君、其事柄ハドウシテ井上氏ガ是ニ手ヲ出シタカト言ヘバ、井上氏ハ身官吏ニ在リナガラ、身大藏ノ大輔ニ在リナガラ、又其後身元老院ノ議員ニ在リナガラ、身工部卿ニ在リナガラ、明治六年頃ノ山口縣令ノ中野梧一、其後大阪ニ商社ヲ結ンデアル中野梧一及大阪ノ藤田傳三郎等ト結合シテ井上氏ノ後ヲ始終商法ヲ爲シテ居ツタト云フコトノ事實デアアル、而シテ大藏大輔中ニ於テ職權ヲ濫用シテ如何ナルコトヲ爲シタカト云フコトノ證據ハ先ヅ以テ職權ヲ濫用シテ自ラ愛スル者、自ラ親シキ者ニ金儲ヲサセタト云フコト一例ハ茲ニ在ル、先ヅ書面カラ讀ミタイト思ヒマシガ、書面デナク中野梧一ノ日誌ニ就イテ私ハ申上ゲタイト思フ、其中中野梧一ノ日誌ニ依リマスルト、明治四年ニ井上氏ガ在職中ニ儲ヲ自分ノ親シキ者ニサセタ簡條ガアル、則チ其未ノ年ノ十二月二十七日

當縣ノ農平原半右衛門救助云々ニ付浪花並ニ當所ノ米六千石三十五兩ノ相場ニテ同人ニ買ハスベシ尤モ早春ハ帆船前船ニテ上海ヘ輸出スル見込ナレバ四十兩ニハ騰貴必セリ則チ救助ノ筋ニ當ル是亦井上ノ内意アリ平原ハ兼テ縣廳ヘ獻金其他功勞アリシ者ナレバツレノ商議ノ上ニテ五千石賣拂可申ト決ス

ト云フコトガ中野梧一氏ノ日誌ニ現レテ居ルノデアアル、是ハ平原ナル者ニハ私恩ヲ賣ツタト云フコトデアラウト思フ、又其次ニ於テ大藏大輔ノ職權ヲ濫用シテドウシタカト云フ證據ハ明治五年ノ五月四日ノ日誌ノ中ニ

馬關ニ御藏ヲ建築シ近縣ノ貢米捌ヲスルハ同意ナレドモ其掛引ヲ大輔電信線ニテ致ス由此條不當ト存シ候

ト書イテアル、斯ノ如キ大輔デアリナガラ貢米ヲ馬關ニ集メテ而シテ政府ノ藏ノ中ニ入レテ置イテ、ソレヲ大藏大輔ガ電信デ掛引ヲシテ錢儲ヲスルト云

フノハ流石ニ仲間ノ中野梧一モ不當ト存シ候ト書イテアルニ至ツテハ驚入タコト、言ハナケレバナラヌ(拍手)ソレカラ茲ニアル明治五年矢張大藏大輔在官中ノコトニ於テ會社ヨリ——六月二十二日ノ條ニ

會社ヨリ二十一萬九千五百圓五萬石ニ付四圓三十五錢ノ積リ右米代ノ内十萬圓ハ著致スニ付井上へ兼テ約束ノ内二萬三千石南海米ヲ以テ渡シ方有之由頼談ナリ依テ勸農局ヘ引渡シ相濟ム

ト云フコトガ書イテアル、是モ則チ井上氏ガ大藏大輔ノトキニ於テ之ヲ役ニ在リナガラ豫テ約束ノ二萬三千石ト云フモノヲ渡シタト云フコトヲ中野梧一ガ日誌ニ留メテ居ツタモノデアアル、其次ノ條ニ於テ——六月二十五日ノ條ニ於テ

杉浦入來米拂方井上へ偏スル不隱斷然一般入札ト可致旨懇々論セリ頗ブル至當ナレドモ書イテアル、全ク井上ナル者ハ大藏大輔デアリツ、モ此山口縣廳ニ向ツテ斯ノ如キ商法ヲ營ンデ居ツタモノデアアルト云フコトハ明デアアル、則チ時ノ相場ニ拘ラズ安ク之ヲ買ツテアレバコソ斯様ナ商法ヲ彼レガ求メタト云フコトモ明デアラウト私ハ思フノデアアル(拍手)是ヨリハ此如何ニ米ヲ安ク買ツタリシカノ證據ニ少シク私ガ井上ノ書面ヲ申述ベナケレバナラヌト思フ、斯ウ云フコトガアル

兼テ御尊ノ馬關ノ六千石丈ハ是非共引受置度モノニ御坐候何卒御工夫ニテ當時ノ價值ヲ買取置度候左候ハ、老臺モ

則チ中野梧一ノコトデス

初陣手下シテ其利益ハ折半仕度候得バ(笑聲起ル)凡ソ頃日八十錢ニ候得バ買取候テモ四千圓位ノ益ハ可有之ト愚考仕候間將軍共御内談被下度候云々

八月十四日 梧一様 聲

ト云フコトガアルノデゴザイマス、ソレカラモウ一ツ例證ニ——幾ツモアルケレドモ委員ノ御方ニ見テ貴ハナケレバナラヌガ、モウ一ツ證據ニハ

近々將軍ヨリ傳承候處俗吏等種々議論モ有之不一方御高配ナサレ候由諸君覺エテ居テ下サリ、自分デ惡ルイ事ヲスル者ノ方ガ正直ノ方ヲ俗吏ト稱ヘテ居ル(笑聲起ル)

一方ナラス御高配ナサレ候由實以テ御氣ノ毒千萬ノ願申上候終ニ先醒ノ御名譽ニマデ關係次第商人トシテ不相濟只々頓首ノ外無御坐候云々陳驚歎ハ

御地ノ米一條テれがらふノ模様ニテハおきいけぬト察讀仕候金納相濟ノ分モ御拂下六數事ニ候哉又殘二萬七千カ最早御

御何々ト云フコトガ原書ガ判ツテ居リマセヌ

有之候哉自然何レニテモ不出來ト申スト生ノ困難ハ糧米ト同轡ナリ

誠ニ分ラナイ文章デス

何レ俗論騰貴候テ好商米ヲものほ——リシタトカ又ハ商人中ヨリ妬心ヲ生シ強訴ニテモ仕候カ或ハ萩ノ動搖ヲ御推察候テ入用米モ出來可申ト御接シヨリかんてこてんとモ種々

かんてこてんとトアリマスガ、英語デモ無イヤウダシ、何ダカ分ラナイ種々詰合仕候得共仔細ハ不相分故困窮千萬ニ候云々

是ハ則チ餘リ米ヲ安ク買ハセルガタメニ議論ガ出タメニ井上ニ拂ハサセラレナイト云フ様ナ都合ニナツタ大ニ狼狽シタル時ノ書面ダト云フコトハ明ニ見エテ居ル、其他書面ヲ一々讀ミマスレバ非常ニゴザイマスルガ、一ツ是ノミバカリヲ讀ンダ所ガ仕方ガナイ、先ヅ此位ニ致シマセウ、而シテ斯ノ如ク

ニ米ヲ安ク買ツタト云フコトハ歴然ト證據ガアツテ「老臺モ初陣ノ手下トシテ其利益ハ折半ニスル」ト云フコトガアツテ見レバ、全ク此山口縣ノ米ト云フモノハ其當時六圓ノ相場ガアツタモノデ、之ヲ知事ハ則チ縣令中野梧一及井上馨ナル者トノ結托ヨリシテ或相場ヲ安ク引受ケテ居タルト云フコトハ明カデアラフと思フ、然レバ此金ト云フモノハ井上馨及中野梧一ニ等ガ商法ニ依リテ儲ケテ仕舞ツタモノデアツテ、後トニ殘リガナイモノデアラカ、否、サウデハナク是ハ或ル部分デアツテ而シテマダ此外ニ縣廳ガ高ク賣ツテモ安ク賣ツタ風ヲ致シテ儲ケタモノヲ積置イテ置ツカ、或ハ彼等ガ私ヲシテ居ルカト云フコトモ調査ヲ致サナケレバ分ラヌ次第デアラウと思フ、則チ是等ノコトヲ先ヅ以テ調査ヲ致サナケレバナラヌと思フノミナラズ、是ハ山口一縣ニ關シテアルガ、而シテ井上氏其者ハ此山口縣ニ斯様ナ會社ヲ設ケ則チ協同會社ト云フモノニ儲ケシムル様ニ、躬自ラ大藏大輔ニ居ル時ニ、此事ヲ企テ、後トデ大藏大輔ヲ退イテモ、尙且此商法ヲ營ンデ居タル一方ニハ大阪ニ藤田傳三郎杯ヲ置イテ是ト結托シ甚シキハ藤田傳三郎ノ家ト云フモノハ、藤田傳三郎其家ノ主人ニアラズシテ番頭職ニ致シテ參議タル井上馨ガ藤田組ノ主宰者トナツテ此商法ヲ營ンデ居タルコトモ明カニ書イテアルデアラ（拍手起ル）ツレハ契約書ト云フモノガアツテ明ニ之ヲ證明致シテ居リマスルガ、即チ其事ハ明治九年一月ノデアアル、總テ其箇條ヲ一々説キマス

傳三郎ハ家産並ニ増殖金等自分ノ見込ヲ以テ遣ヒ拂ヒ又ハ他人ヘ分與或ハ如何程懇意ナル朋友タリトモ抵當ナクシテ貸付金等一切嚴禁タリ

第八 傳三郎ハ月割百圓ヲ以テ月給ト定ム自分ノ妻ヘモ分與ス可キ事

斯ウ云フコトガ書イテアル

第九 商業ハ大阪鎮臺モセント靴ノ製造ヲ主トシ其他猥リニ多端ヲ許サス井上馨ノ許可ヲ受ク可キ事

ツレカラ

諸勘定損益差引ハ毎年七月十二月兩度ニ決算スヘシ其利益變シ公債證書或ハ預ケ金又ハ品物トナリタルモノ等精細原價ヲ以テ精算勘定ヲ爲ス可シ其表ヲ製シ一枚ヲ井上馨在所ヘ送達スヘシ

斯様ニゴザイマシテ、最初ノ方ニ又井上馨ト云フモノハ第一條ガ藤田傳三郎今般一家ノ法則本業目的ヲ達スル爲メ井上馨ノ差圖ヲ訖度相可守候事

ト云フコトニナツテ、則チ井上馨ナル者ハ藤田組ト云フモノ、主宰官トナツテ、傳三郎ハ唯番頭デアアル、何事モ井上馨ノ命令デナケレバ出來ナイ、許可ヲ受クベシ事ト規約ノ第九條ニ認メデアアル、而シテ此藤田組ナルモノハ如何ナル事ヲナシタカト云フコトヲ段々調べ見タルハ、私共ハ實ニ驚ク、是モ矢張官ニ聯絡ヲ致シテ大阪府ハ勿論、大阪鎮臺廣島鎮臺、熊本鎮臺ニ結附イテ而シテ安價ナル物ヲ高價ニ賣ツテ非常ナル利益ヲ得テ居ルコト云フコトデアアル、ノミナラズ此會社ノ行ツタル所ノ事柄ヲ見レバ諸君之ヲ御覽ナサイ、則チ是ハ藤田組ナルモノ、接待簿ト申スモノデアツテ、之ヲ一名賄賂帳ト申スモノデアアル、此賄賂帳ヲ一々讀ミナラバ實ニ氣ノ毒千萬ノ事ガ出來ル、御氣ノ毒ニ存ズルガ故ニ私之ヲ讀ミナシガ（讀ムベシ）「讀ミ給ヘ」ト呼フ者アリ、唯順序ニ至ツテ言ハナケレバナシナリ時ガアルカラ、時ヲ諸君御待チ下サイ、則チ賄賂ヲ使ツテ此商法ヲナシタル所ノ藤田組ハ誰ガ之ヲ主宰シテ居ルカト云ヘバ、藤田傳三郎ハ勝手ニハ何ニモ出來ナイ、井上馨ノ許可ヲ受クベシト云ヘバ、言ハハ當時ノ議官井上馨ハ官吏ニ賄賂ヲ使ツテ商法ヲ營ンデ居タルト云ツテモ仕方ガナイ者デアアルト私ハ思フデアアル（拍手起リ

「大隈ハ出ヤシナイカ」ト呼フ者アリ、笑聲起ル）ツレデ——ノミナラズ此商業中ニ於テ私共ハ最モ厭フベキ事柄ガアル、最モ國家ノタメニ憂ヘナケレバナラヌ事實ガアル、則チドウモ此藤田組ナルモノハ國家ノ政機ヲ知ツテ居タルト云フコトハ不思議デアアル、又國家ノ軍機ヲ知ツテ居タルト云フコトハ私共ハ不審ニ堪ヘザルデアアル、藤田組ハ成ル程井上馨其人ガ主宰ヲシタナラバ國家ノ機密則チ天津、天津デハナイ、彼ノ大久保氏ガ全權大使トナツテ支那ヘ往ツタ時ノ事柄ノ如キモ多少ハ知レテ居ルデアラウトと思フケレドモサリナガラ是ト同時ニ陸軍ノ出兵ノ事ニ至ルマデガ明ニ知レテ居タルト云フニ於テハ、私ハ實ニ驚カナケレバナリ、或ハ思フ此藤田組ノ接待簿ノ效ガ遂ニ陸軍省ノ機密ヲ漏スノ價值ガアツタモノデアアルマイカト私ハ心配ニ堪ヘナイ（拍手起ル）試ニ諸君御覽ナサイ、井上馨氏ノ明治七年ノ二月十四日ノ手紙ニ依レバ

東京ヨリテレガらふ陸軍省軍國ノ處分候テ出兵ナストノ事申來リ實ニ好機會ト相考候書外御漏シ被下ヘク是ヨリ情實可申上候云々

則チ是ハ中野ニヤ買占メノハ得策デアルト云フ、之ガ書面ヲ出シタルデアアル、而シテ苟モ一國ノ戰、交戰、戰ヲ宣言スルト云フコトハ陛下ノ大權ニ屬シ、ナケレバナラヌノ如キハ陸軍省ハ最モ之ヲ秘密ニ致シテ最モ之ニ鄭重ヲ盡サ私ハ實ニ國家ノタメニ是ハ驚クベキコトデアロウト 第一ニ考ヘルモノデアアル、ツレカラ其外ノ書面ヲ見ルト又斯ウ云フコトガアル

實ハ支那ト戰争ト政府モ粗ボ決定ノ様子傳候夫ニ付陸軍ト兼テ約條モ有之鮑ノ買入其他商用急事有之旁様々眞偽見極メ不申テハ商法上ニ於テモ見込ト都合モ有之云々

ト斯ウアル、則チ陸軍ノ豫テ約束ノ鮑ヲ買入レルト云フコトヲ以テ見レバ、彼ノ陸軍省ハ御用達ノ藤田組ガシテ居タルカ知ラヌケレドモ、サリナガラ井上馨ナル者其自身ガ此商法ヲ爲スニ於テシタルバ、私ハ或ハ思フ陸軍部内ニ於テ矢張此井上馨ト牽連ヲ致シテ商法ニ手ヲ出シテ居タルモノガアリハスマイカ、又軍機等ヲ漏ス關係ノアツタモノガアリハスマイカト云フ私ハ爰ニ疑點ヲ持ツテ居ルモノデゴザリマス、其他其レ等ノコトヲ讀ミマスレバ幾ツモアリマスルガ、先ヅ左様ニ致シマス、而シテ斯ノ如クニ陸軍部内ニ向ツテ約定ガアルトカ、若クハ陸軍ノ秘密ガ知レタルコト云フガ如キ傾ガアル、又廣島鎮臺、大阪鎮臺、熊本鎮臺ノ一手販賣ヲバ藤田組ガ受ケタルコト云フコトニ於テ藤田組ノ内ニ於テハ明治十年西南ノ戰争ノ時ニ於テ、藤田組ノ家内ニ陸軍省ノ軍事ノ時ノ電報ガ落散ツテ居タルト云フコトハ確ナノデアアル、即チ明治十年ノ西南戰争ノ極最中ニ於テ三月九日若クハ三月二十日ト云フガ如キニ、木ノ葉若クハ久留米邊リカラシテ戰地ヨリ此政府要路ノ人ニ宛テ電報ガ之ガ藤田組ノ家ニ明治十二年中ニ現存シテ居タルト云フコトハ實ニ不思議ト言ハナケレバナリマセヌ、ツレニ附イテ云ヘバナセツレガアツタカト云フコトヲ段々考ヘテ見ルト、此明治十年ノ戰争中ニ山縣君ハ——山縣陸軍卿ハ此藤田組ニ泊ツテ居タルデアツテ、則チ此山縣君ガ此電報ヲ藤田組ニ置イタモノデアリト云フコトノ推測ハ確カダラウト思ヒマス、勿論諸君置イタ言ヘバ宜シイガ、苟モ戰争ノ場合ニ於テシテ電信ハ其一步ヲ誤レバ國家ノ安危ニ關係スル所ノ電報デアツテ、是ハ少シク政府ノ機密ヲ保タナケレバナラヌ電報ヲ其儘藤田組ニ存シテ置イタルト云フコトハ武人タル山縣君ニ取リ粗忽千萬デアラト私ハ斷言シナケレバナリマセヌ（拍手起ル）山縣君ガ武人トシテ粗忽ニアラ

ズシテ山縣君ハ或ル關係ノタメニ之ヲ藤田組ニ示シテ、藤田組ニ投機ノ勝利ヲ得セシメタモノデハナキカト云フ(拍手起ル)觀念ヲ生ズルノデアル、諸君山縣君ト藤田組トノ關係ガ如何ニ親密ナルカヲ見ルナラバ(慨嘆々々)ト呼フ者アリ)山縣君ハ藤田組ヨリシテ御遺ヒヲ致シタモノハ三十圓ノ玉代ト云フモノガアルシ、三十圓ノ散代ト云フモノガアルシ、又十八圓ノ半江ノ幅代ト云フモノガアル、三十八圓ノ幅、花瓶代ト云フヤウナモノハ續々此中カラ現レテ來ルト云フコトガアルノデアル、勿論ハ山印トゴザリマススカラ山縣君サシデハナカラウカモ知ラヌケレドモ、併ナガ私ハ推測スルノニ山縣君ダラウト云フコトハ確ニ誤ラナイノ考デアル、ナゼナラバ此處ニ止宿シテ居ラレ、而シテ此山縣君ガ此陸軍部内ニ居ラル、ニ當テ接待簿ナルモノ、上カラ見レバ、山縣君ニアラズシテ山印ト云フコトヲ書ク人ハ其當時當路ノ貴顯ノ中ニ山印ト云フ上ニ字ヲ附ケタ人ハ無カッタト私ハ言ハナケレバナラヌデアリマス(拍手起ル)然ラバ此山縣君ハ實ニ國家ノタメニ尊ムベキ人デアアル、若シ不幸ニシテ私ノ推測ノ通り山縣君トスルナラバ實ニ山縣君ハ井上君等ト御懇意ニシタノハ御氣ノ毒ナ災難ヲ受ケタモノデアアルトヨリ外仕方ガナイト思ヒマス、ケレドモ免ニ此接待簿ニ據ツテ見レバ隨分斯様ニアルトシテ見レバ、此藤田組ニ殘ツテ居ッタ電報ナルモノハ、或ハ恐ル此山縣君ガ傳ニ三郎ニ軍人タルノ資格ヲ忘レテ見セタモノデハナキカ、若シ一步之ヲ踏込シテ言ツタナラバ投機ノ商賣ニ之ヲ利用シモトデハナキカ、若シ疑フ私ハ起ササルヲ得ナイノデアアル、則チ斯様ナル事柄ガ此山口縣ノ石代ノ疑フニハズツト關聯ヲ致シテ、此石代諸君ヲ以テ藤田組ノ資産トナレバ藤田組ノ商賣ヲ以テ此米ヲ引來ツテ金ヲ引カシタト云フガ如キ實ニ關聯シテ居ル問題デゴザリマス、ニ長ク論ジタノデアリマス、而シテ是ヨリ證據調ヲ諸君ニ申サナケレバナラヌト思フ、私ガ此接待簿ヲ示シ而シテ此書面ノ文章ヲ示シタナラバ、諸君ハ之ヲ如何ニシテ得タノデアアル、如何ニシテ此證據ガアルカラ疑フニ達シナイ、私ハ信ズル、斷言スル、是ハ即チ決シテ怪シムニ足リナイノデアアル、國家ヲ思フ義人ガ即チ身ハ如何ニ困難ニ陥ルトモ悔ルコトナク、此書類ヲ保存シテ來タモノデアアル、而シテ何處ヨリ得今日マデ困難ヲ忍ビシテ此書類ヲ保存シテ來タモノデアアル、而シテ何處ヨリ得タカ、則チ天下ノ有名ナル彼ノ大阪藤田組ノ贗造事件ノ時ニ於テ中野梧一、藤田傳三郎等ノ家宅搜索ノ際ニ確ニ是ハ得ラレタ所ノ證據物ナルデアリマス(拍手起ル)諸君疑フコト勿レ、是ハ近頃聞クニ斯ウ云フ寫ノ内務省ハ持ツテ金ニシヤウト云ツテ大臣ニ頻ニ會ハウト云フ人ガアルサウダ、ソレデ此間大臣ガ秘書官ヲ召シテ會ハシタ、秘書官ニ話シテ大臣ニ取次グト、大臣曰クサウ云フ書類ハ内閣ニモ幾ツモアル、御入用ナラバ紙屑代デ、反古代デ御拂ヲ致シマセウト答ヘタト云フガ、果シテ井上君ガサウ云フ書面ガ内閣ニ幾ツモアレバ、私ハ五圓位ナラバ是非買ヒタイト思ツテ居ル位デアリマス(拍手起ル)諸君、斯様ニ致シテ而シテ此問題ヲ私ガ斯様ニ論ジタノガナゼ斯クマデニ此情實ガ許ケナカッタノデアアルカ、又斯クマデ無實ヲバ……無實デハナイ、此困難ガ許ケナカッタノ際ニ當時ノ内閣ノ諸公達ハ皆關係ヲ致シテ居ル言ハナケレバ、先ヅ之ニ附イテハ當時ノ内閣ノ諸公達ハ皆關係ヲ致シテ居ル言ヲ邪トスルト云フコトニ致シテ貴ハナケレバナリマセヌ、而モ前ニ申シマシテ來タノ明治十二年ノ人民ハ、此事ヲ東京ノ警視局——東京ノ警視局ニ訴ヘテ來タノデアアル、ソレヲナゼ調ベナカッタノデアアルカ、其當時大警視ハ大山

巖君デアッタノデアアル、中警視ハ安藤君デアッタノデアアル、而シテ司法大臣ハ大木君デアッタノデアアル、此事ハ人民ガ訴ヘタノハ彼ノ中野梧一等ガ此實札ノコトニ附イテ警視局ニ引カレタガタメニ是幸ノ時デアアル、山口縣廳ノ羈絆ヲ脱シテ公明ナル判決ヲ受クルハ此時ナリトシテ人民ハ之ヲ警視局ニ出願ニ來タツタノデアアル、ソレヲ其時ノ警視局ハドウシテ欲シタ所ガ、諸君豈ハ大ニ之ヲ審議シテ、糾問シテ而シテ邪ト邪トセント欲シタ所ガ、諸君豈圖ラシヤ私ハ驚イタ、其時ノ司法卿ハ如何ナル都合ガアッタモノデアアル、其糾問ヲ差止メテ仕舞ツタノデアアル、其差止メルニ司法卿ヨリ命令シテ藤田組ノ事ハ贗造紙幣一件ハ警視局ニ於テ之ヲ糾問處分スベシ、他ノ犯罪ハ之ヲ大阪檢事ニ交附スベシト云フ命令ヲ下シテ而シテ警視局ノ糾問ヲ許サヌ、他ノ犯罪ハ警視局ノ糾問ヲ許サヌ、從テ司法卿ハ立會人トシテ、犬塚檢事ト今井檢事ヲ寄越シテ置イテ此警視局ニ於テ調ベントシタ石代ノ一件ノ如キハ一言半句モ言ハセナイト云フノハ實際ナノデアアル、然ラバ此贗札一件ニ就イテ已ムヲ得ズ警視廳ハ調ヲ致シタノデアアル、贗札一件ガ果シテ證據ニ成ツタノヤ曖昧ニ附シタカ、又證據ガナカッタメニ無罪ニシタカハ私ハ論ズル必要ガナイカラ言ハナイガ、免ニ角贗札一件ガ片附イタナラバ、此事件タルヤ直ニ之ヲ大阪ニ移シテ此司法省ガ命令シタルガ如クニ警視廳ヲ許サヌモノナラバ、大阪裁判所ニ移シテ審問スベキデアアル、政府ハ之ヲ少シモ致サズシテトウノ空々寂々デ即チ之ヲ其儘抛リ去ツテカラニ、彼ノ中野梧一モ石代ノ糾問ヲ受ケズ井上君ハ之ニ就イテ幾ド知ラザル真似シテ、今日迄過去ト云フコトデアアル、此ニ就イテハ私ハ色ニ推測上ノ議論ヲスルヨリ彼ノ時ノ中野視安藤則命君ガ此事ニ關シテ司法卿ニ向ツテ上ノ議論ヲ書面ノ一節ヲ朗讀シタナラバ御疑ハ判然スルヲウツテ私ハ考ヘル、則チ司法局ニ向ツテ安藤中野視其時ニ上申シタル或部分ヲ讀マバ斯ウ云フ事ガアル

則チ井上氏ハ身顯官ニ在リナガラ藤田組ノ商業ヲ主裁シ或ハ政府ノ機密ヲ漏洩シテ投機ノ商法ヲ逞ウシ甚タシキハ博變ヲナス等其證固ヨリ判然タリ且此賭博ノ件ハ中野ニ於テモ是ヲ供述セリ又渡邊ノ如キハ賭博ヲ受クルコト判然タリ

即チ此中野ガ警視廳ヲ取調中ニ確ニ致シマシタト白狀ニナツテ居ルノガ此事イラウト思フ、ソレカラ其事ニ就イテ安藤君ガ出シタ所ノ上申書ハ非常ニ長ダラ免ニ角斯ノ如ク犯罪ガ明瞭ニシテ居ル所ノ事柄ヲ吟味セズニ置イテ之ヲ不問ニ附シタナラバ、政紀ハ紊亂ニシテ益、政府タルモノハ人民ノ信用ヲ失フデアラウト云フコトヲ批判切ニ論ジタノデアアル、而シテ之ヲ以テ時ノ警視局中ニ此事ヲ主張スル人達ハ皆三條公等ヲ訪問シテ此事ハ十分ニ審斷セシコトヲ望ムト云フコトデアアル、ソレニ就イテ尙ホ私ガ聞イテ居ルノハ岩倉公ガ其時ニ非常ニ此騷動ニ就イテ憂ヘラレテ言フノニ、即チ安藤則命氏ニ向ツテ言フノニ斯ウ云フ事ガアル、安藤則命氏カ國ニ盡スノ赤心ハ誠ニ能ク知ツテ居ルケレトモ廟議紛々薩長ノ軋軋ヲ釀成スルノ形勢アリ予深ク之ヲ憂ウ汝政府ノ協同一致ノ大體ヲ熟慮シテ枉ケテ一步ヲ予ニ讓レ汝一人ノ耐忍ハ私ノタメニアラス偏ニ國家ノタメナリト云フコトヲバ岩倉君ガ安藤君ニ示シタト云フコトガアル、之ヲ以テ諸君情實ノ如何デアアルカヲ知ルニ足ラウ、即チ斯ノ如ク罰スベキモノヲ罰シテ諸君情實ノ如何デアアルカヲ知ルニ足ラウ、安藤君ハ之ヲ切論スベキモ、勢仕方ガ無クナツテ薩長ノ軋軋ヲ釀成スル勢ガアルカラ、政府ノ協同一致ノ大體ヲ考ヘテ枉ゲテ日本ノ法律ヲ無視シテ吳レヨト岩倉君ガ言ツタニ至ツテハ私ハ國家ノタメニ慨嘆セザルヲ得ヌ次第ト私ハ考ヘルノデアアル、ソレデ斯ノ如キノ次第デゴザイマシテ、大木司法卿ナル者ガ此

石代ノ事ヲ、山口縣ノ石代ノ事ヲ、警視廳ヲ調ベルコトハナラヌト云フコトヲ命ジテ之ヲ調ベサセナカッタハ若シ管轄違ト云フ議論デアリマスレバ、一步ヲ讓ツテ之ヲ恕スルモ宜シイケレドモ、其時ニ言フニハ大阪ノ檢事ニ任セルト云フテ而カモ其時ハ大阪在勤ノ橋口檢事ト云フ者ガ警視廳ニ來テ居タ、確ニ之ヲ調ベルコトヲ命ゼラレタト云フ、然ルニ此命ゼラレタルニ拘ラズ橋口檢事ガ之ヲ調ベナク、又政府モ此調ベタルヲ問フ附シテ遂ニ民ノ訴ト云フモノガ其跡ガナク、況ヤ彼ノ安藤氏ノ言フ所ノ井上君ガ商法ヲヤッタト云フ則チ賄賂ヲ、非常ナル多數ノ官吏ニ賄賂ヲヤッタト云フガ如キコトノ調ベガナク、又國法ノ禁ズル博奕ヲシタト云フコトヲ自ラ書面ニ書イデヤッタト云フ事柄ノ如キモ之ヲ糾明シナカッタト云フコトハ、是ハ實ニ情實ノ存シテ居ルコトデアッテ、之ヲ段々吟味シ來ッタナラバ第一ニ井上氏其者ハ此職權ヲ濫用シテ躬自ラ漏泄シ、政商ト通ジテ此國家ヲ害シテ而シテ軍機漏泄ト云フガ如キ疑モアル、又山印ト云フ人ハ何レノ人カ知ラヌケレドモ是ハ陸軍部内ニ關係ガアッテ此藤田組ト非常ニ密著シテ居ッタト云フコトモアル、モウ一ツ諸君忘レテ居ッタガ鳥尾様ト云フ人モ此賄賂帳ニ度々出ダ(拍手起ル)人デアッタノデアッテ、是等ノ人多ク少ク關係ヲ有シテ居ル、又大木司法卿ハ何等ノ必要アッテカ曖昧ニ付シテ去ラレテ到頭此糾問ヲ許サナイ、大山時ノ大警視ハ最初ハ非常ニ取調ベルト云フ議論デアッタサウデアアルガ、中頃ヨリ變ジテ遂ニ之ヲ曖昧ニ附スル論者ニナッタト云フコトデアアル、又是等ノ當時權要ノ地位ニ在ッタ人モ斯ノ如キ不正亂行ヲ默過シテカラニ少シモ之ヲ取調ベルト云フ考ガナカッタト云フコトハ、先ヅ以テ全體ニ於テ此當時ノ人ヲ責ムベキ問題ニ屬スデゴザイマセウガ、冤ニ角此問題ハ獨リ石代ノ請願ノミナラズ關聯スル所ガ非常ニ大ナルモノデアッテ、十分政治問題トナスニ足ルノ値打ガアラウト私ハ信ズル、否、左様ニシナケレバ直ニ此弊害ヲ矯正スルコトハ出來ナイダラウト考ヘマスガ故ニ、茲ニ特別委員九名ヲ議長ニ於テ即時ニ御指名ヲ願ヒタイ、ナゼ即時ト云フナラバ此大切ナル、此大切ノ證據物ヲ、私ハ委員會ニ直チニ提出致シタウゴザイマス人ガ故ニ、即時ニ指名シテ今日委員會ノ組織ヲ願ヒタイ、而シテ諸君、私ハ何人ト雖モ庇蔭スルコトナク、何人ト雖モ憚ルコトナク、國家ノためニ此事情ヲ陳述致シマスレバ、是ハ實ニ百分ノ一二足ラザルモノデアアル、此凡テノ證據物ヲ御熟覽ニナレバ將來實ニ國家ノためニ大利益ノ生ズルコトデアラウ、而シテ諸君願者モ満足スルコトデアラウゴザイマセウカラ、諸君ハ此事柄ニ就イテハ此感情ヲ棄テ、枉ゲテドウカ御贊同アラント切望致シマス(拍手起ル)

(土居光華君)是デモ政府ト吾ト通ジテ居ルト思フカ……ト呼フ

(河島醇君)今日ト昔ト違フト呼フ

○議長(楠本正隆君) 九名ノ委員ヲ議長ニ於テ指名スベシト云フ動議ガアルガアラウト思ヒマスカラ、十分ノ御調ヲスルハ宜カラウト思フガ、諸願委員ガアルノ二別ニ遣ルト云ハバ、諸願委員ノ權力ヲ無視スルヤウニナリハシマスマイカ

○齋藤圭次君(百九十九番) 其御嫌ハ大ニアリマス、併ナガラ先刻申上ゲマシタル通り政治問題ニ關聯致シテ居ルト思ヒマスガ故ニ、諸願委員諸君ハ請願ノ事ニ就イテハ十分御調ヲ願ヒタイガ、其中ニ含ンデ居ル事ガ政治問題ニ關係スルガ故ニ、更ニ特ニ選定ヲ願ヒタイト斯ウ云フ都合

○大岡有造君(九十五番) 宜シイ

(賛成々々)ノ聲起ル

○議長(楠本正隆君) 唯今ノ動議ニ就イテ委員ヲ選ブト云フノガ本題ノ決ヲ採ルベキ問題、委員ノ選ビ方ハ特ニ御相談ヲ致シマス

○時岡又左衛門君(九十八番) 議長ノ御指名デ……

○議長(楠本正隆君) 此事ニ就イテ委員九名ヲ選ムト云フ動議ガアリマスガ……

(「異議ナシ」異議ナシ満場一致「ト呼フ者アリ」)

○議長(楠本正隆君) 然ラバ議場ハ左様決セラレタモノト認メマス

○佐藤定七君(二百二十五番) 議長ノ指名……

○議長(楠本正隆君) 指名デ異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」異議ナシ)ノ聲起ル

○議長(楠本正隆君) 然ラバ是モ議場ノ決定ト認メマス、次ニ第六ノ議事日程ニ移リマス、朗讀ヲ省キマス

第六 郡制改正法律案(田艇吉君外五名提出)

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲メ茲ニ掲載ス)

第一讀會

郡制

第一章 總則

第一款 郡及區域

第一條 郡ハ其區域内ニ在ル町村及島嶼ヲ總括シ法律上一箇人ト等シク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ郡ノ公共事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處理スルモノトス

第二條 郡ノ廢置分合及郡界ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 郡界ニ當ル市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ郡界モ亦自ラ變更スルモノトス

第三條 郡内ノ町村ヲ變シテ市ト爲シ若クハ市ヲ變シテ郡内ノ町村ト爲スハ其市會町村會ノ申請ニ依リ内務大臣ノヲ定ム

第四條 第二條第三條ノ處分ニ付其財產處分ヲ要スルトキハ府縣參事會之ヲ議決スベシ但特ニ法律ノ規定アルモノハ此限ニアラス

第五條 郡ノ公共事務ニシテ此法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設クルコトヲ許セル事項ハ其郡ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

郡ハ其設置ニ係ル營造物ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得

郡條例及規則ハ各郡慣行ノ公告式ニ依リ之ヲ公告スベシ

第六條 郡會ハ郡内町村ニ於テ選舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第七條 郡會議員ノ數ハ二十名以上三十名以下トス

郡會議員ノ配當法ハ郡條例ヲ以テ之ヲ定ム但各町村ヲシテ少クトモ一人ノ議員ヲ選舉セシムルヲ要ス町村制第百十六條第二項ニ該當スル町村ハ一組合ヲ以テ一町村ト看做スベシ

郡内町村數三十以上ナルトキハ郡條例ヲ以テニ本條議員ノ定員ヲ增加スルコトヲ得

議員ノ配當法ヲ改正スルトキハ議員全數ヲ改選スベシ

第八條 郡内町村公民ニシテ町村會議員ノ選舉ニ參與スルコトヲ得ル者ハ總テ郡會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有ス

住居ヲ移シタル爲メ町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其住居同郡内ニ在リ其他ノ要件ヲ失ハサルトキハ仍郡會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クルモノハ郡會議員タルコトヲ得ス

一 所屬府東京府ハ警 縣官吏並ニ其郡ノ吏員

二 神官僧侶又ハ諸宗ノ教師

三 學校教員

第九條 郡會議員ハ名譽職トス其任期ハ六年トシ毎三年其半數ヲ改選ス若シ其員數二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任スヘキ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 議員ハ再選セラルハコトヲ得

第十一條 議員中缺員アルトキハ遲クモ三箇月以内ニ補缺選舉ヲ行フヘシ補缺議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第十二條 郡會議員ノ選舉ハ郡長ノ告示ニ依リ町村長之ヲ行フヘシ其告示ハ通常選舉ハ七十日前臨時選舉ハ十日前之ヲ發スヘシ

第十三條 町村長ハ通常選舉ヲ行フ毎ニ其選舉前六十日ヲ限リ選舉原簿ヲ製シ各選舉人ノ資格ヲ記載シ此原簿ニ據リテ選舉人名簿ヲ製スヘシ

第十四條 選舉人名簿ハ七日間町村役場ニ於テ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ若シ關係者ニ於テ訴願セントスルコトアルトキハ同期限内ニ之ヲ郡參事會ニ申立ツヘシ郡參事會ノ裁決ニヨリ名簿ヲ修正スヘキトキハ町村長選舉前十日ヲ限リ之ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿トナシ之ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ニ關スルコトヲ得ス

第十五條 本條ニ依リ確定シタル名簿ハ次期ノ通常選舉マテ之ヲ據置キ臨時ノ選舉ニモ亦之ヲ使用スルモノトス

第十六條 確定名簿ト雖縣參事會ノ裁決又ハ裁判申渡ニヨリ訂正スヘキモノハ町村長ニ於テ其通知ヲ受ケタル時ヨリ二十四時間以内之ヲ訂正シ其旨町村内ニ告示シ且當人ニ通知スヘシ

第十七條 町村長ニ於テ名簿ニ記入シタル人名中選舉權ヲ失ヒ若クハ選舉權ヲ有セサルモノアルコトヲ發見シタル時モ亦同シ

第十八條 第十三條 町村長ハ選舉前七日ヲ限リ選舉ノ場所日時及選舉スヘキ議員ノ數ヲ公告スヘシ

第十九條 第十四條 選舉掛ハ名譽職トシ選舉ヲ行フ町村長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ町村長若クハ其代理者ハ其掛長トナリ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス

第二十條 第十五條 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得

第二十一條 第十六條 選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 第十六條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ掛長ニ差出スヘシ但シ選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

第二十三條 選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入スヘシ但投票函ハ投票ヲ終ル迄開クコトヲ得ス

第二十四條 第十七條 投票ニ記載ノ人員其選舉スヘキ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其投票ヲ無効トセス其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却スヘシ

第二十五條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 人名ヲ記載セル人名ノ讀難キモノ

二 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三 被選舉權ナキ人名ヲ記載スルモノ

四 以上三項ノ投票中他ニ列記ノ被選舉人ニ付テハ仍其效アリトス

被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ但爵位職業身分住所又ハ敬稱ヲ記スモノハ無効ト爲スノ限ニアラス

投票ノ受理並ニ效力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第十八條 選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フヘシ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコトヲ許サス

第十九條 議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取り同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム

第二十條 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ願末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名スヘシ

第二十一條 投票ハ之ヲ選舉錄ニ附屬シ選舉ヲ結了スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第二十二條 知シ同時ニ郡長ニ報告スヘシ

第二十三條 當選人當選ノ報告ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ郡長ニ届出ヘシ

第二十四條 一人ニシテ數箇所ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコトヲ郡長ニ届出ヘシ

第二十五條 前二項ノ届出ヲ其期限内ニ爲サハルトキハ當選ヲ辭シタル者ト視做スヘシ

第二十六條 第二十二條 議員ノ當選ヲ辭シ又ハ承諾ノ届出ヲ爲サハル者アルトキハ郡長ハ七日以内ニ町村長ニ命シテ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ

第二十七條 二人以上投票同數ニシテ年長者若クハ抽籤ニ依テ當選ヲ得タル者其當選ヲ辭シ又ハ承諾ノ届出ヲ爲サハルトキハ第一ニ抽籤ヲ爲メ當選ヲ失ヒタル者ヲ當選人トシ次ニ年少ノ爲メ當選ヲ失ヒタル者ヲ當選人トシ郡長ハ直ニ本人ニ通知スヘシ

第二十八條 第二十三條 當選人確定シタルトキハ郡長ハ直ニ當選證書ヲ附與シ及管内ニ告示スヘシ

第二十九條 第二十四條 選舉人選舉ノ效力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ十五日以内ニ郡參事會ニ申立ルコトヲ得

第三十條 第二十五條 當選人其當選ノ際資格ノ要件ヲ有セサルコトヲ發見スルトキハ其當選ハ無効トス

第三十一條 當選人當選後資格ノ要件ヲ失フトキハ議員ノ職ヲ失フモノトス

第三十二條 第二十六條 郡會ニ於テ其議員中議員タルノ資格ヲ有セサル者有ルコトヲ發見スルトキハ其議員選舉權被選舉權ノ有無選舉ノ效力及選舉人名簿ノ正否ハ郡參事會之ヲ裁決ス

第三十三條 郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得訴願又ハ出訴ノ爲メ執行ヲ停止スルコトヲ得但判決確定スルコトヲ得サレハ更ニ選舉ヲ爲スヲ得ス

第三十四條 第二十八條 郡會議員選舉ニ關スル罰則ハ明治二十三年(五月)法律第三十九號市町村會議員選舉罰則ヲ適用ス

第三十五條 第二十九條 郡會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

一 郡條例及規則ヲ設ケ竝ニ改正スルコト  
二 郡ノ歳出入豫算ヲ定ムルコト  
三 決算報告ヲ認定スルコト  
四 郡有不動産ノ賣買交換讓渡讓受竝ニ質入書入ノコト  
五 歳出入豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新タニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ヲ棄却スルコト  
六 郡有財産ノ管理及營造物ノ維持方法ヲ定ムルコト  
第三十條 郡會ハ郡ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ郡長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行竝ニ收入支出ノ正否ヲ監査スル職權ヲ有ス  
第三十一條 郡會ハ其權限ニ屬スル事件ヲ郡參事會ニ委任スルコトヲ得  
第三十二條 郡會ハ郡ノ利害ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ出スコトヲ得  
第三十三條 郡會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ  
第三十四條 郡會議員ハ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受クヘカヲサルモノトス  
第三十五條 議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ郡會ノ議事ニ參與シ及其議決ニ加ハルコトヲ得ス  
第三十六條 郡會ハ改選後ノ初會ニ於テ議長副議長各一名ヲ互選スヘシ其任期ハ三年トス  
議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時議長ヲ互選スヘシ  
議長副議長辭職又ハ其他ノ事故ニ係リ缺位トナリタルトキハ後任者ノ任期ハ猶前任者ノ任期ニ依ル  
第三十七條 郡長若クハ郡參事會員ハ郡會ノ議事ニ參與スルコトヲ得但議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス  
第三十八條 郡會ハ毎年一回通常會ヲ開クヘシ其他必要アルトキハ其事件ニ限リ臨時會ヲ開クコトヲ得  
郡會ハ郡長之ヲ招集ス若シ議員三分ノ一以上ニ於テ臨時ノ招集ヲ請求スルトキハ之ヲ招集スヘシ其招集竝ニ會議ノ事件ハ開會日ヨリ十四日以前ニ告示スヘシ但急施ヲ要スル場合ハ此限リニアラス  
郡會ハ郡長之ヲ開閉ス  
第三十九條 郡會ハ議員半數以上出席スルニアラサレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得但同一ノ議事ニ付招集二回ニ至ルモ議員猶半數ニ滿タサルトキハ此限ニアラス  
第四十條 郡會ノ議決ハ過半數ニ依リ可否同數ナルトキハ議長ノ決スルトコロニ依ル  
第四十一條 郡會ニ於テ郡長助役及名譽職參事會員ノ選舉ヲ行フトキハ匿名投票ヲナシ有效投票ノ過半數ヲ得ルモノヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者二名ヲ取り之ニ就テ更ニ投票セシム若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ抽籤シテ其二名ヲ取り更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶過半數ヲ得ル者ナク共ニ同數ナルトキハ抽籤シテ當選ヲ定ム其他ハ第十六條第十七條第十八條ヲ適用ス但投票ノ受理及效力ニ關スル事項ハ郡會自ラ之ヲ決ス  
第四十二條 郡會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得  
郡長若クハ郡參事會員ノ請求又ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ可決シタル

トキモ亦傍聽ヲ禁スルコトヲ得此場合ニ於テハ討論ヲ用ヒシテ其可否ヲ決スヘシ  
第四十三條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及選舉ノ事ヲ總理シ其日ノ會議ヲ開閉シ竝ニ延會シ議場ノ秩序ヲ保持ス  
第四十四條 會議中此法律若クハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ發言ヲ禁止シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ警察官ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムヘシ若シ強抗ニ涉ル者アルトキハ警察官ノ處分ヲ求ムルコトヲ得  
議長騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得  
第四十五條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其議事ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシム必ヤ要ナル場合ニ於テハ警察官ノ處分ヲ求ムルコトヲ得  
傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得  
第四十六條 郡長若クハ郡參事會員及議員ハ議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ注意ヲ喚起スルコトヲ得  
第四十七條 郡會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ掌理セシム書記ハ議長之ヲ選任ス但郡吏員ヲシテ之ヲ兼シムルコトヲ得  
第四十八條 郡會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シ議決及選舉ノ顛末竝ニ出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘシ議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スヘシ其議員ハ會議ノ前郡會ニ於テ豫メ之ヲ定メ議事録中ニ其氏名ヲ記載シ置クヘシ  
第四十九條 郡會ハ議事規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ  
第三章 郡行政  
第一款 郡參事會郡吏員及委員ノ組織選任  
第五十條 郡ニ參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス  
一 郡長 一名  
二 助役 一名  
三 名譽職參事會員 五名  
名譽職參事會員ハ郡條例ヲ以テ其定員ヲ増減スルコトヲ得  
第五十一條 郡參事會ハ郡長ヲ以テ議長トス議長故障アルトキハ出席會員中ヨリ臨時議長ヲ互選ス  
第五十二條 郡長助役及名譽職參事會員ハ第四十一條ニ依リ郡會之ヲ選舉ス郡長及助役ハ有給吏員トシ其任期ハ四年トス任期滿限ノ後ト雖後任者就職ハ日迄在職スルモノトス  
郡長ハ三十歲以上ノ者タルヘシ  
第五十三條 郡長ノ選任ハ內務大臣ヨリ上奏シテ裁可ヲ請ヒ助役ノ選任ハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ  
第五十四條 名譽職參事會員ハ其郡内ニ於テ郡會議員ノ選舉ニ參與スルヲ得ルモノヨリ之ヲ選舉シ其任期ハ四年トス任期滿限ノ後ト雖後任者就職ノ日迄在職スルモノトス  
若シ缺員アルトキハ其殘任期ヲ補充スル爲メ直ニ補缺選舉ヲナスヘシ  
第五十五條 郡長助役及名譽職參事會員第八條第三項ニ掲載スル職ヲ兼ルコトヲ得ス  
郡長及助役ハ他ノ有給ノ職ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長若クハ重役トナ

ルコトヲ得ス其他ノ營業ハ府縣知事ノ認可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ爲ス  
コトヲ得ス  
父子兄弟タルノ緣故アルモノハ同時ニ郡參事會員タルコトヲ得ス若シ其  
緣故アル者郡長又ハ助役ノ任ヲ受クルトキハ其緣故アル郡參事會員ハ其  
職ヲ退クヘシ  
第五十六條 郡長及助役ハ三箇月前ニ申立ルトキハ隨時退職ヲ求ムルコト  
ヲ得此場合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス  
第五十七條 名譽職參事會員ノ選舉ニ就テハ郡參事會自ラ其效力ノ有無ヲ  
議決ス  
此議決ニ不服アルモノハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服  
アルモノハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
此訴願及訴訟ノ爲メ其執行ヲ停止スルコトヲ得但裁判確定スルニアラ  
サレハ更ニ選舉ヲナスコトヲ得ス  
第五十八條 郡ニ書記其他必要ノ附屬員ヲ置キ其員數ハ郡會ノ議決ヲ以テ  
之ヲ定メ郡長之ヲ任用ス  
第五十九條 郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ臨時或ハ常設ノ委員ヲ置キ郡ノ事務  
ヲ調査セシメ又ハ郡有財產及營造物ノ一部ヲ管理セシムルコトヲ得  
委員ハ名譽職トシ其選舉ノ方法及任期ハ郡會ノ議決スル所ニ依ル  
第六十條 郡參事會ニ職權限左ノ如シ  
一 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議決スルコ  
ト  
二 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ郡會ヲ招  
集スルノ暇ナシト認ムルトキ郡會ニ代テ議決ヲナスコト  
三 郡會ノ議決シタル範圍内ニ於テ郡有財產ノ管理營造物ノ維持及工事  
ノ執行方法ニ關シ必要ナル事件ニ付議決ヲナスコト  
四 郡ノ收入支出命令會計及出納金庫ヲ監視スルコト  
五 郡ノ權利ヲ保護スルコト郡ノ證書及公文書類ノ保管ヲ監視スルコト  
六 外部ニ對シ郡ヲ代表シ郡ノ名義ヲ以テ訴訟及和解ヲナシ郡ノ權利義  
務ニ關シ他廳又ハ人民ト商議スルコト  
七 官廳ノ諮問ニ對シテ意見ヲ述フルコト  
第六十一條 郡參事會ハ郡長ハ郡參事會ヲ招集スヘシ  
第六十二條 郡參事會ハ郡會議員ノ外傍聽ヲ許サス  
第六十三條 郡參事會ハ名譽職會員半數以上出席スルニアラサレハ會議ヲ  
開キ議決ヲナスコトヲ得ス  
郡參事會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル處ニ依  
ル  
議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ記載シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署  
名スヘシ  
第六十四條 第三十五條ノ規定ハ郡參事會ニモ亦之ヲ適用ス但同條ノ規定  
ニ依リ會員減少シテ正當ノ郡參事會ヲ開クコトヲ得サルトキハ郡長ハ郡  
會議員ニシテ其事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指名シ其不足ヲ補充シテ第五  
十條ノ定數ニ滿タシムヘシ  
第六十五條 町村制ノ規定ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ二郡  
以上ノ町村ニ交渉スルモノアルトキハ其郡長ノ具狀ニ依リ府縣知事ニ於  
テ其事件ヲ管理スヘキ郡參事會ヲ指定スヘシ二府縣以上ノ町村ニ交渉ス  
ルモノアルトキハ其府縣知事ノ具狀ニ依リ內務大臣ニ於テ之ヲ指定スヘ  
シ  
第六十六條 郡長ハ郡政一切ノ事務ヲ指揮監督ス  
第六十七條 郡長ハ郡會及郡參事會ノ議事ヲ準備シ其議決ヲ執行ス  
第六十八條 郡會及郡參事會ノ職務ヲ掌理ス郡長事故アルトキハ總テ郡長  
ノ事務ヲ代理ス  
第六十九條 郡會召集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ郡長ハ府縣知事ノ指  
揮ヲ請ヒ處分スルコトヲ得郡會其議決スヘキ議案ヲ議決セサル場合ニ於  
テ其事務緊急ヲ要スルトキ又ハ法律命令若クハ慣行ニ依テ郡ノ負擔ニ屬  
スル行政又ハ公益上必要ノ費用ヲ否決シ若クハ議決スト雖必要ノ給需ヲ  
缺クトキハ郡長ハ參事會ノ議決ヲ以テ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請フヘ  
シ  
府縣知事ハ府縣參事會ノ議決ニヨリ原案ノ金額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ  
定メ指揮スルコトヲ得本條第一項ノ處分ハ次回ニ於テ之ヲ報告スヘシ  
第六十九條 郡會ノ議決其權限ヲ超ヘ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害  
スル認ムルトキハ郡參事會ノ議決ヲ經テ郡參事會ノ議決其權限ヲ超ヘ又ハ  
法律命令ニ背キ公衆ノ利益ヲ害スル認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依  
リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ由リ理由ヲ示シテ議決ヲ執行ヲ停止シ之ヲ再議  
セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ請フヘシ  
其權限ヲ超ヘ又ハ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スル場合ニ  
於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アルモノハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
第七十條 郡會ニ於テ名譽職參事會員ヲ選舉セス又ハ參事會成立セス又  
ハ郡參事會召集ニ應セス若クハ其議決スヘキ議案ヲ議決セサルトキハ郡  
長ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ得テ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ處分  
スルコトヲ得  
急施ヲ要スル場合ニ於テ郡參事會ヲ招集スルノ暇ナキトキ又ハ名譽職參  
事會員ノ出席半數以上ニ至ラサルトキニ限り郡長ハ郡參事會ノ職務ヲ專  
決處分スルコトヲ得  
前項ノ處分ハ次會ノ郡參事會ニ報告スヘシ  
第七十一條 書記ハ郡長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス  
第七十二條 郡長ハ郡吏員以下ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得懲戒處分  
ハ譴責及拾圓以下ノ過怠金トス  
第七十三條 郡長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス  
一 司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警  
察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察ノ事務ヲ管掌セシムルトキハ  
此限ニアラス  
二 國ノ行政並ニ府縣ノ行政ニシテ郡ニ屬スル事務但別ニ吏員アルトキ  
ハ此限ニアラス  
本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルカ爲メニ要スル費用ハ郡ノ負擔トス  
第七十四條 郡長助役其他有給吏員及使丁ノ給料及旅費日當額ハ郡會ノ決  
議ヲ以テ之ヲ定ム但其支給額及支給方法ハ郡條例ヲ以テ之ヲ規定スルコ  
トヲ得  
郡會ノ議決ヲ以テ郡長ノ給料額ヲ定ムルトキハ內務大臣ノ認可ヲ受クル  
コトヲ要ス若シ之ヲ認可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ指定ス

ルコトヲ得

郡會ノ議決ヲ以テ助役ノ給料額ヲ定メタルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス若シ之ヲ認可スヘカラスト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ議決ヲ以テ之ヲ指定スルコトヲ得

第七十五條 郡會議員名譽職參事會員及委員二八旅費且當ヲ給スルコトヲ

第七十六條 名譽職員ニハ此法律中別ニ規定アルヲ除クノ外職務取扱ノ爲

實費辨償額ヲ報酬額ハ郡會之ヲ議決ス

長意科ヲ受クル者官職又ハ守縣郡市町村及公共且分ノ職務ニ就キ合科ヲルコトヲ得ル者官職ノ規定ヲ以テ郡長及助役其他有線吏員ノ退隱料ヲ請ク

受クハ其間ノ停止シ又更ニ退隱料ヲ受ケルノ權ヲ得ルトキ其額

異議アルトキハ關係者ノ申立ニ依リ府縣參事會之ヲ裁決ス其府縣參事會  
第七十八條 有給吏員ノ給料退隱料其他第七十六條ニ定ムル給與ニ關シテ

裁決ニ不服アルモノハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十九條 郡ノ權利義務ニ屬スル諸費及法律命令若クハ慣例ニ依リ郡ノ負擔トナル事務ニ關スル費用ハ其郡ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第八十條 郡ノ支出ニ充ツル費用ハ郡有財産ヨリ生スル收入其他雑收入ヲ以テ充ツルモノ、外ハ郡内各町村ニ分賦ス其分賦ハ府縣稅ノ課目ヲ標準

テ特別法ヲ設ケ内務大藏兩大臣ノ認可ヲ得テ施行スルコトヲ得

[illegible]

會ニ議決ニ依リ該部分ノ町村ヲ對シ通常分賦額ノ外其利益ノ厚薄ニ應シ

八十二條 郡ハ天災地變ノ爲ニムヲ得サル支出又ハ其郡ノ永久ノ利益ト  
 ナルヘキ支出ヲ要スルニ當リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキ郡内町村ノ負擔

ニ堪ヘサルノ場合ニ限り勅令ノ定ムル處ニ依リ都會ノ議決ヲ以テ郡債ヲ起スコトヲ得

郡債ヲ起スノ議決ヲ爲ストキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘシ

郡債償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三  
十年以内ニ還了スヘシ歳入出豫算内ノ支出ヲナスカ爲メ必要ナル一時ノ

借入金ニシテ其年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノハ本條ノ限リニアラズ但郡參事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第八十四條 豫算ハ毎年郡會ノ議決ヲ取り之ヲ府縣知事ニ報告シ竝ニ郡慣

行ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ヲ議定シタル場合ニ於テモ亦同シ

郡ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支出スヘキモノハ郡會ノ議決ヲ以テ其年期間各年度

豫算ヲ郡會ニ提出スルトキハ郡長ハ併セテ其郡ノ事務報告書及財産明細

第八十五條 歲入出豫算中ニ豫備費ヲ設クヘシ豫備費ハ郡長ニ於テ郡參事

第  
八  
十  
六  
條

コトヲ得但都會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第八十七條 郡ノ會計ヲ管理スル郡吏員ハ前條ノ命令アルニアラサレハ支

第八十八條 邦ノ出納及金庫ノ毎月別ヨリ定メテ検査シ及毎年少クモ一回

臨時検査ヲナスヘシ検査ハ郡長之ヲ爲ス臨時検査ニハ郡參事會員一名以上ノ立會ヲ要ス

第八十九條 決算ハ郡長會計吏ニ命シテ會計年度後三箇月以内ニ調製シ之ヲ郡參事會ニ付シ郡參事會ハ之ヲ次回ノ通常郡會ノ認定ニ付スヘシ

決算報告書竝ニ之ニ關スル郡會ノ議決ハ郡長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告シ  
竝ニ決算ハ郡慣行ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ

第九十條 地形ノ便利又ハ其郡ノ事情ニ依リ數郡ニ一郡役所ヲ置キ其事

務ヲ共同處分スル爲メ其郡ノ協議ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ得テ數郡ノ組合ヲ設クルコトヲ得

法律上ノ義務ヲ負擔スルニ耐ユヘキ資力ヲ有セスト認ムル郡ニシテ數郡組合ノ協議整ハサルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ以テ内務大臣ノ認可ヲ得共組合ノ設立ハセラル

第九十一條 數郡組合ノ協議ヲ爲ストキハ組合會議ノ組織事務ノ管理法並ニ其費用ノ支辨方法ヲ件ニシテ見三ノ

前條第二項ノ場合ニ於テハ其數郡ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分擔法其他必要ナル事項ヲ規定スヘシ若シ其協義整ハサルトキハ府縣參事會ニ於テ之

第九十二條 第九十條ノ組合ヲ廢止シ又ハ變更セントスルトキハ内務大臣

ノ認可ヲ受クヘシ  
第六章 監督

第九十三條 郡ノ行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第九十四條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外郡ノ行政ニ關スル府縣知事又ハ府縣參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願

品所郡法人トシテ成ルベク自治ノ權ヲ與ヘ、地方分權ノ實ヲ舉ゲルト  
シテ外ナラヌノデアリマスカラ、其邊ノ趣意ハ別ニ述ベマセヌコトニ  
シマス、唯第五議會ニ提出シマシタキト此度出シマシタ所ノ箇條則チ



第七條 府縣會議員ハ名譽職トス其任期ハ四年トシ毎二年其半數ヲ改選ス若シ其員數二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任スヘキ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 議員ハ再選セラルヘコトヲ得

第九條 議員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモトス

第十條 選舉ハ通常三月一府縣同日ニ之ヲ行フヘシ但解散及補缺選舉ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 町村長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役場管内ノ選舉人名簿ヲ調製シ其副本ヲ十月一日迄ニ郡長ニ出スヘシ

第十二條 市長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其市内ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第十三條 選舉人名簿ニハ選舉人ノ氏名住所生年月納ムル處ノ直接國稅額並ニ其納稅地ヲ記載スヘシ

第十四條 選舉人其住居スル市町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ其納稅地ノ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ選舉人名簿調製ノ期日迄ニ其住居地ノ市町村長若ハ區長ニ届出ヘシ

第十五條 郡市長ハ十月二十日ヨリ十五日間其郡市役所ニ於テ郡市内選舉人名簿ヲ寫シ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ

第十六條 選舉資格アル者選舉人名簿ニ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證據ヲ具シテ縱覽期限內ニ之ヲ郡市長ニ申立ツヘシ

第十七條 郡市長ハ其申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ審査判定シ人名簿ヲ訂正スヘキトキハ直ニ之ヲ訂正シ其旨ヲ郡市内ニ告示シ且當人及當人住居地ノ町村長又ハ區長ニ通知スヘシ

第十八條 申立人又ハ被告人ニ於テ郡市長ノ判定ニ不服アルトキハ判定ノ日ヨリ七日以内ニ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 選舉人名簿ハ十一月十五日ヲ以テ確定期限トス

第二十條 此期限ヲ經過シタル名簿ハ次年ノ改正期日マテ之ヲ據置臨時ノ選舉ニモ亦之ヲ使用スルモノトス

第二十一條 確定名簿ト雖府縣參事會ノ裁決ニ依リ又ハ裁判申渡ニ依リ訂正スヘキモ

第二十二條 郡市長ニ於テ其通知ヲ受ケタル時ヨリ二十四時間以内ニ之ヲ訂正シ其旨ヲ郡市内ニ告示シ且當人及當人住居地ノ町村長又ハ區長ニ通知スヘシ

第二十三條 名簿ニ記入シタル人名中死亡若ハ選舉權ヲ失ヒタル者アルトキハ市町村長ハ其旨ヲ記載シ町村長ハ選舉期日前ニ之ヲ郡長ニ届出郡市長ハ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第二十四條 議員ヲ選舉スヘキ時ハ少クとも一箇月前ニ其月日及選舉ヲ行フヘキ郡市ノ名及選舉スヘキ議員ノ數ヲ記シ府縣知事ハ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第二十五條 府縣會議員ハ名譽職トス其任期ハ四年トシ毎二年其半數ヲ改選ス若シ其員數二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任スヘキ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 議員ハ再選セラルヘコトヲ得

第二十七條 議員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモトス

第二十八條 選舉ハ通常三月一府縣同日ニ之ヲ行フヘシ但解散及補缺選舉ノ場合ハ此限ニ在ラス

第二十九條 町村長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役場管内ノ選舉人名簿ヲ調製シ其副本ヲ十月一日迄ニ郡長ニ出スヘシ

第三十條 市長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其市内ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第三十一條 投票所ハ郡ニ於テハ町村長市ニ於テハ市長之ヲ管理ス投票所ハ管理者ニ屬スル役所又ハ管理者ノ指定スル場所ニ於テ之ヲ設ク

第三十二條 投票所書記ハ管理者所屬役所吏員ヲ以テ之ニ充ツ

第三十三條 立會人三名以上五名以下ヲ指定シ少クとも選舉期日ヨリ三日以内ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ

第三十四條 立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其任ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十五條 投票ノ時刻ニ至リ立會人若ハ出頭セサルトキハ參會ノ選舉人中ヨリ管理者ノ指定ヲ以テ假ニ其員ヲ補フヘシ

第三十六條 投票ハ午前八時ニ始メ午後五時ニ終ル

第三十七條 投票點檢ハ投票函送達ノ日直ニ之ヲ行フヘシ

第三十八條 投票並ニ選舉會及當選ノ規定ハ前項ニ抵觸スルモノヲ除クノ外明治二十二年法律第三號衆議院議員選舉法第三十五條ヨリ第六十五條マテヲ適用ス但同法中選舉長トアルヲ郡市長トス

第三十九條 投票所取締ノ規定ハ同法第六十九條ヨリ第七十七條マテヲ適用ス

第四十條 第九號市町村會議員選舉罰則ヲ適用ス

第四十一條 第二十四條 投票效力ノ有無及選舉ノ效力ニ關シ異議アル者ハ選舉當日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決ノ日ヨリ二十一日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但訴願又ハ訴訟ノ爲メニ其執行ヲ停止スルコトナシ

第四十二條 第二十五條 當選人當選後資格ノ要件ヲ失フトキハ議員ノ職ヲ失フモノトス

第四十三條 第二十六條 府縣會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

一 府縣條例及規則ヲ設ケ並ニ改正スルコト

二 府縣ノ歲入出豫算ヲ定ムルコト

三 決算報告ヲ認定スルコト

四 府縣稅ノ賦課及徵收方法ヲ定ムルコト

五 府縣有不動産ノ賣買交換讓渡受並ニ質入書入ノコト

六 歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲スコト

七 府縣有財產ノ管理及營造物ノ維持方法ヲ定ムルコト

第二十七條 府縣會議員ハ其權限ニ屬スル事項ニ付議案ヲ提出スルコトヲ得

第二十八條 府縣會ハ其權限ニ屬スル事件ヲ府縣參事會ニ委任スルコトヲ得

第二十九條 府縣會ハ其權限ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ

第三十條 府縣會ハ其府縣ノ全部又ハ一部ノ利害ニ關スル事件ニ付府縣知事又ハ內務大臣ニ建議スルコトヲ得

第三十一條 府縣會ハ其議員資格ノ有無及選舉ノ效力ニ關シ府縣知事ノ請求ニ依リ又ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ自ラ之ヲ議決スルコトヲ得但先キ府縣參事會ノ裁決若クハ裁判ヲ受ケタル同一ノ事件ニ付議決スルコトヲ得ス

本條ノ議決ニ不服アルモノハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得此場合ニ於テハ裁判確定スルニ非サレハ更ニ選舉ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 府縣會ハ改選後ノ初會ニ於テ議長副議長各一名ヲ互選スヘシ其任期ハ二年トス議長副議長辭職又ハ其他ノ事故ニ依リ缺位トナリタルトキハ後任者任期ハ猶前任者ノ任期ニ依ル

第三十二條 府縣知事若クハ特ニ委任ヲ受ケタル府縣官吏ハ府縣會ノ議事ニ參與スルコトヲ得但議決ハ多數ニ加ハルコトヲ得ス

第三十三條 府縣會ハ毎年一回秋季ニ於テ通常會ヲ開ク通常會期ハ三十日以内トス其他必要アルトキハ其事件ニ限リ七日以内ヲ會期トシテ臨時會ヲ開クコトヲ得

府縣會ハ府縣知事之ヲ招集ス其招集ハ開會ノ日ヨリ十四日前迄ニ告示スヘシ但急施ヲ要スル場合ハ此限ニアラス

第三十四條 府縣會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第三十五條 府縣會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十六條 議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ議會ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ府縣會ノ議事ニ參與シ又ハ議決ニ加ハルコトヲ得ス

第三十七條 府縣會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見又ハ府縣知事ノ要求若ハ議員五名以上ノ發議ニ依リ可決シタルトキハ傍聽ヲ禁止スルコトヲ得

第三十八條 府縣會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ專ラ市ニ關スルモノト其他ノ部分ニ關スルモノト分別スルコトヲ得要スルモノアルトキハ府縣會ノ議決ニ依リ之ヲ分別スルコトヲ得

前項ノ分別ニ依リ專ラ市ニ關スルモノハ其郡部議員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ又議決ニ加ハルコトヲ得ス其他ノ部分ニ關スルモノハ市部議員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ又議決ニ加ハルコトヲ得ス此場合ニ於テハ郡部議員市部議員トアルハ市ニ於テ選舉シタル議員ヲ云フ

第三十九條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及選舉ノ事ヲ總理シ其日ノ會議ヲ開閉シ並ニ延會シ議長ノ議決ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付議場外ニ於テ責ヲ負フコトヲ得

第四十條 府縣會中此法律若ハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシム若シ強抗ニ涉ル者アルトキハ警察官ヲシテ之ヲ退去セシムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第四十二條 議員議場ノ秩序ヲ紊ルコト二回以上ニ及フ者アルトキハ議長又ハ議員ノ發議ニ依リ議會ノ議決ヲ以テ七日以内其出席ヲ停止スルコトヲ得

第四十三條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其他議事ノ妨害ヲ爲ス

者アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若シ命ニ從ハサルトキハ警察官ニ命シテ之ヲ退場セシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第四十四條 第四十一條第四十三條ニ依リ議長ノ命ニ應セシムル爲府縣知事東京府ハハ每會期警察官ニ議場掛事務ヲ命スヘシ

第四十五條 府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム書記ハ議長ノ之ヲ選任ス

第四十六條 府縣會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シ議決及選舉ノ顛末並ニ出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘシ議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スヘシ其議員ハ議會ニ於テ豫メ之ヲ定メ議事録中ニ其氏名ヲ記載シ置クヘシ

第四十七條 府縣會ハ議事規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ

第三章 府縣行政

第四十八條 第一款 府縣參事會及府縣吏員委員ノ組織

郡市ヲ分別シタル府縣參事會ハ六名以上十名以下トシ其員數及郡市ノ配當法ハ府縣會ノ議決ニ依ル

郡市ヲ分別セサル縣ノ參事會員ハ四名以上六名以下トシ其員數ハ縣會ノ議決ニ依ル

第四十九條 府縣會ハ參事會員ヲ其議員中ヨリ互選スヘシ郡市ヲ分別シタル府縣參事會員ハ郡市各別ニ之ヲ選舉スルモノトス

府縣會ハ改選後ノ初會ニ於テ參事會員ノ補充員トシテ正員ト同數ヲ互選シ參事會員ノ缺員アルトキハ府縣知事ニ於テ補充員中投票多數ノ順次ニ依リ之ヲ補充シ仍缺員ヲ生スルトキハ二箇月以内ニ臨時其選舉ヲ行フヘシ但其補充シタル者ハ前任者ノ任期中在職スルモノトス

第五十條 府縣參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長トス議長故障アルトキハ出席議員中ヨリ臨時議長ヲ互選スヘシ

第五十一條 參事會員ノ任期ハ二箇年トシ議員改選毎ニ之ヲ改選ス但任期滿限ノ後ト雖モ後任者就職ノ日マデ其職務ヲ繼續スルモノトス

第五十二條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ニ依リ府縣ノ費用ヲ以テ府縣有財產若ハ營造物ノ管理又ハ土木工事ニ必要ナル有給ノ府縣吏員ヲ置クコトヲ得但府縣吏員ノ給料手當及退職料等ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル其身元保證金ヲ要スルコトキ其金額ヲ定ムルモ亦同シ

第五十三條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置キ府縣事務ノ一部ヲ調査セシメ又ハ府縣有財產及營造物ノ一部ヲ管理セシムルコトヲ得其選任又ハ選任ノ方法及任期ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル

常設委員ノ組織及職務權限ニ關シテハ府縣條例ヲ以テ規定ヲ設クルコトヲ得

委員ハ名譽職トス

第五十四條 第二款 府縣參事會及府縣吏員ノ職務

一 府縣會ノ議決及府縣條例ノ執行ニ關スル府縣令ヲ議決スルコト

二 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議決スルコト

縣會ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ府縣會ニ代テ議決ヲ爲スコ

四 府縣會ノ定メタル方法ノ範圍内ニ於テ府縣有財産ノ管理又ハ營造物ノ維持ニ關シ必要ナル事件ニ付議決ヲ爲スコト

五 府縣會ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ノ方法順序其他必要ナル事件ニ付議決ヲ爲スコト

六 府縣知事及其他官廳ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フルコト

七 臨時必用アルトキ府縣ノ出納ヲ檢査スルコト

第五十五條 府縣參事會ハ府縣知事ノヲ召集ス會員半數以上ノ請求アルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ召集スヘシ

第五十六條 府縣參事會ハ會議ハ府縣會議員ノ外傍聽ヲ許サス但參事會ノ議決ニ依リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第五十七條 府縣參事會ハ參事會員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得

第五十八條 府縣參事會ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付府縣參事會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得

第五十九條 市制町村制ノ規定ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ二府縣以上ノ市町村ニ交渉スルモノアルトキハ其府縣知事ノ具狀ニ依リ內務大臣ニ於テ其事件ヲ管理スヘキ府縣參事會ヲ指定スヘシ

第六十條 郡市分別シタル府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ專ラ市ニ關スルモノハ其郡部參事會員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得

第六十一條 此法律中市部參事會員トアルハ市部議員ニ於テ選舉シタル參事會員ヲ云フ

第六十二條 府縣知事ハ府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ施行シ及府縣有財産及營造物ヲ管理シ並ニ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ヲ執行ス府縣ニ於テ他人ニ對シ義務ヲ負擔スヘキ證書及委任狀ニハ知事ノ外名譽職參事會員二名以上之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ文書中府縣會又ハ參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ其議事ヲ經タルモノハ總テ其旨ヲ記スヘシ

第六十三條 府縣會ニ於テ參事會員ヲ選舉セス又ハ參事會成立セス又ハ召集ニ應ゼサルトキハ參事會成立シ又ハ召集ニ應ズル迄府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決スルコトヲ得

第六十四條 府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決スルコトヲ得

第六十五條 府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決スルコトヲ得

第六十六條 府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決スルコトヲ得

第六十七條 府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決スルコトヲ得

第六十八條 府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決スルコトヲ得

第六十九條 府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決スルコトヲ得

第七十條 府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決スルコトヲ得

第七十一條 府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決スルコトヲ得

第七十二條 府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決スルコトヲ得

第七十三條 府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決スルコトヲ得

第四章 府縣ノ會計

第六十三條 府縣稅及備荒儲蓄金ノ經濟ニ屬スル財産及營造物並ニ備荒儲蓄金ハ此法律施行ノ日ヨリ府縣ノ所有トス

第六十四條 府縣有財産ノ賣買貸借又ハ建築工事及物品調達ノ請負ハ總テ公ノ競争ニ付スヘシ但特ニ府縣會ノ承認ヲ得ルモノハ此限ニ在ラス

第六十五條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十六條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十七條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十八條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十九條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十一條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十二條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十三條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十四條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十五條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十六條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十七條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十八條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十九條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八十條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八十一條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八十二條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八十三條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八十四條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八十五條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八十六條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八十七條 府縣會ノ權利義務ニ關スル事項ハ府縣會ノ規定ヲ設クルコトヲ得



當スル收入額ヲ減殺スヘシ

第九十八條 內務大臣ハ府縣條例又ハ府縣令ノ規定公益ヲ害シ法律命令ニ背キ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中止セシムルコトヲ得

第九十九條 府縣會ノ解散ハ勅令ヲ以テス此場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ改選スヘシ

前項解散ノ場合ニ於テハ參事會員モ亦解職スルモノトス

府縣會解散後改選結了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルトキハ府縣知事ハ專決處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ報告スヘシ

第一百條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ府縣債ヲ起シ又其額ヲ増加シ若ハ償還ノ方法ヲ變更スルコト

二 地租四分ノ一ヲ超過スル府縣稅ヲ土地ニ賦課スルコト

三 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ下渡ス歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムルコト

第一百一條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 府縣條例ヲ設ケ或ニ改正スルコト

二 府縣有不動産ノ賣却讓渡或ニ質入書入ノコト

三 第八十二條ニ依リ府縣內ノ或部分ニ對シ特ニ夫役現品ヲ増課スルコト

四 第八十五條第二項ニ依リ繼續費ヲ定メ及其年期内ニ議決ヲ變更スルコト

第六章 附則

第一百二條 市制町村制實施ノ爲メ定ムル直接稅ノ種類ハ此法律ノ施行ニ付テモ亦之ヲ適用ス市制町村制郡制及此法律施行ノ爲將來ノ諸稅ニ付直接稅トナスヘキモノハ內務大臣大藏大臣之ヲ告示スヘシ

第一百三條 此法律ハ郡制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノトス其施行ハ明治二十八年四月一日ヨリ施行スルモノトス

第一百四條 此法律施行ノ後ハ市制第二百二十二條第三ニ定ムル附加稅徵收ノ許可ハ郡市分別シタル市ニ在リテ地租二分ノ一其他市ニ在テハ四分ノ一其他ノ直接國稅ニ於テハ其稅額ヲ超過スルトキ之ヲ要スルモノトス

第一百五條 府縣內ニ在ル島嶼ノ其本地ニ對スル關係ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設ケ

第一百六條 明治十三年四月第十五號布告府縣會規則明治十四年二月第八號布告區郡部會規則明治二十二年二月法律第六號府縣會議員選舉規則其他此法律ニ牴觸スル成規ハ此法律施行ノ府縣ニ於テ其施行時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第一百七條 內務大臣ハ此法律施行ノ責ニ任シ之カ爲必要ナル命令ヲ發布スヘシ

(田健吉君演壇ニ登ル)

○田健吉君(二百九十一番) (二)簡單々々ト呼フ者アリ(簡單ニヤリマス、此

衆議院議事速記第六號

明治二十七年五月二十二日

質屋取締條例改正法律案

第一讀會

一四七

府縣制ノ改正法律案ノ議事日程ニナリマシタデ、實ハ此修正ノ趣意ヲ陳述シヤウト思ヒマシタケレドモ、是ハ到底委員會デツレノ審查ニナルコトデゴザリマスカラ、委員ニ申込デモ宜カラウト思ヒマス、別段演說ハ致シマセヌ

○大久保端造君(二百七十二番) 此案ハ矢張郡制改正法律案ト云フモノニ餘程似テ居リマスカラ、前委員ニ託スルト云フコトニ

○議長(楠本正隆君) 二百七十二番ノ本案ヲ前委員ニ付託スルト云フ……(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)然レバ決定セラレタモノト致シマス

第八 質屋取締條例改正法律案

(東尾平太郎君外六名提出)

○議長(楠本正隆君) 第八ニ移リマス、是モ朗讀ヲ省キマス

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲メ茲ニ掲載ス)

質業取締法

第一條 此法律ニ規定セル質業トハ動產物ヲ質ニ取り金錢ヲ貸付スルモノヲ云フ

第二條 質業ヲ營ムモノハ管轄廳東京府ハノ免許ヲ受クヘシ

第三條 質業ヲ營ムモノハ質物臺帳質置主人名帳流質物賣拂帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受クヘシ

但本條ノ帳簿ハ使用ノ後三年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ其旨ヲ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第四條 第三條ニ規定セル帳簿ノ記載方ハ左ノ例ニ據ル

一 質物臺帳ニハ質物ノ種類貸金質置主ノ氏名入質出質及其年月日番號等ヲ詳記スヘシ

一 質置主人名帳ニハ質置主ノ住所氏名ヲ記シ捺印セシメ置クヘシ證人アルトキ又同シ

但質置主又ハ證人ニシテ此帳簿ニ記名捺印ナキモノハ其取引ノ都度質物臺帳ニ各住所氏名ヲ詳記シ捺印セシメ置クヘシ

一流質物賣拂帳ニハ流質物ヲ賣拂ヒタルトキ質物臺帳ニ因リ其物品ノ種類番號ヲ記シ且買主ノ住所氏名ヲ附記スヘシ

第五條 轉居廢業其他營業上異動ヲ生スル場合ハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第六條 法律ニ於テ賣買授受ヲ禁シタル物件ヲ質物ニ取ルコトヲ得ス犯ス者ハ直ニ官沒シ又ハ所有主ヘ還付セシム

第七條 定リタル住所ナキモノ營生ノ産業審カナラサルモノ十五年未滿ノ者白痴癡癪人又ハ官廳府縣市郡町村等ノ公然ノ共有ニ屬スル名號印章アル物件ハ其事實ヲ證明スル證人アル歟若クハ質入シ得ヘキ手續明カナルモノニアラサレハ取引スルコトヲ得ス

第八條 贓物ノ疑ヒアル物品ヲ入質セントスルモノアルトキハ警察官吏ニ密告スヘシ

第九條 警察官吏ハ質業者ノ店舖ニ臨ミ質物及帳簿ノ檢査ヲ爲シ若シ贓物ノ疑ヒアル物品ト認ムルトキハ日數十日以内ヲ限リ其質出及流質賣拂ヲ差止ルコトアルヘシ

第十條 警察官吏ハ質業者ノ店舖ニ臨ミ質物及帳簿ノ檢査ヲ爲シ若シ贓物ノ疑ヒアル物品ト認ムルトキハ日數十日以内ヲ限リ其質出及流質賣拂ヲ差止ルコトアルヘシ

第十一條 警察官吏ハ質業者ノ店舖ニ臨ミ質物及帳簿ノ檢査ヲ爲シ若シ贓物ノ疑ヒアル物品ト認ムルトキハ日數十日以内ヲ限リ其質出及流質賣拂ヲ差止ルコトアルヘシ

第十二條 警察官吏ハ質業者ノ店舖ニ臨ミ質物及帳簿ノ檢査ヲ爲シ若シ贓物ノ疑ヒアル物品ト認ムルトキハ日數十日以内ヲ限リ其質出及流質賣拂ヲ差止ルコトアルヘシ

第十三條 警察官吏ハ質業者ノ店舖ニ臨ミ質物及帳簿ノ檢査ヲ爲シ若シ贓物ノ疑ヒアル物品ト認ムルトキハ日數十日以内ヲ限リ其質出及流質賣拂ヲ差止ルコトアルヘシ

第十四條 警察官吏ハ質業者ノ店舖ニ臨ミ質物及帳簿ノ檢査ヲ爲シ若シ贓物ノ疑ヒアル物品ト認ムルトキハ日數十日以内ヲ限リ其質出及流質賣拂ヲ差止ルコトアルヘシ

第十五條 警察官吏ハ質業者ノ店舖ニ臨ミ質物及帳簿ノ檢査ヲ爲シ若シ贓物ノ疑ヒアル物品ト認ムルトキハ日數十日以内ヲ限リ其質出及流質賣拂ヲ差止ルコトアルヘシ

第十條 家族又ハ傭人ノ所爲ト雖モ營業主其責ニ任ス  
第十一條 此法律ニ違反者ハ左ノ區別ニ從ヒ處罰ス  
一 第二條第四條第七條及第九條ニ違反シタルモノ又ハ詐欺ノ居出ヲ爲シタルモノ停止中營業ヲ爲シタルモノハ三圓以上三十圓以下ノ罰金  
二 第三條第五條第六條ノ前文及第八條ニ違反シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金

第十二條 此法律ヲ一箇年內ニ再犯シタルモノハ其情狀ニ依リ行政ノ處分ヲ以テ三年以內營業ヲ停止スルコトアルヘシ  
第十三條 此法律ノ規定ニ遵ヒ預リタル質物ニシテ贓品ナルトキハ犯人ト直接ノ取引ニ涉ルモノ、外其還給上質置主又ハ被害者ヨリ原價ヲ償ハシム

第十四條 此法律ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス  
第十五條 此法律ニ關スル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 此法律ハ明治二十七年九月ヨリ施行ス  
第十七條 此法律施行以前ニ係ル質契約ニ付テハ契約當時ノ現行條例ヲ適用ス  
第十八條 明治十七年第九號布告質屋取締條例ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

(東尾平太郎君演壇ニ登ル)  
○東尾平太郎君(二百三十八番) (「簡單々々」ト呼フ者アリ) 勿論簡單ニヤリマス、此問題ハ昨年來ノ宿論ニ成ツテ居リマスガ、先刻請願委員長ヨリモ質屋條例改正案ヲ採用スルト報道シテ政府モ同意シテ居リマスカラ、別段説明ハ致シマス、直ニ委員ニ付セラレンコトヲ……

(「議長ノ指名」ト呼フ者アリ)  
○大久保端造君(二百七十二番) 質屋條例ト郡制改正案トハ違ヒマスカラ、矢張議長ノ指名デ委員ニ託サレンコトヲ希望致シマス  
○佐々木正藏君(百四十五番) 質屋取締條例改正案ハ本員モ出シテ居リマスカラ、併セテ此委員ニ付託セラレンコトヲ請求致シマス、委員說ニ賛成致シマス

○議長(楠本正隆君) 然レバ議長ノ指名ニ御託シニナル(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)ソレデハ決シマス、(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ) 茲ニ於テ先刻齋藤珪次君ノ動議ニ決シタル委員ヲ直ニ選ムベシト云フ注文モゴザリマシタガ、是ハ珪次君才ノ請求才デアッテ、貴重ナル問題デアルカラ(「直ニ直ニ證據物ガアル」ト呼フ者アリ)明日報告ヲ致シマス(「ひやく」ト呼フ者アリ)議事日程ヲ朗讀致シマス

(水野書記官朗讀)  
議事日程 第七號 明治二十七年五月二十三日  
午後一時開議

第一(甲) 鐵道比較線路決定ニ關スル法律案(政府提出)  
第一讀會ノ續(特別委員)

第二(乙) 鐵道比較線路決定ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員)  
第三(丙) 鐵道比較線路決定ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員)  
第四(丁) 鐵道比較線路決定ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員)  
第五(戊) 鐵道比較線路決定ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員)  
第六(己) 鐵道比較線路決定ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員)  
第七(甲) 豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ノ件ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員)  
第八(乙) 豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ノ件ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員)  
第九(丙) 豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ノ件ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員)  
第十 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員)  
第十一 國稅徵收法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員)  
第十二 明治二十二年勅令第四百一十一號第一條改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員)  
第十三 明治二十三年法律第四號中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員)  
第十四 東京砲兵工廠据置運轉資本増加ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員)  
第十五 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉(政府提出緊急事件) 第一讀會  
第十六 震災地方未納地租延納法案(小室重弘君外八名提出) 第一讀會  
第十七 府縣非常土木費國庫補助法案(林有造君外三名提出) 第一讀會  
○議長(楠本正隆君) 茲ニ於テ散會ヲ致シマス  
午後五時三十分散會

衆議院議事速記第四號正誤  
頁 行 誤 正  
八五 上 三一 國務ノ急務 國家ノ急務  
衆議院議事速記第五號正誤  
頁 段 行 誤 正  
一〇六 上 二九 配分 配布